0012168000

0012168-000

法令

CZ－15－A－1

朝鮮六法

日本法曹会・編

聖文社

1939

ACA

新新
語文簡朝

新輯 朝鮮六法

附 條文 參照

倭政時代の

日本法曹會編輯

新輯 朝鮮六法

參照條文附

日本法曹會出版部

一、大衆を本位とする內地六法の數は實に枚擧に暇のない程でありながら、朝鮮版六法に至つては未だに其の一をも數ふることの出來ないことの、不便は半島識者は勿論學究の士乃至は實務家の夙に痛感せられつゝあることゝ信じ、弊社は多大の犧牲を拂つて上梓したるものが卽ち本書である。本書が幸ひにも朝鮮文化に、內鮮融和に、幾分でも貢獻し實務家の伴侶となり學究の士の一助ともなればば出版者として望外の幸である。

一、本書出版の計畫をたてゝから既に一ヶ年以上を經過した、最初は三四ヶ月もあればと考へたが、さて實行にかゝつて見ると仲々簡單には行かない、幾多の曲折を經て漸く出版の運びとなつたものであるが、兎に角朝鮮六法大衆版への先鞭をつけたことを欣快とするものである。然し乍ら振返つて見るに尙完璧といふには未しの點も多々あれば是等は版を追ふて足らざるを補ひ、本書をして朝鮮版六法の大衆向き決定版たらんことに弊社は微力を致さんとするものである。

一、本書中參照條文を附したるは現在のところ主幹法に止めた、しかし乍ら今後相當廣範圍に之を實行するの準備を整へてゐる。收錄法令は內鮮を通じて二百有餘之を檢索上十部門に分ち、主として實社界に交涉の多い、法令を特に撰んで編輯したものなれば量以上に質のあるものなることを確信するものである。

CZ
15
A-1

43.10.19
朝鮮總督府圖書館

772986

帝國憲法

帝國憲法目次

大日本帝國憲法（明二二）

告文……一
憲法發布勅語……一
第一章　天皇……二
第二章　臣民權利義務……二
第三章　帝國議會……三
第四章　國務大臣及樞密顧問……三
第五章　司法……三
第六章　會計……四
第七章　補則……四

皇室典範（明二二）

第一章　皇位繼承……五
第二章　踐祚卽位……五
第三章　成年立后立太子……五
第四章　敬稱……五
第五章　攝政……五
第六章　太傅……六
第七章　皇族……六
第八章　世傳御料……六
第九章　皇室經費……六
第十章　皇族訴訟及懲戒……六
第十一章　皇族會議……六
第十二章　補則……七

皇室典範增補（明四〇）

御告文……七

皇室典範增補（大七）

……七

登極令（明四二—皇令一）

……八

攝政令（明四二—皇令二）

……八

五儲令（明四二—皇令三）

……九

皇族會議令（明四〇—皇令一）

……九

議院法（明二二—法二）

第一章　帝國議會ノ召集成立及開會……一〇
第二章　議長書記官及經費……一〇
第三章　議長副議長及議員歲費……一〇
第四章　委員……一一
第五章　會議……一一
第六章　停會閉會……一一
第七章　秘密會議……一一
第八章　豫算案ノ議定……一二
第九章　國務大臣及政府委員……一二
第十章　質問……一二
第十一章　上奏及建議……一二
第十二章　兩議院關係……一二
第十三章　請願……一二
第十四章　議院ト人民及官廳地方議會ノ關係……一三
第十五章　退職及議員資格ノ異議……一三
第十六章　請暇辭職及補闕……一四
第十七章　紀律及警察……一四
第十八章　懲罰……一四

貴族院令（明二二—勅一一）

……一五

貴族院令第六條ノ議員選擧ニ付衆議院議員選擧法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律（大一四—法四八）

……一六

貴族院伯子男爵議員選擧規則（明二二—勅七八）

……一六

貴族院帝國學士院會員議員互選規則（大一四—勅二三三）

……一七

貴族院多額納稅者議員互選規則（大一四—勅二三四）

……一九

貴族院多額納稅者議員ノ定數（大一四—認書）

……二三

衆議院議員選擧法（大一四—法四七）

第一章　選擧ニ關スル區域……二四

第二章　選擧權及被選擧權……二五
第三章　選擧人名簿……二五
第四章　選擧、投票及投票所……二六
第五章　開票及開票所……二八
第六章　選擧會……二八
第七章　議員候補者及當選人……二九
第八章　議員ノ任期及補闕……三一
第九章　訴訟……三一
第十章　選擧運動……三三
第十一章　選擧運動ノ費用……三四
第十二章　罰則……三五
第十三章　補則……三九
別表……四一

衆議院議員選擧法施行令（大一五—勅三）

第一章　選擧區、選擧權及被選擧權……四九
第二章　選擧人名簿……四九
第三章　投票……四九
第四章　衆議院議員選擧法第三十三條ノ投票……五〇
第五章　開票……五四
第六章　選擧會……五四
第七章　議員候補者及當選人……五五
第八章　選擧運動……五五
第九章　選擧運動ノ費用……五六
第十章　選擧ニ關スル費用……五七
第十一章　無料郵便物ノ差出……五七
第十二章　公立學校等ノ設備ノ使用及其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營……五八
第十二章ノ二　選擧公報ノ發行……六一
第十三章　交通至難ノ島嶼ニ於ケル特例……六一
第十三章ノ二　市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル選擧ノ施行……六三
第十四章　補則……六四
附則……六四

衆議院議員ノ選擧權ニ關スル法律（大一五—法五五）

……六四

衆議院議員選擧運動等取締規則（昭九—內令三六）

第一章　選擧事務所……六四
第二章　選擧運動ノ爲使用スル勞務者……六四
第三章　選擧運動ノ爲使用スル文書圖書……六四
第四章　選擧ノ期日後ニ於ケル挨拶……六五
第五章　選擧運動ノ費用……六五
第六章　罰則……六六
別表……六六
附則……六八

會計法（大一〇—法四二）

第一章　總則……六八
第二章　豫算……六八
第三章　收入……六九
第四章　支出……六九
第五章　決算……六九
第六章　歲計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入……七〇
第七章　契約……七〇
第八章　時效……七〇
第九章　出納官吏……七〇
第十章　雜則……七一
附則……七一

會計規則（大一一—勅一、昭八—勅三三〇）

第一章　總則
第一節　會計年度所屬區分……七一
第二節　國庫金ノ出納……七一
第二章　豫算
第一節　總豫算……七二
第二節　歲入豫算明細書……七二
第三節　豫定經費要求書……七二
第四節　支拂豫算……七二
第五節　豫備金支出……七二

第六節　翌年度ニ亙ル契約……七三
第三章　收入
第一節　徵收……七三
第二節　收納……七三
第三節　報告……七三
第四章　支出
第一節　總則……七三
第二節　小切手ノ振出……七四
第三節　支拂……七四
第四節　資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費……七四
第五節　繰替拂……七五
第六節　年度開始前支出……七六
第七節　報告……七六
第五章　決算……七六
第一節　總決算……七六
第二節　歲入決算明細書、各省決算報告書及收入支出決算書……七六
第三節　國債計算書……七六
第六章　定額繰越及定額戻入
第一節　定額繰越……七六
第二節　定額戻入……七七
第七章　契約
第一節　總則……七七
第二節　一般競爭契約……七八
第三節　指名競爭契約……七九
第四節　隨意契約……七九
第八章　保管金及有價證券……八〇
第九章　出納官吏
第一節　總則……八〇
第二節　責任……八一
第三節　檢査及證明……八一
第十章　日本銀行ノ計算報告及出納證明……八二
第十一章　帳簿……八二
第十二章　雜則……八三
附則……八五

法例（明三一—法一〇）

……八七

公式令（明四〇—勅六）

……八九

軍令ニ關スル件（明四〇—軍令一）

……九〇

共通法（大七—法三九）

……九二

樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律（明四〇—法二五）

……九二

樺太ニ施行スル法律ノ特例ニ關スル件（大九—勅一二四）

……九二

朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律（明四四—法三〇）

……九四

臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律（大一〇—法三）

……九四

臺灣ニ施行スル法律ノ特例ニ關スル件（大一一—勅四〇七）

第一章　通則……九五
第二章　民事ニ關スル特例
第一節　民事ニ關スル特例……九五
第二節　商法、小切手法及破產法ニ關スル規定……九六
第三節　民事訴訟法ニ關スル規定……九六
第四節　不動產登記法ニ關スル規定……九七
第五節　雜則……九七
第三章　刑事ニ關スル特例……九七

文官任用令（大二—勅二六一）

……九八

文官分限令（明三二—勅六二）

……九九

文官分限委員會官制（昭七—勅二五四）

第一章　文官高等分限委員會……一〇〇
第二章　文官普通分限委員會……一〇一
第三章　手續……一〇二

官吏服務紀律（明二〇—勅三九）

……一〇二

高等試驗令（昭四—勅一五）

……一〇三

高等試驗令施行細則（大七—閣令一）……一四六
高等試驗施行要綱（昭四—內閣告示一）……一四六
高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件（大七—文令三）……一四七
高等試驗ノ受驗資格ニ關スル件（大一二—勅一九七）……一四八
請願令（大六—勅三七）……一四九
恩給法（大一二—法四八）
第一章　總則……一一〇
第二章　公務員
第一節　通則……一一二
第二節　恩給金額……一一八
第三章　遺族……一二一
別表……一二七
附則……一二一
朝鮮ニ於ケル法令ノ效力ニ關スル件（明四三—制令一）……一二三
制令ニ於テ法律ニ依ルノ規定アル場合ニ於テ其ノ法律ノ改正アリタルトキノ效力ニ關スル件（明四四—制令一一）……一二三
朝鮮陸軍特別志願兵令（昭一二—勅九五）……一二三
朝鮮總督府陸軍兵志願者訓練所官制（昭一三—勅一五六）……一二三
陸軍特別志願兵令施行規則（昭一三—省令一一）……一二四
國家總動員法ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スルノ件（昭一三—勅三一六）……一二六

大日本帝國憲法

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ
皇祖
皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク
皇祖
皇宗ノ遺訓ヲ明徵ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ內ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ不基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ增進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆
皇祖
皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ擧行スルコトヲ得ルハ洵ニ
皇祖
皇宗及我カ
皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ
皇祖
皇宗及
皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ラサラムコトヲ誓フ庶幾クハ
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕カ臣民ハ卽チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ奬順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺風ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ
朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ卽チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ增進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム
國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ
朕ハ我カ臣民ノ權利及財產ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍內ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス
帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效ナラシムルノ期トスヘシ
將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ
朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣　伯爵　黑田清隆
樞密院議長　伯爵　伊藤博文
外務大臣　伯爵　大隈重信
海軍大臣　伯爵　西鄕從道
農商務大臣　伯爵　井上馨

司法大臣伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣伯爵松方正義
陸軍大臣伯爵大山巖
文部大臣子爵森有禮
遞信大臣子爵榎本武揚

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス此勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ增進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ揭ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
戒嚴ノ要件及效力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル
攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラルルコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サルルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルルコトナシ
公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ揭ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ揭ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選擧法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經「ルヲ要ス」

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ
衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選擧セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以內ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナル片ハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ祕密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ揭クルモノノ外內部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ內亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルルコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス
凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ
裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルルコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ每年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ每年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來增額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ內外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其ノ檢査報告ト倶ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

「定ム」會計檢査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ效力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

皇室典範（明治二十二年二月十一日）

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ實祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徵ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等內ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ「ヲ行フ」

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ「成年トス」以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太子トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃內親王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亙ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王
第二 皇后
第三 皇太后
第四 太皇太后
第五 內親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ從來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序

ヲ換フルコトヲ得

第六章　太傅

第二十六條　天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條　先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條　太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條　攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章　皇族

第三十條　皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條　皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條　天皇支系ヨリハテ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王及王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條　皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條　皇統譜及前條ニ關ル記錄ハ圖書寮ニ於テ尚藏ス

第三十五條　皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條　攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行「ス」

第三十七條　皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官僚ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選擧セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條　皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族「ニ限ル」

第三十九條　皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條　皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條　皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條　皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　皇族國籍ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條　皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章　世傳御料

第四十五條　土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條　世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章　皇室經費

第四十七條　皇室諸費ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條　皇室經費ノ豫算決算檢査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章　皇族訴訟及懲戒

第四十九條　皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條　人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條　皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條　皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條　皇族濫產ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治產ノ禁ヲ宣告シ其管財者ヲ任スヘシ

第五十四條　前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章　皇族會議

第五十五條　皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司

法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條　天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章　補則

第五十七條　現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條　皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ「廢ス」

第五十九條　親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ

第六十條　親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條　皇族ノ財產歲費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條　將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

皇室典範增補（明治四十年二月十一日）

御告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ告ケ白サク皇室典範ハ

皇祖

皇宗ノ遺範ヲ明徵ニシ天壤無窮ノ宏基ヲ鞏固ニスル所以ニシテ紹述以來爰ニ十有九年皇朕レ我カ諸昆ト俱ニ之ニ欽遵シテ敢テ違越スルコトナシ今ヤ國祺倍々隆昌ニシテ

皇祖

皇宗ノ威靈遐ク四裔ニ顯赫タルノ時ニ膺リ進運ヲ照察シ威典ヲ增益シ以テ尊嚴保維ノ圖ヲ廓ニシ子孫率由ノ道ヲ裕ニスルハ亦

皇祖

皇宗聖謨ノ存スル所ニ外ナラス皇朕レ玆ニ皇室典範增補ヲ制定シ仰テ

皇祖

皇宗ノ神祐ヲ禱リ永遠ニ履行シテ愆ラサラムコトヲ誓フ庶幾クハ

神靈此ヲ鑒ミタマヘ

天祐ヲ享有シタル我カ日本帝國皇家ノ成典ハ祖宗ノ洪範ヲ紹述シテ敢テ違フコトアルナシ而シテ人文ノ發展ハ寰宇ノ進運ニ隨ヒ制度ノ條備ハ條章ノ增廣ヲ必トス是ノ時ニ當リ朕ハ祖宗ノ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスル所以ノ良圖ヲ惟ヒ且憲章ニ由テ以テ皇族ノ分義ヲ昭ニセムコトヲ欲シ玆ニ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室典範增補ヲ裁定シ朕カ子孫及臣民ヲシテ之ニ率由シテ愆ルコトナキヲ期セシム

皇室典範增補

第一條　王ハ勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアルヘシ

第二條　王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得

第三條　前二條ニ依リ臣籍ニ入リタル者ノ妻直系卑屬及其ノ妻ハ其ノ家ニ入ル但シ他ノ皇族ニ嫁シタル女子及其ノ直系卑屬ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　特權ヲ剝奪セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘシ　前項ニ依リ臣籍ニ降サレタル者ノ妻ハ其ノ家ニ入ル

第五條　第一條第二條第四條ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經ヘシ

第六條　皇族ノ臣籍ニ入リタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス

第七條　皇族ノ身位其他ノ權義ニ關スル規程ハ此典範ニ定メタルモノノ外別ニ之ヲ定ムヘキ法規ヲ異ニスルトキハ前項ノ規程ニ依ル

第八條　法律命令中皇族ニ適用スヘキモノトシタル規定ハ此典範又ハ之ニ基キ發スル規則ニ別段ノ條規ナキトキニ限リ之ヲ適用ス

皇室典範增補（大正七年十一月二十八日）

朕惟フニ祖宗ノ遺範ヲ紹述シ時ニ隨ヒ宜ヲ制シ以テ國運ノ進展ニ順應スルハ皇考ノ宏謨ニシテ朕ノ率循スル所ナリ今ヤ皇家ノ成典ヲ增

廣スルノ要ヲ認メ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室典範增補ヲ裁定シ茲ニ之ヲ公布セシム

皇室典範增補

皇族女子ハ王族又ハ公族ニ嫁スルコトヲ得

登極令（明治四十二年二月十一日皇室令第一號）

改正、昭和二一皇令一七

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ登極令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　天皇踐祚ノ時ハ卽チ掌典長ヲシテ賢所ニ祭典ヲ行ハシメ且踐祚ノ旨ヲ皇靈殿神殿ニ奉告セシム

第二條　天皇踐祚ノ後ハ直ニ元號ヲ改ム

元號ハ樞密顧問ニ諮詢シタル後之ヲ勅定ス

第三條　元號ハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四條　卽位ノ禮及大嘗祭ハ秋冬ノ間ニ於テ「フ」之ヲ行フ

大嘗祭ハ卽位ノ禮ヲ訖リタル後續テ之ヲ行フ

第五條　卽位ノ禮及大嘗祭ヲ行フトキハ其ノ事務ヲ掌理セシムル爲宮中ニ大禮使ヲ置ク

大禮使ノ官制ハ別ニ之ヲ定ム

第六條　卽位ノ禮及大嘗祭ヲ行フ期日ハ宮內大臣之ヲ國務各大臣ノ速署ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條　卽位ノ禮及大嘗祭ヲ行フ期日定マリタルトキハ之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ勅使ヲシテ神宮神武天皇山陵並前帝四代ノ山陵ニ奉幣セシム

第八條　大嘗祭ノ齋田ハ京都以東以南ヲ悠紀ノ地方トシ京都以西以北ヲ主基ノ地方トシ其ノ地方ハ之ヲ勅定ス

第九條　悠紀主基ノ地方ヲ勅定シタル片ハ宮內大臣ハ地方長官ヲシテ齋田ヲ定メ其所有者ニ對シ新穀ヲ供納スルノ手續ヲ爲サシム

第十條　稻實成熟ノ期至リタルトキハ勅使ヲ發遣シ齋田ニ就キ拔穗ノ式ヲ行ハシム

第十一條　卽位ノ禮ヲ行フ期日ニ先タチ天皇神器ヲ奉シ皇后ト共ニ京都ノ皇宮ニ移御ス

第十二條　卽位ノ禮ヲ行フ當日勅使ヲシテ之ヲ皇靈殿神殿ニ奉告セシム

大嘗祭ヲ行フ當日勅使ヲシテ神宮皇靈殿神殿並官國幣社ニ奉幣セシム

第十三條　大嘗祭ヲ行フ前一日鎭魂ノ式ヲ行「フ」

第十四條　卽位ノ禮及大嘗祭ハ附式ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

第十五條　卽位ノ禮及大嘗祭訖リタルトキハ大饗ヲ賜フ

第十六條　卽位ノ禮及大嘗祭訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ神宮神武天皇山陵並前帝四代ノ山陵ニ謁ス

第十七條　卽位ノ禮及大嘗祭訖リテ東京ノ宮城ニ還幸シタルトキハ天皇皇后ト共ニ皇靈殿神殿ニ謁ス

第十八條　諒闇中ハ卽位ノ禮及大嘗祭ヲ行ハ「ス」

附則　（昭和二年皇室令第十七號附式）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（附式略ス）

攝政令（明治四十二年二月十一日皇室令第二號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ攝政令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　攝政就任スル時ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所ニ祭典ヲ行ヒ且就任ノ旨ヲ皇靈殿神殿ニ奉告ス

第二條　攝政ヲ置キタルトキ又ハ攝政ノ更迭アリタルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第三條　攝政ヲ置ク間御名ヲ要スル公文ハ攝政御名ヲ書シ且其名ヲ署スルノ外天皇大政ヲ親ラスルトキト形式ヲ異ニスルコトナシ

第四條　攝政ハ其ノ任ニ在ル間刑事ノ訴追ヲ受クルコトナシ

第五條　攝政止ミテ天皇大政ヲ親ラスルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

（附式略ス）

立儲令（明治四十二年二月十一日皇室令第三號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ立儲令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

立儲令

第一條　皇太子ヲ立ツルノ禮ハ勅旨ニ由リ之「ヲ」行フ

第二條　立太子ノ禮ヲ行フ期日ハ宮內大臣之「ヲ」公告ス

第三條　立太子ノ禮ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ勅使ヲシテ神宮神武天皇山陵並先帝ノ山陵ニ奉幣セシム

第四條　立太子ノ禮ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ「ヲ」公布ス

第五條　立太子ノ詔書ハ其ノ禮ヲ行フ當日之

第六條　立太子ノ禮訖リタルトキハ皇太子皇太子妃ト共ニ賢所皇靈殿神殿ニ謁ス

第七條　立太子ノ禮訖リタル時ハ皇太子皇太子妃ト共ニ天皇皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス

第八條　立太子ノ禮訖リタリトキハ宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ

第九條　前各條ノ規定ハ皇太孫ヲ立ツルノ禮ニ之ヲ準用ス

（附式略ス）

皇族會議令（明治四十年二月二十八日皇室令第一號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇族會議令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

皇族會議令

第一條　皇族會議ハ勅命ヲ以テ之ヲ召集ス

第二條　皇族會議ハ皇室典範第十九條第二項ノ場合ニ於テハ攝政タルヘキ順位ニ在ル成年皇族男子之ヲ召集ス

第三條　皇族會議ハ皇室典範第二十五條ノ場合ニ於テハ次ニ攝政タルヘキ順位ニ在ル成年皇族男子之ヲ召集ス

第四條　前二條ノ場合ニ於テ皇族會議ノ召集ハ成年皇族男子三分ノ一以上又ハ樞密顧問ノ請求ニ依リ之ヲ行フ

第五條　皇族會議ハ皇室典範第九條第六十二條ノ場合ニ於テハ皇族會議員三分ノ二以上其ノ他ノ場合ニ於テハ半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　皇族會議ハ皇室典範第十九條第二項第二十五條ノ場合ニ於テハ會議ヲ召集シタル皇族ヲ以テ議長トス但シ會議ヲ召集シタル皇族出席セサルトキハ出席者中上席者ヲ以テ議長トス

第七條　皇室典範第五十五條ニ依リ皇族會議ニ參列スル者ハ議事ニ就キ意見ヲ陳述スルコトヲ得ルモ表決ノ數ニ加ハラス

第八條　皇族會議ノ議事ハ皇室典範第九條第六十二條ノ場合ニ於テハ出席者三分ノ二以上ノ多數ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ過半數ニ依リ之ヲ決ス

第九條　皇族會議員ハ自己ノ利害ニ關係スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

前項利害關係ノ有無ニ付キ疑議アルトキハ皇族會議之ヲ決ス

第十條　皇族會議ノ議決ハ天皇議事ヲ統理セラレサルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏スヘシ

第十一條　皇室典範第十九條第二項第二十五條ノ場合ニ於テ皇族會議ノ議決アリタルトキハ皇族會議ノ議長ハ宮內大臣ヲシテ之ヲ樞密院議長ニ通報セシム

樞密顧問ノ請求ニ依リ皇族會議ヲ召集シタル場合ニ於テ其ノ議決樞密顧問ノ議決ト一致シタルトキハ皇族會議ノ議長ハ宮內大臣ヲシテ之ヲ內閣總理大臣ニ通報セシム

第十二條　皇族會議ノ議ニ付セラレタル議案ニ就テハ宮內大臣ヲシテ說明ノ任ニ當ラシム但シ必要ノ場合ニ於テハ特ニ說明委員ヲ勅選セラルルコトアルヘシ

第十三條　皇族會議ニ關スル事務ハ宮內大臣之ヲ管掌ス

皇族會議ノ議事ハ宮內高等官ヲシテ筆記セシメ宮內大臣之ニ署名ス

第十四條　皇族會議ノ記錄ハ圖書寮ニ於テ之ヲ尙藏ス

議院法

（明治二十二年二月十一日法律第二號）

改正
明治三二－法律一〇〇
明治三九－法律四九
大正五－法律四〇
大正九－法律八
大正一四－法律三二
昭和二－法律五三

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

議院法

第一章　帝國議會ノ召集成立及開會

第一條　帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條　議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條　衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ選擧セシメ其ノ中ヨリ議長副議長ノ勅任セラルヽマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條　各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部部長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條　兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章　議長書記官及經費

第七條　各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス

第八條　衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條　衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條　各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條　議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條　議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條　各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條　各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選擧シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條　各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルヽマテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條　各議院ニ書記官長一人書記官數人書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事錄及其ノ他ノ文書案ヲ作リ事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員中判任官以下ハ書記官長之ヲ任ス（大正五年法律第四十號ヲ以テ本項改正）「ス」

第十八條　兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出

第三章　議長副議長及議員歲費

第十九條　各議院ノ議長ハ歲費トシテ七千五百圓副議長ハ四千五百圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ三千圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス（明治三十二年法律第百號、大正九年法律第八號ヲ以テ本項改正）

議長副議長及議員ハ歲費ヲ辭スルコトヲ得

（明治三十二年法律第百號ヲ以テ本項改正）

官吏ニシテ議員タル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歲費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第十九條ノ二　各議院ノ議長副議長又議員ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ無賃ニテ國有鐵道ニ乘車スルコトヲ得（大正十四年法律第三十二號ヲ以テ本條追加）

第四章　委員

第二十條　各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三種トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選擧シ一會期中其ノ任ニアルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選擧ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條　全院委員長ハ一會期ニ付テ開會ノ始ニ於テ之ヲ選擧ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條　全院委員會ハ議員三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條　各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條　各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章　會議

第二十五條　各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條　政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス

但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スヲコト得ス

第三十條　政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條　凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議院ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條　兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルヽモノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章　停會閉會

第三十三條　政府ハ何時タリトモ十五日以內ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條　衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條　帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ擧行スヘシ

第七章　秘密會議

第三十七條　各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公會ヲ停ムルコトヲ

一　議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二　政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條　議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ハ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用キスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條　秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サ「ス」

第八章　豫算案ノ議定

第四十條　政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ（明治三十九年法律第四十九號ヲ以テ本條改正）

豫算案カ貴族院ニ移サレタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ（昭和二年法律第五十三號ヲ以テ本項追加）

各議院ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ議決ヲ以テ審査期間ヲ延長スルコトヲ得但其ノ期間ハ通シテ五日ヲ超ユルコトヲ得ス（大正十四年法律第三二號ヲ以テ本項追加）

第四十一條　豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章　國務大臣及政府委員

第四十二條　國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條　議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條　委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條　國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條　常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報告スヘシ

第四十七條　議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章　質問

第四十八條　兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作リ賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條　質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若シ答辯ヲ爲サヽルトキハ其ノ理由ニ示明スヘシ

第五十條　國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章　上奏及建議

第五十一條　各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ提出スヘシ

第五十二條　各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十名以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章　兩議院關係

第五十三條　豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ內何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條　甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條　乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條　兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ選擧シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取リ又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條　國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條　兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條　兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用ヒ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條　兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　本章ニ定ムル所ノ外兩議院交涉事務ノ規定ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章　請願

第六十二條　各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條　請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條　請願委員ハ請願文書表ヲ作リ其ノ要領ヲ錄シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條　各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條　法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條　各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條　請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條　請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條　各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條　各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章　議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條　各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條　各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條　各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムル時ハ政府ハ秘密ニ渉ルモノヲ除ク外其求ニ應スヘシ

第七十五條　各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章　退職及議員資格ノ異議

第七十六條　衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタル時ハ退職者トス

第七十七條　衆議院ノ議員ニシテ選擧法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條　衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條　裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條　議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章　請暇辭職及補闕

第八十一條　各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條　各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ屆出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條　衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條　何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ內務大臣ニ通牒シ補闕選擧ヲ求ムヘシ

第十七章　紀律及警察

第八十五條　各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲內部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條　各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條　會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條　議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條　傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アル時ハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムル事ヲ得傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條　議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條　各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條　各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヰルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條　議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章　懲罰

第九十四條　各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條　各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條　懲罰ハ左ノ如シ

一　公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二　公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三　一定ノ時間出席ヲ停止ス

四　除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條　衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條　議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以內ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條　議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間內ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間內ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

附則（大正十四年法律第三二號附則）

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

貴族院令

（明治二十二年二月十一日勅令第十一號）

改正　明治三八一勅令五八　明治四二一勅令九二　大正七一勅令二二　大正一四一勅令一七四

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

貴族院令

第一條　貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一　皇族

二　公侯爵

三　伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ選擧セラレタル者

四　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五　帝國學士院ノ互選ニ由リ勅任セラレタル者（大正十四年勅令第百七十四號ヲ以テ本號改正）

六　北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人又ハ二人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條　皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條　公侯爵ヲ有スル者滿三十歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ（同上本條改正）

前項ノ議員ハ勅許ヲ得テ議員タルコトヲ辭スルコトヲ得（同上本項追加）

前項ノ規定ニ依リ議員タルコトヲ辭シタル者ハ勅命ニ依リ再ヒ議員トナルコトヲ得（同上本項追加）

第四條　伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿三十歲ニ達シ各々其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ定數ハ伯爵十八人、子爵六十六人、男爵六十六人トス（同上本條改正）

第五條　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

前項議員ノ數ハ百二十五人ヲ超過スヘカラス（明治三十八年勅令第五十八號ヲ以テ本項追加）

第一項ノ議員身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ニ堪ヘサルニ至リタル片ハ貴族院ニ於テ其旨ヲ議決シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ（大正十四年勅令第一七四號ヲ以テ本項追加）

前項ノ議決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ（同上本項追加）

第五條ノ二　滿三十歲以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（同上本條追加）

第六條　滿三十歲以上ノ男子ニシテ北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者百人ノ中ヨリ一人又ハ二百人ノ中ヨリ二人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅

任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ總數ハ六十六人以内トシ其ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ハ通常選擧毎ニ人口ニ應シ勅命ヲ以テ之ヲ指定ス（同上本條改正）

第七條　（同上本條削除）

第八條　貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條　貴族院ハ其議員ノ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ判決ス其判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條　議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ確定シタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ（同上本項改正）

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條　議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其職ニ就クヘシ

第十二條　此ノ勅令ニ定ムルモノノ外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條　將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

附則（大正七年勅令第二十二號附則）

本令ハ次ノ通常選擧ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正十四年勅令第一七四號附則）

本令中第四條ノ改正規定竝第一條第六號及第六條ノ改正規定ハ各大正十四年ニ於テ行フ通常選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ改正規定ハ其ノ最初ニ行フ通常選擧ノ期日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ改正規定施行ノ際現ニ第一條第二號ノ規定ニ依リ議員タル者ハ第三條第一項ノ改正規定ニ拘ラス議員タルヘシ

從前ノ第一條第五號ノ規定ニ依リ勅任セラレタル議員ニシテ大正十四年ニ於テ任期終了スヘキ者ノ任期ハ仍從前ノ規定ニ依ル其ノ任期ノ終了カ同年ニ於テ行フ同條第六號ノ改正規定ニ依ル議員ノ通常選擧ノ期日ヨリ前ナル場合ニ於テハ其ノ期日ノ前日迄任期ヲ延長ス

貴族院令第六條ノ議員選擧ニ付衆議院議員選擧法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律

（大正十四年五月五日法律第四十八號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル貴族院令第六條ノ議員選擧ニ付衆議院議員選擧法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院令第六條ノ議員選擧ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ衆議院議員選擧法中罰則ノ規定ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十四年ニ於テ行フ通常選擧ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際大正十四年ノ改正ニ係ル衆議院議員選擧法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

貴族院伯子男爵議員選擧規則

（明治二十二年六月五日勅令第七十八號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院伯子男爵議員選擧規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

貴族院伯子男爵議員選擧規則

第一條　伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各々其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選擧ス

第二條　神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人

タルコトヲ得ス

第三條　左ノ項ノ一ニ觸ルル者ハ選擧人及被選人タルコトヲ得ス

一　癩癲白痴ノ者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條　刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選擧權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條　貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選擧ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第六條　爵位局長官ハ選擧ノ期日ヨリ五十日前ニ選擧資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ調製シ選擧資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選擧管理者ニ交付スヘシ

確定期日ノ前ニ於テ新ニ資格ヲ得及回復シタル者アルトキハ之ヲ名簿ニ記入スヘシ

第七條　選擧ハ伯子男爵ノ選擧資格ヲ有スル者ヨリ各々一人ノ選擧管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム

選擧管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ

選擧管理者ハ選擧及被選ノ權ヲ妨ケラルルコトナシ

第八條　各選擧管理者ハ選擧人ノ中ヨリ各々其ノ同爵ノ選擧立會人三人以上ヲ指定シテ選擧會場ニ參會セシムヘシ

第九條　選擧ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條　選擧人ハ自ラ選擧會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ

第十一條　選擧人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選擧會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同爵中ノ他ノ選擧人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證狀ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ

第十二條　投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條　前數條ニ揭ケタル者ノ外選擧ニ關スル一切ノ規程ハ選擧資格ヲ有スル伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條　當選人確定シタルトキハ選擧管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ

第十五條　選擧管理者ハ選擧明細書ヲ作リ選擧ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議員ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選擧ヲ行フヘキコトヲ命シ其ノ期日ヲ指定スヘシ

補闕選擧ヲ行フノ手續ハ通常選擧ノ例ニ同シ

第十七條　補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條　貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内トス

第十九條　選擧ニ關ル費用ハ同爵者ノ支辨タルヘシ

（附則略ス）

貴族院帝國學士院會員議員互選規則

（大正十四年六月十八日勅令第二百三十三號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院帝國學士院會員議員互選規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院帝國學士院會員議員互選規則

第一條　貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル選擧ハ帝國學士院規程ニ定メタル各部ニ於テ各二人ヲ互選スルモノトス

第二條　貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル五

選資格ヲ有スル者ハ選擧ノ期日ノ三十日前ヨリ其ノ日迄引續キ帝國學士院會員タル者タルヘシ

第三條　選擧ニ關スル事項ハ內閣總理大臣之ヲ管理ス

第四條　選擧ハ九月二十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第五條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第六條　帝國學士院長ハ選擧管理者ト爲リ選擧ニ關スル事務ヲ擔任ス

第七條　帝國學士院長ハ選擧會場及投票ノ時間ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發スヘシ

第八條　互選人ハ選擧會場ニ於テ選擧管理者ノ交付シタル投票用紙ニ其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選擧人ノ氏名ヲ自ラ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第九條　互選人東京府ノ外ニ居住スルニ因リ又ハ公務若ハ疾病傷痍ニ因リ選擧ノ當日選擧會場ニ到ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票ヲ爲スコトヲ得

第十條　前條ノ規定ニ依リ投票ヲ爲サムトスル者ハ選擧ノ期日ヨリ少クトモ十日前ニ選擧管理者ニ理由ヲ具ヘテ其ノ旨ノ屆出ヲ爲スヘシ但シ正當ノ理由ニ因リ當該期間內ニ屆出ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ選擧ノ期日ノ前日迄ニ屆出ヲ爲スコトヲ得

前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ選擧管理者ハ直ニ投票用紙及投票用封筒ヲ當該互選人ニ送付スヘシ

第十一條　前條ノ規定ニ依ル送付ヲ受ケタル互選人ハ投票用紙ニ其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選擧人ノ氏名ヲ自ラ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ入レ封緘シ其ノ表面ニ署名捺印シ且投票在中ノ旨ヲ明記シ投票ノ時間ノ終了スル時迄ニ到達スル樣書留郵便ヲ以テ選擧管理者ニ之ヲ送付スヘシ

投票用紙及投票用封筒ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第十二條　選擧管理者ハ前三條ノ規定ニ依ル郵便投票ヲ受領シタルトキハ選擧會場ニ於テ投票ノ時間內ニ互選人ノ面前ニ於テ外部ノ封筒ヲ開披シテ投票用封筒ヲ投函スヘシ

第十三條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ帝國學士院長ハ選擧ノ期日、選擧會場及投票ノ時間ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第十四條　投票終ルノ後選擧管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢スヘシ此ノ場合ニ於テ投票用封筒ニ入レタル投票アルトキハ其ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シタル後點檢スヘシ

第十五條　投票ノ拒否及効力ハ選擧管理者之ヲ決定ス

第十六條　左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一投票中其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ超過スル被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

六　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

七　貴族院帝國學士院會院議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規定ハ第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル選擧ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第一項第二號、第六號又ハ第七號ニ該當スル投票ハ連記投票ノ場合ニ於テハ其ノ該當ノ部分ノミヲ無効トス

第十七條　有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ以テ總被選擧人ノ得票總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ選擧會場ニ於テ選擧管理者互選人ノ面前ニテ抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條　第十四條ノ規定ニ依ル點檢ノ結果ハ其ノ場ニ於テ之ヲ告知スヘシ當選人ノ其ノ場ニ在ラサルトキハ尙直ニ當選ノ旨ヲ本人ニ告知スヘシ

第十九條　貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選擧ニ關ル爭訟ノ結果更ニ選擧ヲ行フヿトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選擧管理者之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタルトキハ選擧管理者ハ直ニ第十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テ選擧管理者ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

第二十條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選擧管理者ニ屆出ツヘシ

當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十一條　當選人當選ヲ承諾シタルトキハ帝國學士院長ハ當選人ノ氏名ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十二條　選擧管理者ハ選擧錄ヲ作リ選擧ニ關スル顚末ヲ記載シ署名シ且其ノ寫ヲ內閣總理大臣ニ送付スヘシ

當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ內閣總理大臣ハ選擧錄ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘシ

第二十三條　投票ハ有効無効ヲ區別シ郵便投票ニ用ヒタル封筒、選擧錄其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間帝國學士院ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第二十四條　當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ當選人ナキニ至リ若ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第十九條ノ規定ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ帝國學士院長ハ選擧ノ期日、選擧會場及投票ノ時間ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

第二十五條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選擧ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

第二十六條　前二條ノ選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條　補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間存在ス

第二十八條　貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以內トス但シ開院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以內ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尙次ノ會期ノ開會後十日以內ニ出訴スルコトヲ得

附則

本令ハ貴族院令第五條ノ二ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

貴族院多額納稅者議員互選規則

（大正十四年六月十八日勅令第二百三十四號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院多額納稅者議

員選擧規則改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

貴族院多額納税者議員互選規則

第一條　貴族院令第六條ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ互選人名簿調製ノ期日迄引續キ一年以上北海道又ハ各府縣ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國税ヲ納メ仍引續キ住居シ及納税スル者タルヘシ

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納税ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納税ト看做ス

選擧人ヲ定ムルニ當リ納税額同シキトキハ年齢多キ者ヲ取リ年齢モ亦同シキトキハ地方長官抽籤シテ之ヲ定ム

第二條　左ニ掲クル者ハ互選人タル事ヲ得ス

一　禁治産者及準禁治産者

二　破産者ニシテ復權ヲ得サル者

三　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

五　六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第三條　陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ互選人タルコトヲ得ス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

前項ノ規定ハ陸軍各部依託學生生徒、海軍軍醫學生藥劑學生主計學生造船學生造機學生造兵學生並海軍豫備生徒及海軍豫備練習生ニハ之ヲ適用セス

第四條　地方長官ハ選擧ヲ行フ年ノ六月一日ノ現在ニ依リ北海道又ハ各府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者ノ名簿ヲ調製スヘシ互選人名簿ニハ互選人ノ氏名、職業、本籍、住居、生年月日、土地或ハ工業商業ニ付納ムル直接國税ノ細別及總額並納税地等ヲ記載スヘシ

第五條　地方長官ハ七月二十日ヨリ十五日間北海道廳又ハ各府縣廳ニ於テ選擧人名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

地方長官ハ互選人名簿ノ縱覽開始ノ後直ニ其ノ寫ヲ公示スヘシ

第六條　互選人名簿ニ脫漏又ハ誤載アリト認ムルトキハ互選人ハ理由書及證憑ヲ具ヘ其ノ修正ヲ地方長官ニ申立ツルコトヲ得

縱覽期限ヲ經過シタルトキハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　地方長官前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ互選人名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ之ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ申立人ニ通知スヘシ

第八條　互選人名簿ハ八月三十一日ヲ以テ確定ス

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ互選人名簿ヲ調製スヘシ

前項互選人名簿ノ調製及其ノ期日、縱覽確定ニ關スル期日、期間等ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條　選擧ハ九月十日之ヲ行フ

第十條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第十一條　地方長官ハ選擧長ト爲リ選擧會ニ關スル事務ヲ擔任ス

選擧會ハ北海道廳又ハ各府縣廳ニ之ヲ開ク

第十二條　地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ投票ノ爲區劃ヲ定メテ選擧分會ヲ設クルコトヲ得

選擧分會長ハ地方長官ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ命ス

選擧分會長ハ選擧分會ニ關スル事務ヲ擔任ス

第十三條　地方長官ハ選擧ノ期日ヨリ少クトモ七日前ニ投票ノ時間ヲ告示スヘシ選擧分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ區劃、選擧分會長及選擧分會場ヲ告示スヘシ

第十四條　選擧分會ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿記載ノ住居ニ基キ名簿ノ副本ヲ調製シ選擧前之ヲ選擧分會長ニ送付スヘシ

第十五條　地方長官ハ互選人中ヨリ三人ノ選擧立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧立會人ハシムヘシ但シ選擧分會ヲ設ケタルトキハ各分會ニ付更ニ其ノ區劃内ニ於ケル選擧人中ヨリ選擧立會人ヲ選任スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ選擧人中ヨリ選擧立會人ヲ選任シ難キトキハ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ選任スヘシ

選擧立會人ニシテ參會スル者選擧會又ハ選擧分會ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ又ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ選擧長又ハ選擧分會長ハ前二項ノ例ニ依リ三人ニ達スル迄ノ選擧立會人ヲ選任シ選擧ニ立會ハシムヘシ

選擧立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十六條　互選人ハ選擧ノ當日自ラ選擧會場又ハ選擧分會場ニ到リ互選人名簿又ハ其ノ副本ノ對照ヲ經テ選擧又ハ選擧分會長ノ交付シタル投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條　互選人名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス互選人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者ナルトキ又ハ選擧ノ當日選擧資格ヲ有セサルトキ亦同シ

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條　投票ノ拒否ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ選擧長又ハ選擧分會長之ヲ決定スヘシ

前項選擧分會長ノ決定ヲ受ケタル選擧人不服アルトキハ選擧分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選擧人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

選擧分會ニ於ケル選擧立會人ニ於テ異議アル互選人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第十九條　投票ノ時間ヲ經過シタルトキハ選擧長又ハ選擧分會長ハ選擧分會場又ハ選擧會場ニ在ル互選人ノ投票結了スルヲ待チテ投票函ヲ閉鎖スヘシ

選擧分會ニ在リテハ選擧分會長ハ投票函閉鎖後遲滯ナク一人又ハ數人ノ選擧立會人ト共ニ投票函ヲ選擧長ニ送致スヘシ

第二十條　選擧分會ノ區劃カ島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ選擧ノ期日迄ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日迄ニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十一條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ地方長官ハ期日ヲ定メテ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第二十二條　第三十八條又ハ第三十九條ノ選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十三條　選擧長又ハ選擧分會長ハ選擧會場又ハ選擧分會場ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　互選人、選擧會場又ハ選擧分會場ノ事務ニ從事スル者、選擧會場又ハ選擧分會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ニ非サレハ選擧會場又ハ選擧分會場ニ入

ルコトヲ得ス

第二十五條　選擧會場又ハ選擧分會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騷ニ渉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選擧會場又ハ選擧分會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選擧長又ハ選擧分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選擧長又ハ選擧分會長ハ選擧會場又ハ選擧分會場ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

第二十六條　選擧長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第二十七條　選擧長ハ投票ノ當日（選擧分會ヲ設ケタルトキハ總テノ選擧分會ヨリ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日）選擧會場ニ於テ選擧立會人立會ノ上投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

選擧分會ヲ設ケタル場合ニ於テ前項ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ先ツ第十八條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

選擧長ハ前項ノ規定ニ依リ受理スヘキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開被シタル上總テノ投票ヲ混同シ選擧立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十八條　互選人ハ選擧會場ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條　投票ノ効力ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ選擧長之ヲ決定スヘシ

第三十條　左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　選擧人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

六　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

七　貴族院多額納税者議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規定ハ第三十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ依ル選擧ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第三十一條　有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ選擧會ニ於テ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選擧ニ關ル訴訟ノ結果更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選擧會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テ第一項但書ノ得票者ニシテ選擧人ト爲ラサリシ者互選ノ期日後ニ於テ當選人タルコトヲ得サルニ至リタルトキハ之ヲ選擧人ト定ムルコトヲ得ス

第三十二條　互選人當選ノ期日後ニ於テ開票人タルコトヲ得サルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第三十三條　第二十一條ノ規定ハ但書ヲ除キ選擧ニ之ヲ準用ス

第三十四條　當選人定マリタルトキハ選擧長ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選人前項ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ選擧ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選擧長ニ屆出ツヘシ

當選人第一項ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十五條　當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ當選人ノ氏名ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

第三十六條　選擧長又ハ選擧分會長ハ選擧錄又ハ投票錄ヲ作リ選擧ニ關スル顚末ヲ記載シ選擧立會人ト共ニ署名スヘシ

選擧分會長ハ投票錄ト同時ニ投票錄及互選人名簿ノ副本ヲ選擧長ニ送致スヘシ

選擧長ハ選擧錄及投票錄ノ寫ヲ內務大臣ニ送付スヘシ

當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ內務大臣ハ選擧錄及投票錄ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘシ

第三十七條　投票ハ有效無效ヲ區別シ選擧錄、投票錄、互選人名簿及其ノ副本其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間選擧長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第三十八條　當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ選擧人ナキニ至リ若ハ選擧人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第三十一條第三項乃至第五項ノ規定ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ地方長官ハ選擧ノ期日ヲ定メ少クトモ七日前ニ之ヲ告示シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

此ノ場合ニ於テハ最近ノ調製ニ係ル互選人名簿ヲ用フヘシ

第三十九條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選擧ヲ行ヘキコトヲ命スヘシ

前項ノ勅命アリタルトキハ地方長官ハ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧資格ヲ有スル者ノ名簿ヲ調製シ其ノ期日ヨリ起算シ五十日目ヨリ十五日間北海道廳又ハ各府縣廳ニ於テ之ヲ縱覽ニ供スヘシ

前項ノ互選人名簿ハ縱覽開始ノ日ヨリ四十日ヲ經過スルニ依リ確定ス

補闕選擧ハ選擧人名簿確定ノ日ヨリ起算シ十日目ニ之ヲ行フヘシ

第四十條　補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第四十一條　貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以內トス但シ開院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以內ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尙次ノ會期ノ開會後十日以內ニ出訴スルコトヲ得

第四十二條　選擧立會人ニハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ職務ノ爲要スル費用ヲ給スルコトヲ得

第四十三條　本令ノ選擧ニ關シテハ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法第百十一條乃至第百二十八條、第百三十七條、第百三十八條、第百四十八條及第百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第四十四條　當選人其ノ選擧ニ關シ大正十四年法律第四十八號及前條ノ規定ニ依ル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

附則

本令ハ大正十四年ニ於テ行フ通常選擧ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第五十七號及大正七年勅令第二十三號ハ之ヲ廢止ス

貴族院多額納税者議員ノ定數

（大正十四年六月十八日認可）

朕貴族院令第六條ノ規定ニ依リ貴族院多額納税者議員ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ヲ左ノ通指定ス

北海道	二人
東京府	二人
京都府	二人
大阪府	二人
神奈川縣	二人
兵庫縣	二人

長崎縣　一人
新潟縣　二人
山口縣　二人
埼玉縣　二人
和歌山縣　一人
群馬縣　一人
德島縣　一人
千葉縣　二人
香川縣　一人
茨城縣　二人
愛媛縣　一人
栃木縣　一人
高知縣　一人
奈良縣　一人
福岡縣　二人
三重縣　一人
大分縣　一人
愛知縣　二十人
佐賀縣　一人
靜岡縣　二人
熊本縣　二人
山梨縣　一人
宮崎縣　一人
滋賀縣　一人
鹿兒島縣　二人
岐阜縣　一人
沖繩縣　一人
長野縣　二人
宮城縣　一人
福島縣　二人
岩手縣　一人
青森縣　一人
山形縣　一人
秋田縣　一人
福井縣　一人
石川縣　一人
富山縣　一人
鳥取縣　一人
島根縣　一人
岡山縣　二人

衆議院議員選擧法

（大正十四年五月五日法律第四十七號）

改正、大正一五—法律八一、昭和九—法律四九

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル衆議院議員選擧法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

衆議院議員選擧法

第一章　選擧ニ關スル區域

第一條　衆議院議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區及各選擧區ニ於テ選擧スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

地方長官必要アリト認ムルトキハ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ規定ニ依リ設クル投票區ノ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　開票區ハ郡市ノ區域ニ依ル

地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ郡市ノ區域ヲ分チテ數開票區ヲ設ケ又ハ數郡市ノ區域ヲ合セテ一開票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ規定ニ依リ設クル開票區ノ開票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條　行政區畫ノ變更ニ因リ選擧區ニ異動ヲ生スルモ現在議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章　選擧權及被選擧權

第五條　帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者ハ選擧權ヲ有ス

帝國臣民タル男子ニシテ年齡三十年以上ノ者ハ被選擧權ヲ有ス

第六條　左ニ掲クル者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

一　禁治產者及準禁治產者

二　破產者ニシテ復權ヲ得サル者

三　貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者

四　一定ノ住居ヲ有セサル者

五　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六　刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七　六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條　華族ノ戶主ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ又ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定（志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム）ニ依リ召集中ノ者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第八條　選擧事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域內ニ於テ被選擧權ヲ有セス

第九條　在職ノ宮內官、判事、朝鮮總督府判事、臺灣總督府法院判官、關東廳法院判官、南洋廳判事、檢事、朝鮮總督府檢事、臺灣總督府法院檢察官、關東廳法院檢察官、南洋廳檢事、陸軍法務官、海軍法務官、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計檢査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選擧權ヲ有セス

第十條　官吏及待遇官吏ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外在職中議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

一　國務大臣

二　內閣時記官長

三　法制局長官

四　各省政務次官

五　各省參與官

六　內閣總理大臣祕書官

七　各省祕書官

第十一條　北海道會議員及府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章　選擧人名簿

第十二條　市町村長ハ每年九月十五日ノ現在ニ依リ其ノ日迄引續キ六月以上其ノ市町村內ニ住居ヲ有スル者ノ選擧資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

選擧人ノ年齡ハ選擧人名簿確定ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス

第一項ノ住居ニ關スル要件ヲ具備セサル選擧人ハ選擧人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得ス

選擧人名簿ニハ選擧人ノ氏名、住居及生年月日等ヲ記載スヘシ

第一項ノ住居ニ關スル期間ハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第十三條　市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選擧人名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

市町村長ハ縱覽開始ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ縱覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第十四條　選擧人名簿ニ脱漏又ハ誤載アリト認ムルトキハ選擧人ハ理由書及證憑ヲ具ヘ其ノ修正ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得縱覽期限ヲ經過シタルトキハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　市町村長ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ之ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ申立人ニ通知スヘシ

第十六條　前條市町村長ノ決定ニ不服アル申立人又ハ關係人ハ市町村長ヲ被告トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ得ス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第十七條　選擧人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス

選擧人名簿ハ次年ノ十二月十九日迄之ヲ據置クヘシ但シ確定判決ニ依リ修正スヘキモノハ市町村長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示スヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

前項選擧人名簿ノ調製及其ノ期日、縱覽確定ニ關スル期日、期間等ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章　選擧、投票及投票所

第十八條　總選擧ハ議員ノ任期終リタル日ノ翌日之ヲ行フ例トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ議員ノ任期終リタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ行フコトヲ妨ケス

議會開會中又ハ議會閉會ノ日ヨリ二十五日以内ニ議員ノ任期終ル場合ニ於テハ總選擧ハ議會閉會ノ日ヨリ二十六日以後三十日以内ニ之ヲ行フ

衆議院解散ヲ命セラレタル場合ニ於テハ總選擧ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ行フ

總選擧ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ二十五日前ニ之ヲ公布ス

第十九條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十條　市町村長ハ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第二十一條　投票所ハ市役所、町村役場又ハ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第二十二條　投票管理者ハ選擧ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ告示スヘシ

第二十三條　投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第二十四條　議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選擧ノ期日前二日迄ニ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルニ至リタルトキハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スル迄ノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十五條　選擧人ハ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サムトスル選擧人ノ本人ナリヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　投票用紙ハ選擧ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選擧人ニ交付スヘシ

第二十七條　選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第二十八條　投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

第二十九條　選擧人名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ選擧ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシムヘシ

第三十條　選擧人名簿ニ登錄セラレタル者選擧人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選擧ノ當日選擧權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

自ラ議員候補者ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル選擧人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選擧人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

投票立會人ニ於テ異議アル選擧人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第三十二條　投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ旨ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選擧人ノ投票結了スルヲ待チテ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條　選擧人ニシテ勅令ノ定ムル事由ニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキコトヲ證スル者ノ投票ニ關シテハ第二十五條、第二十六條、第二十七條第一項、第二十九條但書及第三十一條ノ規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十四條　投票管理者ハ投票錄ヲ作リ投票ニ關スル顚末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第三十五條　投票管理者ハ一人又ハ數人ノ投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ、市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

第三十六條　島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

第三十七條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選擧長ヲ經テ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ之ヲ告示セシムヘシ

第三十八條　第七十五條又ハ第七十九條ノ選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第三十九條　何人ト雖選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

第四十條　投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條　選擧人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ニ非サレハ投票所ニ入ルコトヲ得ス

第四十二條　投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騷ニ渉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ投票所外ニ退出セシムヘシ

第四十三條　前條ノ規定ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ

爲サシムルコトヲ妨ケス

第五章　開票及開票所

第四十四條　支廳長、市長又ハ地方長官ノ指定シタル官吏ハ開票管理者ト爲リ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第四十五條　開票所ハ支廳、市役所又ハ開票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第四十六條　開票管理者ハ豫メ開票ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第四十七條　第二十四條ノ規定ハ開票立會人ニ之ヲ準用ス

第四十八條　開票管理者ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日ノ翌日開票所ニ於テ開票立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ但シ場合ニ依リ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日其ノ手續ヲ行フコトヲ得

第四十九條　前條ノ計算終リタルトキハ開票管理者ハ先ツ第三十一條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

開票管理者ハ開票立會人ト共ニ市町村其ノ他地方長官ノ定ムル區域毎ニ投票ヲ點檢スヘシ

投票ノ點檢終リタルトキハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選擧長ニ報告スヘシ

第五十條　選擧人ハ其ノ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條　投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ開票管理者之ヲ決定スヘシ

第五十二條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ

七　議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモノ

八　衆議院議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第八號ノ規定ハ第七十五條又ハ第七十九條ノ規定ニ依ル選擧ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十三條　投票ハ有效無效ヲ區別シ議員ノ任期間開票管理者ニ於テ之ヲ保存スヘシ但シ第四十四條ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル官吏開票管理者タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第五十四條　開票管理者ハ開票錄ヲ作リ開票ニ關スル顚末ヲ記載シ開票立會人ト共ニ署名シ投票錄ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ前條但書ノ規定ハ開票錄及投票錄ノ保存ニ之ヲ準用ス

第五十五條　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ノ開票ニ於テハ其ノ投票ノ效力ヲ決定スヘシ

第五十六條　第三十七條ノ規定ハ但書ヲ除キ開票ニ之ヲ準用ス

第五十七條　開票所ノ取締ニ付テハ第四十條乃至第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第六章　選擧會

第五十八條　左ニ揭クル者ヲ以テ選擧長トス

一　一縣又ハ一市一選擧區タル場合ニ於テハ其ノ地方長官又ハ市長

二　一選擧區數市又ハ支廳管內及市ニ涉ル場合ニ於テハ關係支廳長又ハ市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

三　其ノ他ノ選擧區ニ於テハ官吏又ハ關係市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

選擧長ハ選擧會ニ關スル事務ヲ擔任ス

第五十九條　選擧會ハ選擧長ノ屬スル縣廳、

支廳若ハ市役所又ハ選擧長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

第六十條　選擧長ハ豫メ選擧會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第六十一條　第二十四條ノ規定ハ選擧立會人ニ之ヲ準用ス

第六十二條　選擧長ハ總テノ開票管理者ヨリ第四十九條第三項ノ報告ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日選擧會ヲ開キ選擧立會人立會ノ上其ノ報告ヲ調査スヘシ

選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ニ於テ第四十九條第三項ノ報告ヲ受ケタルトキハ選擧長ハ前項ノ例ニ依リ選擧會ヲ開キ他ノ部分ノ報告ト共ニ更ニ之ヲ調査スヘシ

第六十三條　選擧人ハ其ノ選擧會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第六十四條　選擧長ハ選擧錄ヲ作リ選擧會ニ關スル顚末ヲ記載シ選擧立會人ト共ニ署名シ第四十九條第三項ノ報告ニ關スル書類ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ第五十八條第一項第三號ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）選擧長タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ選擧錄及第四十九條第三項ノ報告ニ關スル書類ヲ保存スヘシ

第六十五條　第三十七條ノ規定ハ但書ヲ除キ選擧會ニ之ヲ準用ス

第六十六條　選擧會場ノ取締ニ付テハ第四十條乃至第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第七章　議員候補者及當選人

第六十七條　議員候補者タラムトスル者ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選擧ノ期日前七日迄ニ其ノ旨ヲ選擧長ニ屆出ツヘシ

選擧人名簿ニ記載セラレタル者他人ヲ議員候補者ト爲サムトスルトキハ前項ノ期間內ニ其ノ推薦ノ屆出ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ期間內ニ屆出アリタル議員候補者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ期間ヲ經過シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前二項ノ例ニ依リ選擧ノ期日前二日迄議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出ヲ爲スコトヲ得

議員候補者ハ選擧長ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ議員候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス

前四項ノ屆出アリタル議員候補者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第六十八條　議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出ヲ爲サムトスル者ハ議員候補者一人ニ付二千圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

議員候補者ノ得票數其ノ選擧區內ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ十分ノ一ニ達セサルトキハ前項ノ供託物ハ政府ニ歸屬ス

議員候補者選擧ノ期日前十日以內ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ被選擧權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條　有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選擧區內ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ選擧會ニ於テ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選擧會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ第七十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

當選人第八十四條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果

又ハ第百三十六條ノ規定ニ依リ當選無效ト爲リタルトキハ選擧會ヲ開キ其ノ選擧ノ期日ヨリ一年以內ナル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依リ其ノ選擧ノ期日ヨリ一年經過後ナル場合ニ於テハ第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前三項ノ場合ニ於テ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選人ト定ムルコトヲ得ス

第七十條　當選人選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第七十一條　第六十七條第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル屆出アリタル議員候補者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ超エサルトキハ其ノ選擧區ニ於テハ投票ヲ行ハス

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理者ニ通知シ併セテ之ヲ告示シ且地方長官ニ報告スヘシ

投票管理者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ選擧長ハ選擧ノ期日ヨリ五日以內ニ選擧會ヲ開キ議員候補者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選擧權ノ有無ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ選擧長之ヲ決定スヘシ

第七十二條　當選人定リタルトキハ選擧長ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選人ノ氏名、得票數及其ノ選擧ニ於ケル有效投票ノ總數其ノ他選擧ノ顚末ヲ地方長官ニ報告スヘシ

當選人ナキトキ又ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十三條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選擧長ニ屆出ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

選擧長第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十四條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ當選承諾ノ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第七十五條　左ニ揭クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ルトキヲ除クノ外地方長官ハ選擧ノ期日ヨリ十四日前ニ之ヲ告示シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ但シ同一人ニ關シ左ニ揭クル其ノ他ノ事由ニ依リ又ハ第七十九條第八項ノ規定ニ依リ選擧ノ期日ヲ告示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　當選人ナキトキ又ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ

二　當選人當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ

三　當選人第七十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

四　第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選人ナキニ至リ又ハ當選人其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキ

五　當選人第八十四條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選無效ト爲リタルトキ

六　當選人第百三十六條ノ規定ニ依リ當選無效ト爲リタルトキ

第八十一條　又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ出訴期間ハ前項ノ規定ニ依ル選擧ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタル場合ニ於テ訴訟繫屬中亦同シ

第一項ノ選擧ノ期日ハ第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ出訴期間滿了ノ日、其ノ出訴アリタル場合ニ於テハ地方長官第八十六條第一項ノ規定ニ依リ訴訟繫屬セサルニ至リタル旨ノ大審院長ノ通知ヲ受ケタル日又ハ第八十六條第二項若ハ第百四十三條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ

二十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第一項各號ノ一ニ該當スル事由議員ノ任期ノ終ル前六月以內ニ生シタルトキハ第一項ノ選擧ハ之ヲ行ハス

第七十六條　當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ告示シ且之ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

第七十七條　第九章ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果選擧若ハ當選無效ト爲リタルトキ又ハ當選人第百三十六條ノ規定ニ依リ當選無效ト爲リタルトキハ地方長官ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第八章　議員ノ任期及補闕

第七十八條　議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ期日ヨリ之ヲ起算ス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

第七十九條　議員ニ闕員ヲ生スルモ其ノ闕員ノ數同一選擧區ニ於テ二人ニ達スル迄ハ補闕選擧ハ之ヲ行ハス

議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ內務大臣ハ議院法第八十四條ノ規定ニ依ル衆議院議長ノ通牒ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ地方長官ニ對シ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方長官ハ前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ闕員ト爲リタル議員カ選擧ノ期日ヨリ一年以內ニ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第六十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ選擧ノ期日ヨリ一年經過後ニ於テ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第六十九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ議員闕員ト爲リタル旨ヲ選擧長ニ通知スヘシ

選擧長ハ前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ第六十九條第四項乃至第六項ノ規定ヲ準用シ當選人ヲ定ムヘシ

地方長官ハ第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ第三項ノ規定ノ適用アルトキ及同一人ニ關シ第七十五條ノ規定ニ依リ選擧ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外其ノ闕員ノ數同一選擧區ニ於テ二人ニ達スルヲ待チ最後ニ第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ補闕選擧ヲ行ハシムヘシ

議員ノ闕員ノ數同一選擧區ニ於テ二人ニ達セザルモ其ノ選擧區ニ於テ第七十五條ノ選擧ノ行ハルル場合ニ於テハ第一項及前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ選擧ト同時ニ補闕選擧ヲ行フ但シ第七十五條ノ規定ニ依ル選擧ノ期日ノ告示アリタル後地方長官第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ補闕選擧ノ期日ハ第七十五條ノ選擧ノ期日ニ依ル

補闕選擧ノ期日ハ地方長官少クトモ十四日前ニ之ヲ告示スヘシ

第七十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ補闕選擧ニ之ヲ準用ス

第八十條　補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第九章　訴訟

第八十一條　選擧ノ效力ニ關シ異議アル選擧人又ハ議員候補者ハ選擧長ヲ被告トシ選擧ノ日ヨリ三十日以內ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

第八十二條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合ニ限リ裁判所ハ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ノ無效ヲ判決スヘシ

第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ニ於テモ其ノ選擧前項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其ノ全部又ハ一部ノ無效ヲ判決スヘシ

第八十三條　當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ第七十二條第一項及第二項ノ告示ノ日ヨリ三十日以內ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得但シ第六十九條第一項但書ニ定メタル得票ニ達シタリトノ理由、第六十九條第六項若ハ第七十條ノ規定ニ該當セストノ理由又ハ第七十

一條第五項ノ決定違法ナリトノ理由ニ因リ出訴スル場合ニ於テハ選擧長ヲ被告トスヘシ

前項ノ規定ニ依ル訴訟ノ裁判確定前當選人死亡シタルトキハ檢事ヲ被告トス

第八十四條　第百十條ノ規定ニ依リ當選ヲ無效ナリト認ムル選擧人又ハ議員候補者ハ當選人ヲ被告トシ第七十二條第一項ノ告示ノ日ヨリ三十日以內ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

檢事ハ第百十二條乃至第百十三條ノ罪ニ該ル事件ノ被告人ガ選擧事務長又ハ選擧事務長ニ非ズシテ事實上選擧運動ヲ總括主宰シタル者ナルニ因リ第百三十六條ノ規定ニ依リ當選ヲ無效ナリト認ムルトキハ公訴ニ附帶シ當選人ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ要ス

第八十五條　裁判所ハ第八十一條、第八十三條又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル訴訟ヲ裁判スルニ當リ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムヘシ

第八十六條　第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ提起アリタルトキハ大審院長ハ其ノ旨ヲ內務大臣及關係地方長官ニ通知スヘシ訴訟ノ繫屬セサルニ至リタルトキ亦同シ

第八十四條第一項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決確定シ效力ヲ生ジタルトキハ裁判所ノ長ハ其ノ旨ヲ內務大臣及關係地方長官ニ通知スベシ

第八十三條若ハ第八十四條第一項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決アリタルトキ又ハ第八十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決確定シ效力ヲ生ジタルトキハ裁判所ノ長ハ其ノ判決書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ帝國議會開會中ナルトキハ併セテ之ヲ衆議院議長ニ送付スヘシ

第八十一條、第八十三條又ハ第八十四條第一項ノ規定ニ依ル訴訟ヲ提起セムトスル者ハ保證金トシテ三百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

原告敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以內ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徵ス

第十章　選擧運動

第八十八條　議員候補者ハ選擧事務長一人ヲ選任スヘシ但シ議員候補者自ラ選擧事務長ト爲リ又ハ推薦屆出者（推薦屆出者數人アルトキハ其ノ代表者）議員候補者ノ承諾ヲ得テ選擧事務長ヲ選任シ若ハ自ラ選擧事務長ト爲ルコトヲ妨ケス

議員候補者ノ承諾ヲ得スシテ其ノ推薦ノ屆出ヲ爲シタル者ハ前項但書ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス

議員候補者ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選擧事務長ヲ解任スルコトヲ得選擧事務長ヲ選任シタル推薦屆出者ニ於テ議員候補者ノ承諾ヲ得タルトキ亦同シ

選擧事務長ハ文書ヲ以テ議員候補者及選任者ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得

選擧事務長ノ選任者（自ラ選擧事務長ト爲リタル者ヲ含ム以下之ニ同シ）ハ直ニ其ノ旨ヲ選擧區內警察官署ノ一ニ屆出ツヘシ

選擧事務長ニ異動アリタルトキハ前項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル者直ニ其ノ屆出ヲ爲シタル警察官署ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第九十五條ノ規定ニ依リ選擧事務長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ハ前項ノ例ニ依リ屆出ツヘシ其ノ之ヲ懈メタルトキ亦同シ

第八十九條　選擧事務長ニ非サレハ選擧事務所ヲ設置シ又ハ選擧委員若ハ選擧運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任スルコトヲ得ス

選擧事務長ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選擧委員ヲ解任スルコトヲ得

選擧委員ハ文書ヲ以テ選擧事務長ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得

選擧事務長選擧事務所ヲ設置シ又ハ選擧委

員ヲ選任シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ前條第五項ノ屆出アリタル警察官署ニ屆出ツヘシ

選擧事務所又ハ選擧委員ニ異動アリタルトキ亦同シ

第九十條　選擧事務所ハ議員候補者一人ニ付一箇所ニ限ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ三箇所迄之ヲ設置スルコトヲ得

第九十一條　選擧事務所ハ選擧ノ當日ニ限リ投票所ヲ設ケタル場所ノ入口ヨリ三町以內ノ區域ニ之ヲ置クコトヲ得ス

第九十二條　休憩所其ノ他之ニ類似スル設備ハ選擧運動ノ爲之ヲ設クルコトヲ得ス

第九十三條　選擧委員ハ議員候補者一人ニ付二十人ヲ超ユルコトヲ得ズ其ノ異動アリタル場合ト雖モ通ジテ五十人ヲ超ユルコトヲ得ズ

選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フ場合又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ選擧委員ハ前項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エザル範圍內ニ於テ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ズ

地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）前項ノ規定ニ依リ選擧委員ノ數ヲ定メタル場合ニ於テハ選擧ノ期日ノ告示アリタル後直ニ之ヲ告示スベシ

第九十三條ノ二　第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任スル勞務者ハ議員候補者一人一日ニ付三十人ヲ超ユルコトヲ得ズ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ勞務者ニ關シ之ヲ準用ス

第九十四條　選擧事務長選擧權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第九十九條第二項ノ規定ニ依リ選擧運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルトキハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ直ニ其ノ解任又ハ退任ヲ命スヘシ

第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ選擧事務所ノ設置アリト認ムルトキハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ直ニ其ノ選擧事務所ノ閉鎖ヲ命スヘシ第九十條ノ規定ニ依ル定數ヲ超ユルコトヲ得ズ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ勞務者ト認ムルトキハ其ノ超過シタル數ノ選擧事務所ニ付亦同シ

第九十三條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選擧委員ノ選任アリト認ムルトキハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ直ニ其ノ超過シタル數ノ選擧委員ノ解任ヲ命スヘシ選擧委員選擧權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第九十九條第二項ノ規定ニ依リ選擧運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルトキ其ノ選擧委員ニ付亦同シ

前條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選擧運動ノ爲勞務者ヲ選任アリト認ムルトキハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ直ニ其ノ超過シタル數ノ勞務者ノ解任ヲ命ズベシ

第九十五條　選擧事務長故障アルトキハ選任者代リテ其ノ職務ヲ行フ

推薦屆出者タル選任者モ亦故障アルトキハ議員候補者ノ承諾ヲ得スシテ其ノ推薦ノ屆出ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外議員候補者代リテ其ノ職務ヲ行フ

第九十五條ノ二　選擧運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ屆出アリタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十六條　議員候補者、選擧事務長又ハ選擧委員ニ非ザレバ選擧運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非ザレバ選擧運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ズ但シ議員候補者ト同居スル親族、家族及常傭ノ使用人ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十七條　選擧事務長又ハ選擧委員ハ選擧運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給又ハ旅費、休泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得演說又ハ推薦狀ニ依リ選擧運動ヲ爲ス者豫メ議員候補者又ハ選擧事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ其ノ運動ヲ爲スニ付亦同ジ

第九十八條　何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又

ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選擧人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選擧運動ヲ爲スコトヲ得ス

第九十八條ノ二　何人ト雖モ第百四十條第四項ノ文書ヲ發行スル區域ニ關シテハ演說會告知ノ爲ニスル文書及第九十六條第一項但書ノ規定ニ依ル推薦狀ヲ除クノ外選擧運動ノ爲文書圖畫ヲ頒布スルコトヲ得ズ但シ第百四十條第一項ノ規定ニ依リ通常郵便物ヲ差出ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十八條ノ三　選擧演說會ニ出演シ得ベキ者ハ一ノ演說會ニ付四人ヲ超ユルコトヲ得ズ議員候補者又ハ其ノ代理者出演セザルトキハ三人ヲ超ユルコトヲ得ズ

第九十九條　選擧權ヲ有セサル者ハ選擧事務長又ハ選擧委員ト爲ルコトヲ得ス

選擧事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域內ニ於ケル選擧運動ヲ爲スコトヲ得ス

第百條　內務大臣ハ選擧運動ノ爲頒布シ又ハ掲示スル文書圖畫ニ關シ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第百條ノ二　內務大臣ハ選擧ノ期日後ニ於テ當選又ハ落選ニ關シ選擧人ニ挨拶スルノ目的ヲ以テ爲ス行爲ニ關シ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第十一章　選擧運動ノ費用

第百一條　立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選擧運動ノ費用ハ選擧事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者又ハ選擧委員ハ選擧事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス

議員候補者、選擧事務長又ハ選擧委員ニ非サル者ハ選擧運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス

第百二條　選擧運動ノ費用ハ議員候補者一人ニ付左ノ各號ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　選擧區內ノ議員ノ定數ヲ以テ選擧人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ三十錢ニ乘ニ乘シテ得タル額

二　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フ場合ニ於テハ選擧區內ノ議員ノ定數ヲ以テ選擧人名簿確定ノ日ニ於テ關係區域ノ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ三十錢ニ乘シテ得タル額

三　第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ前號ノ規定ニ準シテ算出シタル額但シ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得

地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル後直ニ前項ノ規定ニ依ル額ヲ公示スヘシ

第百三條　選擧運動ノ爲財產上ノ義務ヲ負擔シ又ハ建物、船車馬、印刷物、飯食物其ノ他ノ金錢以外ノ財產上ノ利益ヲ使用シ若ハ費消シタル場合ニ於テハ其ノ義務又ハ利益ヲ時價ニ見積リタル金額ヲ以テ選擧運動ノ費用ト看做ス

第百四條　左ノ各號ニ掲クル費用ハ之ヲ選擧運動ノ費用ニ非サルモノト看做ス

一　議員候補者カ乘用スル船車馬等ノ爲ニ要シタル費用

二　選擧ノ期日後ニ於テ選擧運動ノ殘務整理ノ爲ニ要シタル費用

三　選擧委員ノ支出シタル費用ニシテ議員候補者又ハ選擧事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ但シ第百一條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四　第六十七條第一項乃至第三項ノ屆出アリタル後議員候補者、選擧事務長又ハ選擧委員ニ非サル者ノ支出シタル費用ニシテ議員候補者又ハ選擧事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ但シ第百一條第二項ノ規定ノ適用ニ

付テハ此ノ限ニ在ラス

五　立候補準備ノ爲ニ要シタル費用ニシテ議員候補者若ハ選擧事務長ト爲リタル者ノ支出シタル費用又ハ其ノ者ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ

第百五條　選擧事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ備ヘ之ニ選擧運動ノ費用ヲ記載スヘシ

第百六條　選擧事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ選擧運動ノ費用ヲ精算シ選擧ノ期日ヨリ十四日以內ニ第八十八條第五項ノ屆出アリタル警察官署ヲ經テ之ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ニ屆出ツヘシ

地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ前項ノ規定ニ依リ屆出アリタル選擧運動ノ費用ヲ告示スヘシ

第百七條　選擧事務長ハ前條第一項ノ屆出ヲ爲シタル日ヨリ一年間選擧運動ノ費用ニ關スル帳簿及書類ヲ保存スヘシ

前項ノ帳簿及書類ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百八條　警察官吏ハ選擧ノ期日後何時ニテモ選擧事務長ニ對シ選擧運動ノ費用ニ關スル帳簿又ハ書類ノ提出ヲ命シ、之ヲ檢査シ又ハ之ニ關スル說明ヲ求ムルコトヲ得

第百九條　選擧事務長辭任シ又ハ解任セラレタル場合ニ於テハ遲滯ナク選擧運動ノ費用ノ計算ヲ爲シ新ニ選擧事務長ト爲リタル者ニ對シ、新ニ選擧事務長ト爲リタル者ナキトキハ第九十五條ノ規定ニ依リ選擧事務長ノ職務ヲ行フ者ニ對シ選擧事務所、選擧委員、選擧運動ノ爲使用スル勞務者其ノ他ニ關スル事務ト共ニ其ノ引繼ヲ爲スヘシ第九十五條ノ規定ニ依リ選擧事務長ノ職務ヲ行フ者事務ノ引繼ヲ受ケタル後新ニ選擧事務長定リタルトキ亦同シ

第百十條　議員候補者ノ爲支出セラレタル選擧運動ノ費用カ第百二條第二項ノ規定ニ依リ告示セラレタル額ヲ超エタルトキハ其ノ議員候補者ノ當選ヲ無效トス但シ議員候補者及推薦屆出者カ選擧事務長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シ且選擧事務長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ選擧運動ノ費用ノ支出ニ付過失ナカリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二章　罰則

第百十一條　詐僞ノ方法ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者又ハ第二十五條第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣言ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十二條　左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財產上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ饗應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

二　當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

三　投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選擧運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

四　第一號若ハ前號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

五　第一號乃至第三號ニ掲グル行爲ヲ爲サシムル目的ヲ以テ選擧運動者ニ對シ金錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選擧運動者其ノ交付ヲ

受ケ若ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ

六　前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

選擧事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選擧ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ四年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣內ノ選擧ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同ジ

第百十二條ノ二　左ノ各號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

一　財產上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ議員候補者ノ爲多數ノ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ前條第一項第一號乃至第三號、第五號又ハ第六號ニ掲グル行爲ヲ

二　財產上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ議員候補者ノ爲多數ノ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ前條第一項第一號乃至第三號、第五號又ハ第六號ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ請負ヒ若ハ請負ハシメ又ハ其ノ申込ヲ爲シタルトキ

前條第一項第一號乃至第三號、第五號又ハ第六號ノ罪ヲ犯シタル者常習者ナルトキ亦前項ニ同ジ

第百十三條　左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者ニ對シ又ハ當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ第百十二條第一項第一號又ハ第二號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

二　議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト、當選ヲ辭シタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者タリシ者、議員候補者タラムトシタル者又ハ當選人タリシ者ニ對シ第百十二條第一項第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

三　前二號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、前二號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第一號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

四　前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

選擧事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選擧ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ四千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣內ノ選擧ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同ジ

第百十四條　前三條ノ場合ニ於テ收受シ又ハ交付ヲ受ケタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ交付ヲ受ケタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第百十五條　選擧ニ關シ左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　選擧人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選擧運動者又ハ當選人ニ對シ暴行若ハ威力ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ

二　交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他僞計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選擧ノ自由ヲ妨害シタルトキ

三　選擧人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選擧運動者若ハ當選人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ利害關係ヲ利用シテ選擧人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選擧運動者又ハ當選人ヲ威逼シタルトキ

第百十六條　選擧ニ關シ官吏又ハ吏員故意ニ其ノ職務ノ執行ヲ怠リ又ハ正當ノ事由ナクシテ議員候補者、選擧事務長若ハ選擧委員ニ追隨シ、其ノ居宅若ハ選擧事務所ニ立入ル等其ノ職權ヲ濫用シテ選擧ノ自由ヲ妨害シタルトキハ四年以下ノ禁錮ニ處ス

官吏又ハ吏員選擧人ニ對シ其ノ投票セムトシ又ハ投票シタル被選擧人ノ氏名ノ表示ヲ求メタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十七條　選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ表示シタルトキハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ表示シタル事實虛僞ナルトキ亦同シ

第百十八條　投票所又ハ開票所ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選擧人ノ投票ニ關渉シ又ハ被選擧人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十九條　投票管理者、開票管理者、選擧長、立會人若ハ選擧監視者ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ、選擧會場、開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞若ハ奪取シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百二十條　多衆聚合シテ第百十五條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第百十五條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍解散セサルトキハ首魁ハ二年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第百二十一條　選擧ニ關シ銃砲、刀劍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第百二十二條　前條ノ物件ヲ携帶シテ選擧會場、開票所又ハ投票所ニ入リタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十三條　前二條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

第百二十四條　選擧ニ關シ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、松明ノ類ヲ用ヒ若ハ鑼鼓、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用フル等氣勢ヲ張ルノ行爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十五條　演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス第百十二條乃至第百十三條、第百十五條、第百十八條乃至第百二十二條及前條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ人ヲ煽動シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ新聞紙及雜誌ニ在リテハ仍其ノ編輯人及實際編輯ヲ擔當シタル者ヲ罰ス

第百二十六條　演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、帳札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス新聞紙及雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

一　當選ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ議員候補者ノ身分、職業又ハ經歷ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタルトキ

二　當選ヲ得シメサル目的ヲ以テ議員候補者ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタルトキ

第百二十七條　選擧人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

氏名ヲ詐稱シ其ノ他ノ詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

投票ヲ僞造シ又ハ其ノ數ヲ增減シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十八條　立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十九條　第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十條　第九十條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エ若ハ第九十一條ノ規定ニ違反シテ選擧事務所ヲ設置シタル者又ハ第九十二條ノ規定ニ違反シテ休憩所其ノ他之ニ類似スル設備ヲ設ケタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選擧委員ノ選任ヲ爲シタル者、第九十三條ノ二ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選擧運動ノ爲使用スル勞務者ノ選任ヲ爲シタル者又ハ第九十六條第二項若ハ第九十九條ノ三ノ規定ニ違反シタル者亦同ジ

第百三十一條　第八十九條第一項、第九十九條又ハ第百九條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十二條　第八十八條第五項乃至第七項又ハ第八十九條第四項ノ屆出ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者亦前項ニ同シ

第百三十三條　選擧事務長又ハ選擧事務長ニ代リ其ノ職務ヲ行フ者第百二條第二項ノ規定ニ依リ告示セラレタル額ヲ超エ選擧運動ノ費用ヲ支出シ又ハ第百一條第一項但書ノ規定ニ依ル承諾ヲ與ヘテ支出セシメタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　第百一條ノ規定ニ違反シテ選擧運動ノ費用ヲ支出シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第百三十五條　左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第百五條ノ規定ニ違反シテ帳簿ヲ備ヘス又ハ帳簿ニ記載ヲ爲サス若ハ之ニ虛僞ノ記入ヲ爲シタルトキ

二　第百六條第一項ノ屆出ヲ怠リ又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタルトキ

三　第百七條第一項ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ保存セサルトキ

四　第百七條第一項ノ規定ニ依リ保存スヘキ帳簿又ハ書類ニ虛僞ノ記入ヲ爲シタルトキ

五　第百八條ノ規定ニ依ル帳簿若ハ書類ノ提出若ハ檢査ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ說明ノ求ニ應セサルトキ

第百三十六條　當選人其ノ選擧ニ關シ本章ニ掲グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無效トス選擧事務長又ハ選擧事務長ニ非ズシテ事實上選擧運動ヲ總括主宰シタル者第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ亦同ジ但シ選擧事務長ガ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人ガ選擧事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ選擧事務長ニ非ズシテ事實上選擧運動ヲ總括主宰シタル者ガ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人ガ選擧事務長ニ非ズシテ事實上選擧運動ヲ總括主宰シタル者ナルコトヲ知ラザリシトキ若ハ其ノ者ガ當選人ノ制止ニ拘ラズ事實上選擧運動ヲ總括主宰シタル者ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十七條　本章ニ掲クル罪（第百三十條

及第百三十二條ノ罪ヲ除ク）ヲ犯シタル者ニシテ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後五年間、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ終ル迄又ハ刑ノ時效ニ因ル場合ヲ除クノ外刑ノ執行ノ免除ヲ受クル迄ノ間及其ノ後五年間衆議院議員及選擧ニ付本章ノ規定ヲ準用スル議會ノ議員ノ選擧權及被選擧權ヲ有セス禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ付其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同シ

第百十二條乃至第百十三條ノ罪又ハ此等ノ規定ノ準用ニ依ル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ更ニ第百十二條乃至第百十三條ノ罪ニ付刑ニ處セラルル者ニ在リテハ前項ノ五年間ハ之ヲ十年間トス

裁判所ハ情狀ニ因リ刑ノ言渡ト同時ニ第一項ニ規定スル者ニ對シ同項五年間選擧權及被選擧權ヲ有セザル旨ノ規定ヲ適用セズ若ハ其ノ期間ヲ短縮スル旨ノ宣告ヲ爲シ又ハ前項ニ規定スル者ニ對シ同項ノ十年間ヲ短縮スル旨ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

前三項ノ規定ハ第六條第五號ノ規定ニ該當スル者ニハ之ヲ適用セズ

第百三十八條　第百二十七條第三項及第四項ノ罪ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

前項ニ掲クル罪以外ノ本章ノ罪ノ時效ハ六月ヲ經過スルニ因リテ完成ス但シ犯人逃亡シタルトキハ其ノ期間ハ一年トス

第十三章　補則

第百三十九條　選擧ニ關スル費用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百四十條　議員候補者又ハ選擧事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ選擧區內ニ在ル選擧人ニ對シ選擧運動ノ爲ニスル通常郵便物ヲ選擧人一人ニ付一通ヲ限リ無料ヲ以テ差出スコトヲ得

公立學校其ノ他勅令ヲ以テ定ムル營造物ノ設備ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ演說ニ依ル選擧運動ノ爲其ノ使用ヲ許可スヘシ

前項ノ營造物ノ管理者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ヲ爲スベシ

地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ議員候補者ノ政見等ヲ掲載シタル文書ヲ發行スベシ

第百四十一條　第十六條、第八十一條、第八十三條又ハ第八十四條第一項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外民事訴訟ノ例ニ依ル

第百四十一條ノ二　第八十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付テハ刑事訴訟法中第五百七十二條第二號第三號乃至第八號第十號乃至第十三號、第五百七十四條、第五百八十二條、第五百八十八條、第五百九十一條、第六百五條乃至第六百十條及第六百十二條ノ規定ヲ除クノ外私訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ同法第五百七十六條中民事訴訟法トアルハ刑事訴訟法トシ民事部トアルハ刑事部トス

第八十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付當選無效ノ判決確定スト雖モ其ノ判決ハ公訴ニ付有罪ノ判決確定スルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第百四十一條ノ三　選擧ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラズ速ニ其ノ裁判ヲ爲スベシ

第百四十二條　第十二章ニ掲クル刑ニ關スル刑事訴訟ニ付テハ上告裁判所ハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラサルコトヲ得

第百四十三條　當選人其ノ選擧ニ關シ第十二章ニ掲クル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ選擧事務長第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ裁判所ノ長ハ其ノ旨ヲ內務大臣及關係地方長官ニ通知スヘシ

第百四十四條　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管

理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス

第百四十四條ノ二　本法中郡又ハ島廳管內トアルハ從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ヲ謂フ

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域內ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ涉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スヘキ區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第百四十四條ノ三　北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アルモ選擧區ニ關シテハ仍從前ノ管轄區域ニ依ル但シ市町村ノ境界ノ變更アリタル爲北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル選擧ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百四十五條　第百四十四條ノ二ノ規定ヲ除クノ外本法中郡ニ關スル規定ハ支廳長ノ管轄區域ニ之ヲ適用ス

市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス但シ第十二條ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ日迄引續キ六月以上其ノ市町村內ニ住居ヲ有スル者トアルハ其ノ日迄引續キ六月以上其ノ市內ニ住居ヲ有シ且其ノ日ニ於テ其ノ區內ニ住居ヲ有スル者トス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第百四十六條　交通至難ノ島嶼其ノ他ノ地ニ於テ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百四十七條　第三十三條ノ規定ニ依ル投票ニ付テハ其ノ投票ヲ管理スヘキ者ハ之ヲ投票管理者、其ノ投票ヲ記載スヘキ場所ハ之ヲ投票所、其ノ投票ニ立會フヘキ者ハ之ヲ投票立會人ト看做シ第十二章ノ規定ヲ適用ス

第百四十八條　本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ更ニ第百十二條乃至第百十三條ノ規定ニ依リ刑ニ處セラルル者ニ之ヲ適用ス

第百四十九條　明治十三年第三十六號布告刑法第二編第四章第九節ノ規定ハ衆議院議員ノ選擧ニ關シテハ之ヲ適用セス

第百五十條　本法ハ東京府小笠島島竝北海道廳根室支廳管內占守郡、新知郡及得撫郡ニハ當分ノ內之ヲ施行セス

附則

本法ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

本法ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ第十八條ノ規定ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ總選擧ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル總選擧ニ必要ナル選擧人名簿ニ關シ第十二條、第十三條、第十五條又ハ第十七條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ムル但シ其ノ選擧人名簿ハ次ノ選擧人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

第百三十七條第二項ノ規定ハ第百十二條乃至第百十三條ノ改正規定ニ依リ又ハ此等ノ規定ノ準用ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ更ニ第百十二條乃至第百十三條ノ規定ニ依リ刑ニ處セラルル者ニ之ヲ適用ス

別表

選擧區		議員數
東京府		
第一區	麻布區、芝區、赤坂區、四谷區、牛込區、麹町區、麻生區	五人
第二區	神田區、小石川區、本郷區、下谷區	五人
第三區	日本橋區、京橋區、淺草區	四人
第四區	本所區、深川區	四人
第五區	品川區、目黑區、荏原區、大森區、蒲田區、世田谷區、澁谷區、中野區、大島區、淀橋區、島廳管內	五人
京都府		
第一區	上京區、下京區、左京區、東山區、右京區、伏見區	五人
第二區	愛宕郡、葛野郡、乙訓郡、久世郡、綴喜郡、相樂郡、南桑田郡、北桑田郡、船井郡	三人
第七區	八幡市、西多賀郡、南多賀郡、北多賀郡	三人
第六區	王子區、板橋區、豐島區、瀧野川區、足立區、荒川區、江戸川區、向島區、城東區、葛飾郡	五人

新潟縣

- 第一區（三人）：新潟市、西蒲原郡、佐渡郡
- 第二區（四人）：長岡市、南蒲原郡、北蒲原郡、中蒲原郡、東蒲原郡、岩船郡
- 第三區（五人）：三島郡、南蒲原郡、北蒲原郡、古志郡、北魚沼郡、南魚沼郡、刈羽郡
- 第四區（三人）：高田市、中頸城郡、東頸城郡、西頸城郡
- 第五區（三人）：川越市、北足立郡、入間郡、比企郡、秩父郡、兒玉郡、大里郡、埼玉郡、北埼玉郡、南埼玉郡、北葛飾郡

群馬縣

- 第一區（五人）：桐生市、前橋市、勢多郡、利根郡、佐波郡、新田郡、山邑郡
- 第二區（四人）：高崎市、群馬郡、多野郡、北甘樂郡、碓氷郡、吾妻郡
- 第三區（四人）：長野原郡、吾妻郡、利根郡、沼田市、勢多郡、佐波郡、山田郡、新田郡、邑楽郡

千葉縣

- 第一區（四人）：千葉市、千葉郡、東葛飾郡、君津郡
- 第二區（三人）：印旛郡、海上郡、匝瑳郡、香取郡
- 第三區（四人）：長生郡、山武郡、夷隅郡、安房郡

茨城縣

- 第一區（四人）：水戸市、東茨城郡、西茨城郡、鹿島郡、行方郡、稲敷郡、相馬郡
- 第二區（三人）：那珂郡、久慈郡、多賀郡
- 第三區（四人）：筑波郡、新治郡、真壁郡、結城郡、猿島郡
- 第四區（五人）：宇都宮市、河內郡、上都賀郡、塩谷郡、那須郡
- 第五區（五人）：栃木縣
- 第二區（四人）：足利市、安蘇郡、下都賀郡、芳賀郡、足利郡
- 第三區（五人）：奈良縣

- 第三區（三人）：大阪府
- 第一區（三人）：西港區、大正區、港區
- 第二區（三人）：南區、浪速區、天王寺區
- 第三區（四人）：東區、北區、東淀川區、此花區
- 第四區（四人）：西淀川區、東成區、旭區、住吉區、西成區
- 第五區（四人）：東淀川區、南豐島區、中島區、北能島區、河內郡、河內郡、中河內郡、北河內郡
- 第六區（三人）：堺市、岸和田市

神奈川縣

- 第一區（三人）：橫濱市、橫須賀市、久良岐郡
- 第二區（四人）：川崎市、橘樹郡、久良岐郡、都筑郡、三浦郡、鎌倉郡
- 第三區（四人）：高座郡、中足柄上郡、足柄下郡、愛甲郡、愛澤郡、津久井郡
- 第一區（五人）：尼崎市、西宮市、武庫郡、川邊郡、有馬郡、三田郡、津名郡、神戸市

兵庫縣

- 第二區（四人）：明石郡、明石市、美囊郡、加古郡、印南郡、揖保郡、赤穗郡、佐用郡、宍粟郡、朝來郡、養父郡、出石郡、城崎郡、美方郡、氷上郡、多紀郡
- 第三區（三人）：加東郡、加西郡、加古郡、印南郡、姬路市、飾磨郡、神崎郡、揖保郡、赤穗郡、佐用郡、宍粟郡
- 第四區（四人）：長崎縣
- 第一區（五人）：長崎市、西彼杵郡、北高來郡、南高來郡、對馬島、壹岐島、東彼杵郡、北松浦郡、南松浦郡、東松浦郡、佐世保市、北佐賀郡、東佐賀郡、壹岐郡
- 第二區（四人）：

第一區
- 名古屋市
- 阿山郡
- 一志郡
- 安濃郡
- 河曲郡
- 鈴鹿郡
- 三重郡
- 員辨郡
- 桑名郡
- 四日市市
- 津市

五人

愛知縣

第二區
- 飯田市
- 字治山田市
- 多氣郡
- 度會郡
- 志摩郡
- 北牟婁郡
- 南牟婁郡

四人

第三區
- 宮羽郡
- 栗島郡
- 葉中郡
- 丹一郡

三人

第二區
- 愛知郡
- 東春日井郡
- 西春日井郡
- 知多郡

三人

第一區
- 岡崎市
- 碧海郡
- 幡豆郡
- 額田郡
- 西加茂郡
- 東加茂郡

三人

第五區
- 豊橋市
- 北設樂郡
- 南設樂郡
- 寶飯郡
- 渥美郡
- 八名郡

三人

靜岡縣

第一區
- 靜岡市
- 清水市
- 庵原郡
- 志太郡
- 安倍郡
- 榛原郡
- 小笠郡

五人

第二區
- 田方郡
- 賀茂郡
- 沼津市
- 駿東郡
- 富士郡

四人

第三區
- 濱名郡
- 磐田郡
- 周智郡
- 濱引

四人

第四區
- 豊田郡
- 碧海郡
- 額田郡
- 幡豆郡
- 西加茂郡
- 東加茂郡
- 岡崎市

三人

第二區
- 上田郡
- 佐久郡
- 南佐久郡
- 北佐久郡
- 小縣郡
- 埴科郡

三人

第三區
- 上伊那郡
- 諏訪郡
- 下伊那郡

四人

第四區
- 松本市
- 西筑摩郡
- 東筑摩郡
- 南安曇郡
- 北安曇郡

三人

富山縣

第一區
- 仙台市
- 宮城郡
- 柴田郡
- 刈田郡
- 伊具郡
- 亘理郡
- 名取郡
- 宮城郡
- 黑川郡
- 加美郡
- 志田郡
- 遠田郡

五人

第二區
- 玉造郡
- 栗原郡
- 登米郡
- 桃生郡
- 牡鹿郡
- 本吉郡

三人

福島縣

第一區
- 福島郡
- 信夫郡
- 伊達郡
- 伊達郡
- 安積郡
- 安積郡
- 若松市
- 岩瀨郡
- 南會津郡
- 北會津郡
- 耶麻郡
- 河沼郡
- 大沼郡
- 東白川郡
- 西白川郡
- 石城郡
- 田村郡
- 相馬郡

三人

第三區
- 石城郡
- 雙葉郡
- 相馬郡

三人

岩手縣

第一區
- 盛岡市
- 紫波郡
- 下閉伊郡
- 九戸郡
- 二戸郡
- 稗貫郡
- 和賀郡
- 膽澤郡

三人

第二區
- 江刺郡
- 磐井郡
- 氣仙郡
- 東磐井郡
- 西磐井郡
- 上閉伊郡

四人

青森縣

第一區
- 青森市
- 八戸市
- 東津輕郡
- 上北郡
- 下北郡
- 三戸郡

三人

第二區
- 弘前市
- 西津輕郡
- 中津輕郡
- 南津輕郡
- 北津輕郡

三人

山形縣

第一區
- 米沢市
- 南置賜郡
- 東置賜郡
- 西置賜郡
- 村山郡
- 村山郡
- 村山郡
- 酒田市
- 鶴岡市

四人

第二區
- 最上郡
- 北村山郡
- 東田川郡

四人

長野縣

第一區
- 更級郡
- 上高井郡
- 下水内郡
- 上水内郡
- 下高井郡

三人

第三區
- 大岡郡
- 益田郡
- 惠那郡
- 土岐郡
- 可兒郡
- 加茂郡

三人

第二區
- 大飯郡
- 羽島郡
- 海津郡
- 養老郡
- 不破郡
- 安八郡
- 揖斐郡
- 本巣郡

三人

第一區
- 岐阜市
- 稻葉郡
- 山縣郡
- 武儀郡
- 大野郡
- 郡上郡

二人

岐阜縣

五人

滋賀縣

五人

山梨縣

四人

秋田縣
第一區
鹿角郡
秋田市
北秋田郡
南秋田郡
山本郡
河邊郡
四人

第二區
秋田郡
由利郡
仙北郡
平鹿郡
雄勝郡
三人

福井縣
石川縣
第一區
金澤市
江沼郡
能美郡
石川郡
河北郡
羽咋郡
鹿島郡
鳳珠郡
珠洲郡
五人

第二區
富山縣
上新川郡
中新川郡
下新川郡
婦負郡
三人

第一區
高岡市
射水郡
氷見郡
東礪波郡
西礪波郡
三人

第二區
鳥取縣
島根縣
松江市
八束郡
能義郡
仁多郡
大原郡
簸川郡
四人

第三區
岡山縣
岡山市
津山市
御津郡
赤磐郡
和氣郡
邑久郡
上道郡
苫田郡
五人

第一區
廣島縣
廣島市
安佐郡
佐伯郡
高田郡
山縣郡
安芸郡
沼田郡
佐伯郡
島根縣
邑智郡
那賀郡
鹿足郡
美濃郡
賀茂郡
石見國
隱岐國
飯石郡
仁多郡
能義郡
八束郡
松江市
三人

第二區
福山市
御調郡
世羅郡
深安郡
沼隈郡
神石郡
尾道市
福山市
三人

第三區
呉市
安芸郡
豊田郡
賀茂郡
田茂郡
豊田郡
四人

第一區
廣島市
佐伯郡
高田郡
山縣郡
佐伯郡
安芸郡
呉市
四人

第二區
廣島市
安佐郡
佐伯郡
沼田郡
佐伯郡
安芸郡
廣島市
佐伯郡
上道郡
吉田郡
後月郡
小田郡
浅口郡
都窪郡
倉敷市
兒島郡
久米郡
英田郡
勝田郡
五人

山口縣
第一區
下關市
厚狹郡
宇部市
豐浦郡
美禰郡
大津郡
阿武郡
四人

第二區
大島郡
玖珂郡
熊毛郡
都濃郡
佐波郡
吉敷郡
五人

和歌山縣
第一區
海草郡
和歌山市
那賀郡
伊都郡
有田郡
三人

第二區
日高郡
西牟婁郡
東牟婁郡
三人

德島縣
名東郡
名西郡
板野郡
阿波郡
麻植郡
美馬郡
三人

第二區
阿波郡
三好郡
勝浦郡
那賀郡
海部郡
三人

香川縣
第一區
高松市
大川郡
木田郡
小豆郡
香川郡
三人

第二區
丸亀市
綾歌郡
仲多度郡
三豐郡
三人

愛媛縣
第一區
松山市
溫泉郡
伊豫郡
上浮穴郡
喜多郡
三人

第二區
今治市
越智郡
周桑郡
新居郡
宇摩郡
三人

福岡縣
第一區
福岡市
糟屋郡
宗像郡
朝倉郡
筑紫郡
早良郡
糸島郡
若松市
八幡市
戸畑市
遠賀郡
鞍手郡
嘉穗郡
久留米市
浮羽郡
大牟田市
三人

第二區
福岡市
粕屋郡
宗像郡
遠賀郡
鞍手郡
田川郡
京都郡
築上郡
三人

第三區
高知縣
第一區
高知市
安芸郡
香美郡
長岡郡
土佐郡
三人

第二區
吾川郡
高岡郡
幡多郡
三人

第三區
宇和島市
西宇和郡
東宇和郡
北宇和郡
南宇和郡
三人

第三區	三井郡	五人	
	三潴郡		
	八女郡		
	山門郡		
	三池郡		
第四區	小倉市	四人	
	門司市		
	企救郡		
	田川郡		
	京都郡		
	筑上郡		
大分縣	大分市	四人	
	大分郡		
	北海部郡		
	南海部郡		
第一區	大野郡	四人	
	直入郡		
	玖珠郡		
	日田郡		
第二區	中津市	三人	
	別府市		
	西國東郡		
	東國東郡		
	速見郡		
	下毛郡		
	宇佐郡		
佐賀縣			
第一區	佐賀郡	三人	
	神埼郡		
第二區	小城郡	三人	
	三養基郡		
第三區	東松浦郡	三人	
	西松浦郡		
	杵島郡		
	藤津郡		
熊本縣			
第一區	熊本市	五人	
	飽託郡		
	玉名郡		
	鹿本郡		
	菊池郡		
	阿蘇郡		
第二區	宇土郡	五人	
	上益城郡		
	下益城郡		
	八代郡		
	葦北郡		
	球磨郡		
	天草郡		
宮崎縣			
鹿兒島縣			
第一區	鹿兒島市	五人	
	揖宿郡		
	川邊郡		
	日置郡		
	薩摩郡		
	出水郡		
第二區	大島郡	五人	
	名瀬市		
	大島郡		
沖繩縣			
第三區	島尻郡	三人	
	中頭郡		
	國頭郡		
北海道			
第一區	札幌市	四人	
	小樽市		
	石狩支廳管內		
	後志支廳管內		
第二區	旭川市	四人	
	旭川支廳管內		
	上川支廳管內		
	空知支廳管內		
	留萌支廳管內		
第三區	函館市	三人	
	檜山支廳管內		
	渡島支廳管內		
第四區	室蘭市	五人	
	知內支廳管內		
	振別支廳管內		
	膽振支廳管內		
	浦河支廳管內		
第五區	釧路市	四人	
	釧路支廳管內		
	河西支廳管內		
	根室支廳管內		
	網走支廳管內		
第二區	伊達郡	四人	
	勇拜郡		
	佐呂間郡		
	良知別郡		

本表ハ十年間ハ之ヲ更正セス

附則（大正十五年法律第八二號附則）

本法ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十五年勅令第百四十七號地方官官制改正ノ件ヲ以テ同年七月一日ヨリ施定ス）

衆議院議員選擧法施行令

（大正十五年一月三十日勅令第三十號）

改正、大正十五―勅令二三八、昭和三―勅令二六四、昭和九―勅令三二五

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選擧法施行令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

衆議院議員選擧法施行令

第一章　選擧區、選擧權及被選擧權

第一條　衆議院議員選擧法ノ別表ニ掲クル以外ノ市ハ其ノ設置前屬シタル都市ノ屬スル選擧區ニ包含スルモノトス

第二條　被選擧人ノ年齡ハ選擧ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス

第三條　衆議院議員選擧法第七條第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ學生生徒左ノ如シ

一　陸軍各部依託學生生徒

二　海軍軍醫學生藥劑學生主計學生造船學生造機學生造兵學生竝海軍航空豫備學生海軍豫備生徒及海軍豫備練習生

第二章　選擧人名簿

第四條　市町村ノ境界變更アリタル爲選擧人名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ市町村長ハ其ノ管理ニ屬スル選擧人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ送付スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲選擧人名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ前項ノ例ニ依ル

第五條　衆議院議員選擧法第十二條又ハ第十七條第三項ノ規定ニ依リ選擧人名簿ヲ調製シタルトキハ市町村長ハ直ニ其ノ寫二通ヲ地方長官ニ提出スヘシ

衆議院議員選擧法第十五條又ハ第十七條第二項但書ノ規定ニ依リ選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ市町村長ハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第六條　選擧人名簿ハ市町村長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三章　投票

第七條　市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　選擧人名簿ハ投票區毎ニ之ヲ調製スヘシ

二　各投票區ニ於ケル投票管理者ハ地方長官ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ投票管理者ノ內一人ハ市町村長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス

三　市町村長ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタルトキハ直ニ選擧人名簿（投票區ノ區域ト同一ノ區域ニ依リ調製セラレタル選擧人名簿ナキ場合ニ於テハ選擧人名簿中投票區ノ區域ニ係ル部分）ヲ各投票管理者ニ送付スヘシ

第八條　數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　投票管理者ハ地方長官ニ於テ關係町村長ノ中ニ就キ之ヲ定ム

二　町村長ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ投票管理者ニ送付スヘシ

第九條　地方長官必要アリト認ムルトキハ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ投票管理者及其ノ代理者故障アルトキ之ヲ代理スベキ者ヲ豫メ定ムルコトヲ得

投票管理者及其ノ代理者（前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ定メタル者ヲ含ム）故障アルトキハ地方長官ハ臨時ニ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第十條　投票立會人ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ投票立會人ノ氏名、住居及生年月日ヲ記載シ且本人ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第十一條　選擧人名簿調製期日後其ノ投票區域外ニ住居ヲ移シタル場合ニ於テハ名簿調製期日ニ於テ住居ヲ有シタル地ノ投票區ノ投票所ニ到リ投票ヲ爲スヘシ

第十二條　投票管理者必要アリト認ムルトキハ投票所入場券及到著番號札ヲ選擧人ニ交付スルコトヲ得

第十三條　投票記載ノ場所ハ選擧人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用フルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十四條　投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第十五條　投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先立チ投票所ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖スヘシ

第十六條　投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲ選擧人名簿ニ對照シタル後投票用紙ヲ交付スヘシ

第十七條　選擧人誤リテ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　投票ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人自ラ之ヲ投函スヘシ

第十九條　投票ヲ爲サムトスル選擧人ヲシテ本人ナル旨ノ宣言ヲ爲サシムル必要アルトキハ投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ宣言セシメ投票所ノ事務ニ從事スル者ヲシテ之ヲ筆記セシメ選擧人ニ讀聞カセ選擧人ヲシテ之ニ署名セシムヘシ

前項ノ規定ニ依ル宣言書ハ之ヲ投票錄ニ添附スヘシ

第二十條　選擧人投票前投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ投票管理者ハ投票用紙ヲ返付セシムヘシ

第二十一條　衆議院議員選擧法第二十八條ノ規定ニ依リ盲人カ投票ニ關スル記載ニ使用スルコトヲ得ル點字ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

點字ニ依リ投票ヲ爲サムトスル選擧人ハ投票管理者ニ對シ其ノ旨ヲ申立ツヘシ此ノ場合ニ於テハ投票管理者ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付スヘシ

點字ニ依ル投票ノ拒否ニ付テハ衆議院議員選擧法第三十一條ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於テハ封筒ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ假ニ爲サシメタル投票ハ衆議院議員選擧法第四十九條ノ規定ノ適用ニ付テハ同法第三十一條第二項及第四項ノ投票ト看做ス

第二十二條　投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ內蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管スヘシ

第二十三條　投票ニ關スル書類ハ投票管理者ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ市町村長タル投票管理者ハ其ノ他ノ投票管理者ノ保存スヘキ書類ヲ併セテ保存スヘシ

第二十四條　地方長官衆議院議員選擧法第三十六條ノ規定ニ依リ投票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ告示シ併セテ投票管理者及開票管理者ニ通知スヘシ

第二十五條　地方長官衆議院議員選擧法第三十七條ノ規定ニ依リ投票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ投票管理者、開票管理者及選擧長ニ通知スヘシ

第四章　衆議院議員選擧法第三十三條ノ投票

第二十六條　衆議院議員選擧法第三十三條ノ事由ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶、總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及艀舟其ノ他檣纜ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ檣纜ヲ以テ運轉スル舟ヲ除クノ外日本船舶（內地以外ニ船籍港ヲ定ムルモノヲ含ム以下之ニ同シ）ノ船員又ハ其ノ船舶ニ乘務スルノ常況ニ在ル者船內從業中ナルヘキコト

二　前號ノ船舶ヲ除クノ外日本船舶ニシテ總噸數五噸以上又ハ積石數五十石以上ノモノノ船員又ハ其ノ船舶ニ乘務スルノ常況ニ在ル者船內從業中ナルヘキコト

三　鐵道列車ニ乘務スルノ常況ニ在ル鐵道係員、郵便取扱員其ノ他ノ者鐵道列車ニ乘務中ナルヘキコト

四　選擧事務、投票所監視、選擧取締其ノ他選擧ニ關係アル職務ニ從事スル者其ノ投票區域外ニ於テ職務ニ從事中ナルベキコト

五　陸海軍軍人演習召集中又ハ教育召集中ナルベキコト

六　艦船乘員タル軍屬海上勤務中ナルベキコト

七　引續キ十日以上其ノ屬スル投票區所在ノ郡市外ニ於テ職務又ハ業務ニ從事スルヲ例トスル者其ノ屬スル投票區所在ノ郡市外ニ於テ職務又ハ業務ニ從事中ナルベキコト

八　選擧人名簿調製期日後其ノ屬スル投票區所在ノ郡市外ニ住居ヲ移シタル者其ノ屬スル投票區所在ノ郡市外ニ於テ職業又ハ業務ニ從事中ナルベキコト

第二十七條　選擧人前條第一號又ハ第五號乃至第八號ニ揭クル事由ニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキトキハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選擧ノ期日ノ前日迄ニ自ラ其ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ就キ又ハ之ニ對シ郵便ヲ以テ其ノ旨ヲ證シテ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前條第七號又ハ第八號ニ揭グル事由ニ關シ前項ノ請求ヲ爲ス者其ノ屬スル投票區以外ニ於テ投票ヲ爲サントスルトキハ前項ノ請求ヲ爲スト同時ニ其ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ對シ其ノ旨ヲ申立ツベシ

選擧人前條第二號乃至第四號ニ揭クル事由ニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキトキハ選擧ノ期日前十日ヨリ選擧ノ期日ノ前日迄ニ自ラ其ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ就キ其ノ旨ヲ證シテ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

點字ニ依リ投票ヲ爲サムトスル選擧人ハ第一項又ハ前項ノ請求ヲ爲スト同時ニ投票管理者ニ對シ其ノ旨ヲ申立ツヘシ

第二十八條　選擧人於テハ併セテ其ノ證スル事項ニ付各左ニ揭クル者ノ證明書ヲ提出スヘシ但シ第二十六條第五號ニ揭クル事由ニ基ク事項ニ付テハ選擧ノ期日カ召集期間中ナル場合ニ於テ選擧人自ラ其ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ就キ請求ヲ爲ストキニ限リ召集令狀ノ提示ヲ以テ證明書ノ提出ニ代フルコトヲ得

一　第二十六條第一號ニ揭クル事由ニ關シテハ船員ニ在リテハ管海官廳（管海官廳ニ準スヘキモノヲ含ム）、領事官又ハ船長（船長ノ職務ヲ行フ者ヲ含ム以下之ニ同シ）、其ノ他ノ者ニ在リテハ各所屬ノ官署ノ長又ハ其ノ業務主

二　第二十六條第二號ニ揭クル事由ニ關シテハ各所屬ノ官署ノ長又ハ其ノ者ノ業務主

三　第二十六條第三號ニ揭クル事由ニ關シテハ鐵道係員ニ在リテハ各所屬ノ車掌所主任機關庫主任電車庫主任（地方鐵道ニ在リテハ各之ニ該當スル者）、郵便取扱員ニ在リテハ各所屬ノ郵便局長、其ノ他ノ者ニ在リテハ各所屬ノ官署ノ長又ハ其ノ業務主

四　第二十六條第四號ニ揭グル事由ニ關シテハ各所屬ノ官公署ノ長

五　第二十六條第五號ニ揭グル事由ニ關シテハ其ノ者ノ所屬ノ部隊若ハ陸上海軍各部（陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル以下之ニ同ジ）ノ長又ハ所屬ノ艦船ノ長

六　第二十六條第六號ニ掲グル事由ニ關シテハ其ノ者ノ所屬ノ艦船ノ長

七　第二十六條第七號ニ掲グル事由ニ關シテハ各所屬ノ官公署若ハ議會ノ長又ハ其ノ者ノ業務主

八　第二十六條第八號ニ掲グル事由ニ關シテハ住居ヲ移シタル者ナルコトニ付テハ其ノ者ガ現ニ住居ヲ有スル地ノ市町村長、職務又ハ業務ニ從事中ナルニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハザルベキコトニ付テハ各所屬ノ官公署若ハ議會ノ長又ハ其ノ者ノ業務主

前項ノ規定ニ依ル證明者前項ノ證明書ノ交付ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該當事項アリト認ムルトキハ直ニ證明書ヲ交付スヘシ選擧人正當ノ事由ニ因リ第一項ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ投票管理者ニ疏明スヘシ

第二十九條　投票管理者第二十七條及前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ投票用紙及投票用封筒ノ交付ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ直ニ其ノ選擧ニ用フヘキ選擧人名簿ニ對照シ當該選擧人カ第二十六條ニ掲クル事由ノ一ニ因リ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハスト認ムルトキハ投票用紙及投票用封筒ヲ直ニ選擧人ニ直接ニ交付シ又ハ郵便ヲ以テ發送スヘシ

投票管理者第二十七條第二項ノ申立ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該選擧人ノ氏名、選擧人名簿調製期日ニ於ケル住居及生年月日竝ニ其ノ職務若ハ業務及其ノ職務若ハ業務ニ從事中ナルベキ地等ヲ記載シタル特別投票者證明書ヲ作製シ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ封筒ノ表面ニ特別投票者證明書在中ノ旨ヲ表示シ其ノ裏面ニ署名捺印シ之ヲ前項ノ投票用紙及投票用封筒ト共ニ選擧人ニ交付シ又ハ發送スベシ

第一項ノ場合ニ於テ第二十七條第四項ノ申立ヲ爲シタル選擧人ニ交付シ又ハ發送スル投票用紙ニハ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺スヘシ

第三十條　衆議院議員選擧法第三十三條ノ規定ニ依ル投票ニ付テハ當該選擧人カ第二十六條ニ掲クル事由ノ何レニ關シ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ受ケタルカニ依リ各左ニ掲クル者之ヲ管理ス（之ヲ特別投票管理者ト稱ス）

一　第二十六條第一號ニ掲クル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者又ハ其ノ乘務スル船舶ノ船長

二　第二十六條第二號乃至第四號ニ掲クル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者

三　第二十六條第五項ニ掲クル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者、其ノ所屬ノ部隊若ハ陸上海軍各部ノ所在地ノ投票管理者（當該所在地ニ以上ノ投票區ニ渉ルトキハ關係投票管理者ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者）又ハ所屬ノ艦船ノ長

四　第二十六條第六號ニ掲クル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者又ハ其ノ所屬ノ艦船ノ長

五　第二十六條第七號ニ掲グル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者又ハ其ノ現ニ職務若ハ業務ニ從事スル地ノ投票管理者

六　第二十六條第八號ニ掲グル事由ニ關スルトキハ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者又ハ其ノ現ニ住居ヲ有スル地ノ投票管理者

第三十一條　第二十六條第一號又ハ第五號乃至第八號ニ掲クル事由ニ關シ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ受ケタル選擧人ハ選擧ノ期日迄ニ其ノ投票用紙及投票用封筒ヲ特別投票管理者ニ提示シ點檢ヲ受ケ當該管理者ノ管理スル投票記載ノ場所ニ於テ自ラ投票用紙ニ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ投票用封筒ノ表面ニ其ノ氏名ヲ記載シ直ニ之ヲ當該管理者ニ提

出スヘシ

第二十六條第七號又ハ第八號ニ掲グル事由ニ關シ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ受ケタル選擧人其ノ屬スル投票區以外ニ於テ投票ヲ爲サントスル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ投票用紙及投票用封筒ヲ提示スルト同時ニ特別投票者證明書ヲ封筒ノ儘特別投票管理者ニ提出スベシ特別投票管理者特別投票者證明書ノ提出ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ封筒ヲ開披シ之ヲ調査シタル上投票ヲ爲サシムベシ

第二十六條第二號乃至第四號ニ掲クル事由ニ關シ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ受ケタル選擧人ハ其ノ交付ヲ受ケタル後直ニ特別投票管理者ノ管理スル投票記載ノ場所ニ於テ自ラ投票用紙ニ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ投票用封筒ノ表面ニ其ノ氏名ヲ記載シ直ニ之ヲ當該管理者ニ提出スヘシ

前三項ノ場合ニ於テ特別投票管理者ハ各關係市町村吏員、船員若ハ海軍軍人又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十三條ノ規定ハ第一項及第三項ノ投票記載ノ場所ニ之ヲ準用ス

第三十二條　特別投票管理者前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ル投票ヲ受領シタルトキハ投票用封筒ノ裏面ニ投票ノ年月日及場所ヲ記載シ前條第四項ノ規定ニ依ル立會人トスヘシ

共ニ之ニ署名スヘシ

前項ノ特別投票管理者選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者ナルトキハ其ノ投票ヲ其ノ儘保管スヘシ

第一項ノ特別投票管理者選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者以外ノ者ナルトキハ更ニ其ノ投票ヲ他ノ封筒ニ入レ封緘シ其ノ表面ニ署名捺印シ之ヲ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ送致スヘシ

投票管理者選擧人ノ屬スル投票區ニ異動アリタルニ因リ投票管理者ノ管理ニ係ル投票區ニ屬スルコトナキニ至リタル選擧人ノ投票ハ投票管理者ニ於テ直ニ之ヲ新ニ選擧人ノ屬スル投票區ノ投票管理者ニ送致スヘシ

投票管理者投票所ヲ閉ツヘキ時刻迄ニ前二項ノ規定ニ依ル投票ノ送致ヲ受ケタルトキハ送致ニ用ヒラレタル封筒ヲ開披シ投票ハ其ノ儘之ヲ保管スヘシ

第三十三條　投票管理者ハ第二十七條乃至第二十九條及前二條ノ規定ニ依ル手續ニ關スル顚末書ヲ作成シ之ニ署名シ投票錄ニ添附スヘシ

第三十四條　投票管理者ハ投票函閉鎖前投票立會人ノ意見ヲ聽キ第三十二條第二項又ハ第五項ノ規定ニ依リ保管スル投票ノ受理如何ヲ決定スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ投票管理者ハ直ニ投票用封筒ヲ開披シ其ノ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シタル投票用紙ヲ用ヒタル投票ニ付衆議院議員選擧法第三十一條ノ例ニ依リ其ノ拒否ヲ決定スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ受理スヘシト決定セラレ且前項ノ規定ニ依ル拒否ノ決定ヲ受ケサル投票ハ投票管理者ニ於テ直ニ之ヲ投函シ

第一項ノ規定ニ依リ受理スヘカラスト決定セラレタル投票又ハ前項ノ規定ニ依ル拒否ノ決定ヲ受ケタル投票ハ投票管理者ニ於テ更ニ之ヲ其ノ投票用封筒ニ入レ假ニ封緘ヲ施シ其ノ表面ニ第一項ノ規定ニ依ル不受理ノ決定又ハ前項ノ規定ニ依ル拒否ノ決定アリタル旨ヲ記載シテ之ヲ投函スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル不受理ノ決定又ハ第二項ノ規定ニ依ル拒否ノ決定アリタル投票ハ衆議院議員選擧法第四十九條ノ規定ノ適用ニ付テハ同法第三十一條第二項及第四項ノ投票ト看做ス

第三十五條　第二十九條第一項及第三項ノ規定ニ依リ交附ヲ受ケタル投票用紙及投票用封筒ハ選擧ノ當日投票所ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

選擧人第二十九條第一項及第三項ノ規定ニ

依リ投票用紙及投票用封筒ノ交附ヲ受ケタルトキハ之ヲ投票管理者ニ返還スルニ非サレハ衆議院議員選挙法第二十五條第一項ノ規定ニ依ル投票ヲ爲スコトヲ得ス

選挙人第二十九條第二項ノ規定ニ依リ特別投票者證明書ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ屬スル投票區ニ於テ衆議院議員選挙法第二十五條第一項又ハ本令第三十一條第一項ノ規定ニ依ル投票ヲ爲サントスルトキハ之ヲ投票管理者又ハ特別投票管理者ニ返還スベシ

第三十六條　投票管理者投票所ヲ閉ツヘキ時刻後第三十二條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依ル投票ノ送致ヲ受ケタルトキハ送致ニ用ヒラレタル封筒ヲ開披シ投票用封筒ノ裏面ニ受領ノ年月日時ヲ記載シ之ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

第五章　開票

第三十七條　郡市ノ區域ヲ分チテ數開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ各開票區ニ於ケル開票管理者ハ地方長官ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ定ム但シ支廳長ノ管轄區域又ハ市ノ區域ヲ分チテ數開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ開票管理者ノ内一人ハ支廳長又ハ市長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス

第三十七條ノ二　數郡市ノ區域ヲ合セテ一開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ官吏又ハ關係市長ノ中ニ就キ之ヲ定ム

第三十八條　第九條ノ規定ハ開票管理者及其ノ代理者ニ、第十條ノ規定ハ開票立會人ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ二　地方長官衆議院議員選挙法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ投票點檢ノ區域ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ告示スベシ

第三十九條　投票ヲ點檢スルトキハ開票管理者ハ開票事務ニ從事スル者二人ヲシテ各別ニ同一議員候補者ノ得票數ヲ計算セシムヘシ

第四十條　前條ノ計算終リタルトキハ開票管理者ハ衆議院議員選挙法第四十九條第二項ノ區域毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第四十一條　開票管理者衆議院議員選挙法第四十九條第三項ノ報告ヲ爲ストキハ同時ニ開票錄ノ謄本ヲ送付スヘシ

開票管理者ハ前項ノ報告ヲ爲シタル後直ニ投票管理者ヨリ送付シタル選挙人名簿ヲ關係市町村長ニ返付スヘシ

第四十二條　開票管理者ハ衆議院議員選挙法第四十九條第二項ノ區域毎ニ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ開票立會人ト共ニ封印ヲ施シ之ヲ保存スヘシ

受理スヘカラスト決定シタル投票ハ其ノ封筒ヲ開披セス前項ノ例ニ依リ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三十六條ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル投票ハ開票管理者ニ於テ其ノ封筒ヲ開披セス議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）又ハ吏員（市長ヲ除ク）開票管理者タル場合ニ於テハ開票管理者ノ保存スヘキ投票ハ地方長官若ハ支廳長又ハ市長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第四十三條　開票ニ關スル書類ハ開票管理者ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ前條第四項ノ規定ヲ準用ス

第四十四條　地方長官衆議院議員選挙法第五十六條ノ規定ニ依リ開票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ開票管理者及選挙長ニ通知スヘシ

第六章　選挙會

第四十五條　第九條ノ規定ハ選挙長及其ノ代理者ニ、第十條ノ規定ハ選挙立會人ニ之ヲ準用ス

第四十六條　開票管理者ノ報告ヲ調査スルトキハ選挙長ハ開票區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第四十七條　選挙會ニ關スル書類ハ選挙長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）選挙長タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第四十八條　地方長官衆議院議員選挙法第六十五條ノ規定ニ依リ選挙會ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ選挙長ニ通知スヘシ

第七章　議員候補者及當選人

第四十九條　議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ議員候補者タルヘキ者ノ氏名、職業、住居及生年月日（推薦屆出ノ場合ニ於テハ併セテ推薦屆出者ノ氏名、住居及生年月日）ヲ記載シ且衆議院議員選挙法第六十八條第一項ノ供託ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ被選挙權ヲ有セサルニ至リタル爲選挙ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第五十條　議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出アリタルトキハ選挙長ハ直ニ其ノ旨ヲ議員候補者ノ住居ヲ有スル地ノ市町村長ニ通知シ同時ニ議員候補者ノ氏名、職業、住居、生年月日其ノ他必要ナル事項ヲ開票管理者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ當該議員候補者死亡シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ選挙長ニ通知スヘシ

選挙長ハ議員候補者ノ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ其ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ開票管理者ニ通知スヘシ

第五十一條　議員候補者選挙ノ期日前十一日迄ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ、選挙ノ期日ニ於ケル投票所ヲ開クヘキ時刻迄ニ死亡シタルトキ若ハ被選挙權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ選挙ノ全部無效ト爲リタルトキハ直ニ衆議院議員選挙法第六十八條第一項ノ供託物ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

議員候補者ノ得票數衆議院議員選挙法第六十八條第二項ノ規定ニ該當セサルモノナルトキ又ハ議員候補者同法第七十一條ノ規定ノ適用ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ選挙及當選ノ效力確定後直ニ同法第六十八條第一項ノ供託物ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條　當選人衆議院議員選挙法第七十四條ノ期間内ニ當選承諾ノ屆出ヲ爲サルトキハ選挙長ハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八章　選挙運動

第五十三條　選挙事務長ノ選任（議員候補者又ハ推薦屆出者自ラ選挙事務長ト爲リタル場合ヲ含ム以下之ニ同シ）ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ選挙事務長ノ氏名、職業、住居、生年月日及選任年月日竝議員候補者ノ氏名ヲ記載シ且選挙事務長カ選挙權ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

推薦屆出者選挙事務長ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ前項ノ屆出ニハ推薦屆出者數人アルトキハ其ノ代表者タルコトヲ證スヘキ書面ヲ、其ノ選任ニ付議員候補者ノ承諾ヲ要スルトキハ其ノ承諾ヲ得タルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五十四條　選挙委員ノ選任ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ選挙委員ノ氏名、職業、住居、生年月日及選任年月日ヲ記載シ且選挙委員カ選挙權ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五十五條　選挙事務所ノ設置ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ選挙事務所ノ所在地及設置年月日ヲ記載スヘシ

第五十六條　選挙事務長、選挙委員又ハ選挙事務所ニ異動アリタルコトノ屆出ハ前三條ノ例ニ依リ之ヲ爲スヘシ

前項ノ屆出ニシテ解任又ハ辭任ニ因ル異動ニ關スルモノニハ衆議院議員選擧法第八十八條第三項若ハ第四項又ハ第八十九條第二項若ハ第三項ノ通知アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ選擧事務長ヲ選任シタル推薦屆出者選擧事務長ヲ解任シタル場合ニ於テハ併セテ其ノ解任ニ付議員候補者ノ承諾アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五十七條　選擧事務長故障アルトキ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フコトノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ選擧事務長ノ氏名（選擧事務長ノ選任ヲ爲シタル推薦屆出者モ亦故障アルトキハ併セテ其ノ氏名）、故障ノ事實及其ノ職務代行ヲ始メタル年月日ヲ記載シ且故障ノ生シタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

選擧事務長故障アルトキ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者之ヲ罷メタルコトノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ故障ノ止ミタル事實及其ノ職務代行ヲ罷メタル年月日ヲ記載シ且故障ノ止ミタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五十七條ノ二　交通至難ノ情況アル選擧區ニ於テハ衆議院議員選擧法第九十條但書ノ規定ニ依リ選擧事務所ヲ三箇所迄設置スルコトヲ得

前項ノ選擧區、選擧事務所ノ數及選擧事務所ヲ設置シ得ベキ區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第五十七條ノ三　衆議院議員選擧法第九十六條第一項但書ノ規定ニ依リ議員候補者、選擧事務長又ハ選擧委員ニ非ザル者ガ演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ各號ノ制限ニ從フベシ

一　選擧人ニ對シ戶別訪問ヲ爲シ又ハ連續シテ個個ノ選擧人ニ對シ面接シ若ハ電話ニ依リ通話ヲ爲スコトヲ得ズ

二　演說會告知ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外新聞紙又ハ雜誌ヲ利用スルコトヲ得ズ

三　演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ヲ爲スニ付强テ議員候補者又ハ選擧事務長ノ承諾ヲ求ムルコトヲ得ズ

第九章　選擧運動ノ費用

第五十八條　選擧事務長選擧運動ノ費用ノ支出ノ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テ承諾ニ係ル費用ノ支出終了シタルトキ又ハ選擧ノ期日經過シタルトキハ選擧事務長ハ遲滯ナク其ノ承諾ヲ受ケタル者ニ就キ支出金額（財產上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財產上ノ利益ノ使用若ハ費消ノ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テハ其ノ負擔シタル義務又ハ其ノ使用若ハ費消シタル利益）、其ノ用途ノ大要、支出先、支出年月日及支出者ノ氏名ヲ記載シ共ニ署名捺印シ第六十八條ニ定ムル帳簿及書類ト共ニ其ノ引繼ヲ爲スヘシ

第五十九條　演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ノ費用ニシテ議員候補者、選擧事務長又ハ選擧委員ニ非サル者カ議員候補者又ハ選擧事務長ト意思ヲ通シテ支出シタルモノニ付テハ選擧事務長ハ其ノ都度遲滯ナク議員候補者又ハ支出者ニ就キ前條ノ例ニ依リ精算書ヲ作成スヘシ

前項ノ費用ニシテ議員候補者ト意思ヲ通シテ支出シタルモノニ付テハ其ノ意思ヲ通シタル都度議員候補者ハ直ニ其ノ旨ヲ選擧事務長ニ通知スヘシ

第六十條　立候補準備ノ爲ニ要シタル費用ニシテ議員候補者若ハ選擧事務長ト爲リタル者カ支出シ又ハ他人カ其ノ者ト意思ヲ通シテ支出シタルモノニ付テハ選擧事務長ハ其ノ就任後遲滯ナク議員候補者又ハ支出者ニ就キ第五十八條ノ例ニ依リ精算書ヲ作成スヘシ

第六十一條　選擧事務長ハ左ニ掲クル帳簿ヲ備フヘシ

一　承諾簿
二　評價簿
三　支出簿

第六十二條　選擧事務長選擧運動ノ費用ノ支出ノ承諾ヲ與ヘタルトキハ直ニ承諾ニ係ル

金額（財產上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財產上ノ利益ノ使用若ハ費消ノ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テハ承諾ニ係ル義務又ハ利益）、其ノ用途ノ大要、承諾年月日及承諾ヲ受ケタル者ノ氏名ヲ承諾簿ニ記載スヘシ

選擧事務長選擧運動ノ費用ノ支出ノ承諾ヲ與ヘタル後未タ支出セラレサル費用ニ付テハ文書ヲ以テ其ノ承諾ノ取消ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ前項ノ例ニ依リ承諾簿ニ記載スヘシ

選擧事務長第五十八條ノ規定ニ依リ精算書ヲ作成シタルトキハ直ニ支出總金額（財產上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財產上ノ利益ノ使用若ハ費消ニ付テハ其ノ種類別總額）、其ノ用途ノ大要、精算年月日及承諾ヲ受ケタル者ノ氏名ヲ承諾簿ニ記載スヘシ

第六十三條　左ニ掲クル場合ニ於テハ選擧事務長ハ直ニ財產上ノ義務又ハ金錢以外ノ財產上ノ利益ヲ時價ニ見積リタル金額、其ノ用途ノ大要、支出先、支出年月日及見積リノ詳細ナル根據ヲ評價簿ニ記載スヘシ

一　選擧事務長選擧運動ノ費用トシテ財產上ノ義務ヲ負擔シ又ハ金錢以外ノ財產上ノ利益ヲ使用シ若ハ費消シタルトキ

二　選擧事務長第五十九條第一項又ハ第六十條ノ規定ニ依リ財產上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財產上ノ利益ノ使用若ハ費消ノ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テハ承諾ニ係ル義務又ハ利益ノ使用若ハ費消ニ關スル精算書ヲ作成シタルトキ

三　選擧事務長前條ノ規定ニ依リ財產上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財產上ノ利益ノ使用若ハ費消ニ關スル承諾簿ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　選擧事務長前條ノ規定ニ依リ評價簿ノ記載ヲ爲シタルトキ

第六十四條　左ニ掲クル場合ニ於テハ選擧事務長ハ直ニ支出金額、其ノ用途ノ大要、支出先及支出年月日ヲ支出簿ニ記載スヘシ

一　選擧事務長金錢ヲ以テ選擧運動ノ費用ノ支出ヲ爲シタルトキ

二　選擧事務長第五十九條第一項又ハ第六十條ノ規定ニ依リ金錢ノ支出ニ關スル精算書ヲ作成シタルトキ

三　選擧事務長第六十二條第三項ノ規定ニ依リ金錢ノ支出ニ關スル承諾簿ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　選擧事務長前條ノ規定ニ依リ評價簿ノ記載ヲ爲シタルトキ

第六十四條ノ二　承諾簿、評價簿及支出簿ノ記載ハ內務大臣ノ定ムル樣式ニ依ルベシ

第六十五條　衆議院議員選擧法第百九條ノ規定ニ依リ事務ノ引繼ヲ爲ス場合ニ於テハ第六十六條ニ定ムル精算屆書ノ樣式ニ準シ選擧運動ノ費用ノ計算書ヲ作成シテ引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者ニ於テ之ニ引繼ノ旨及引繼年月日ヲ記載シ共ニ署名捺印シ第六十八條ニ定ムル帳簿及書類ト共ニ其ノ引繼ヲ爲スヘシ

第六十六條　衆議院議員選擧法第百六條第一項ノ規定ニ依ル選擧運動ノ費用ノ精算ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ內務大臣ノ定ムル精算屆書ノ樣式ニ依ルヘシ

第六十七條　選擧運動ノ費用ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ都度領收書其ノ他ノ支出ヲ證スヘキ書面ヲ徵スヘシ但シ之ヲ徵シ難キ事情アルトキ又ハ一口五圓未滿ノ支出ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　衆議院議員選擧法第百七條第二項ノ規定ニ依リ帳簿及書類ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　第五十八條乃至第六十條ノ精算書
二　第六十一條ニ掲クル帳簿
三　第六十五條ノ計算書
四　前條ノ領收書其ノ他ノ支出ヲ證スヘキ書面

第十章　選擧ニ關スル費用

第六十九條　選擧人名簿、投票ノ用紙及封筒、特別投票者證明書及其ノ封筒、投票函並點字器ノ調製ニ要スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第七十條　選擧事務ノ爲地方長官、選擧長、

開票管理者又ハ投票管理者ニ於テ要スル費用及選擧會場、開票所又ハ投票所ニ要スル費用ハ關係行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

衆議院議員選擧法第三十三條ノ規定ニ依ル投票ニ關スル選擧事務ノ爲投票管理者又ハ特別投票管理者ニ於テ要スル費用及其ノ投票記載ノ場所ニ要スル費用ハ選擧人ノ屬スル投票區ノ行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第七十一條　前條ノ關係行政廳二以上アル場合ニ於テハ其ノ支辨スヘキ費用ハ關係行政廳ニ之ヲ平分スヘシ此ノ場合ニ於テ關係行政廳ノ經費カ同一經濟ニ屬スルトキハ一行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第七十二條　投票立會人、開票立會人及選擧立會人ニハ職務ノ爲要スル費用ヲ給ス

前項ノ費用ノ額ハ地方長官之ヲ定ム

第一項ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第七十二條ノ二　公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ニ要スル費用ハ公立學校又ハ第七十六條ノ造營物ノ設備毎ニ議員候補者一人ニ付一回ノ公營ノ分ヲ限リ國庫ノ負擔トス

前項ノ規定ニ依リ國庫ノ負擔スベキ費用ノ額ハ第八十一條ノ三第二項又ハ之ヲ準用スル第八十三條ノ規定ニ依リ公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者ノ定メタル費用ノ額（第八十六條第二項ノ規定ニ依リ當該管理者ニ代リ地方長官ノ定メタル費用ノ額ヲ含ム）ニ依リ國庫ヨリ當該公共團體ニ對シ之ヲ交付ス

第七十二條ノ三　公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ニ要スル費用ハ前條第一項ノ規定ニ依リ國庫ノ負擔ニ屬スル場合ヲ除クノ外第八十一條ノ三又ハ之ヲ準用スル第八十三條ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請者ノ負擔トス

第八十一條ノ三又ハ之ヲ準用スル第八十三條ノ規定ニ依ル納付金ハ當該公共團體ノ收入トス

第七十二條ノ四　公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ニ要スル費用ハ當該公共團體ノ經費ヲ以テ之ヲ經理スベシ

第七十二條ノ五　選擧公報ノ發行ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第十一章　無料郵便物ノ差出

第七十三條　衆議院議員選擧法第百四十條第一項ノ選擧運動ノ爲ニスル通常郵便物ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一　重量三十五グラム迄ノ無封ノ書狀

二　私製葉書

前項ノ郵便物ハ之ヲ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

第七十四條　前條ノ郵便物ハ推薦屆出者議員候補者ノ承諾ヲ得ズシテ選擧事務長ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該選擧事務長、其ノ他ノ場合ニ於テハ議員候補者ニ限リ之ヲ差出スコトヲ得

選擧事務長ニ異動アリタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ新ニ前條ノ郵便物ヲ差出シ得ルニ至リタル者ハ其ノ未ダ差出サレザル選擧人ニ對シテノミ之ヲ差出スコトヲ得

第七十五條　前二條ニ定ムルモノノ外第七十三條ノ郵便物ニ關シ必要ナル事項ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十二章　公立學校等ノ設備ノ使用及其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營

限ル

一　公會堂

二　議事堂

三　前各號ノ外地方長官ノ指定シタル營造物ノ設備

議事堂ニシテ國又ハ公共團體ノ他ノ營造物ノ設備ト同一ノ建物內ニ在リ又ハ之ニ接續シ若ハ近接シ其ノ使用ニ依リ國又ハ公共團體ノ事務ニ著シキ支障アリト認ムルモノニ付テハ地方長官ハ豫メ之ヲ指定シ其ノ使用ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

前ニ項ノ指定ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第七十七條　公立學校及前條ノ營造物ノ設備ノ使用竝ニ其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ハ推薦屆出者議員候補者ノ承諾ヲ得ズシテ選擧事務長ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該選擧事務長、其ノ他ノ場合ニ於テハ議員候補者ニ限リ之ヲ申請スルコトヲ得

第七十八條　公立學校ヲ使用セムトスルトキハ其ノ使用スヘキ學校ノ設備及日時ヲ記載シタル文書ヲ以テ當該公安學校管理者ニ之ヲ申請スヘシ

同一議員候補者ノ爲二回以上同一公立學校ヲ使用セムトスルトキハ先ノ申請ニ對シ許可セラレタル使用ノ日ヲ經過シタル後ニ非サレハ更ニ申請ヲ爲スコトヲ得ス

第七十八條ノ二　公立學校ヲ使用セントスル場合ニ於テ併セテ其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ヲ受ケントスルトキハ其ノ使用ノ日ノ前日迄ニ文書ヲ以テ當該公立學校管理者ニ之ヲ申請スベシ

前項ノ申請ハ前條ノ規定ニ依ル申請書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ此ノ場合ニ於テハ前條ノ申請ハ公立學校ノ使用ノ日ノ前日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

特別ノ事情アルトキハ公立學校管理者ハ地方長官ノ承認ヲ得テ前二項ニ規定スル期限ト異リタル期限ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ期限ヲ定メタルトキハ公立學校管理者ハ直ニ之ヲ告示スベシ

第七十九條　同一公立學校ヲ同一日時ニ使用スヘキ二以上ノ申請アリタルトキハ公立學校管理者ハ先ニ到達シタル申請書ノ申請ニ對シ、其ノ到達同時ナルトキハ既ニ使用ヲ許可セラレタル度數ノ少キ議員候補者ノ爲ニ申請ニ對シ其ノ使用ヲ許可スヘシ其ノ度數モ亦同シキトキハ申請者又ハ其ノ代人立會ノ上抽籤ニ依リ其ノ使用ヲ許可スヘキ者ヲ決定スヘシ

第八十條　第七十八條ノ規定ニ依ル申請書ノ到達アリタルトキハ公立學校管理者ハ當該公立學校長ノ意見ヲ徵シテ其ノ許否ヲ決定シ到達ノ日ヨリ二日以內ニ申請者又ハ其ノ代人及當該公立學校長ニ通知スヘシ

第八十一條　公立學校ノ使用ノ許可ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　公立學校長ニ於テ學校ノ授業又ハ諸行事ニ支障アリト認ムル場合ニ於テハ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得ス

二　職員室、事務室、宿直室、器械室、標本室其ノ他公立學校長ニ於テ著シキ支障アリト認ムル設備ニ付テハ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得ス

三　使用ヲ許可スヘキ期間ハ選擧ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選擧ノ期日ノ前日迄トス

四　使用ノ時間ハ一回ニ付五時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八十一條ノ二　公立學校ノ使用ヲ許可シタル場合ニ於テ第七十八條ノ二ノ規定ニ依ル申請アルトキハ公立學校管理者ハ照明、演壇、聽衆席等演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設（暖房ノ施設ヲ除ク）ヲ爲スベシ但シ第八十一條ノ三ノ規定ニ依ル費用ノ納付ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ爲スベキ施設ニ關シ其ノ程度其ノ他必要ナル事項ハ公立學校管理者ニ於テ地方長官ノ承認ヲ得テ之ヲ定メ豫メ告示スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ公立學校管理者ハ第一項ノ規定ニ依ル施設ヲ爲サザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公立學校管理者ハ直ニ其ノ旨ヲ第七十八條ノ二ノ規定　依ル申請者ニ通知シ併セテ之ヲ地方長官ニ報告スベシ

公立學校ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ第一項ノ規定ニ依ル施設ノ公費ヲ受クル場合ト雖モ自ラ演說會開催ノ爲ニスル施設ヲ加フルコトヲ妨ゲズ

第八十一條ノ三　公立學校ノ使用ノ許可アリタル場合ニ於テハ第七十八條ノ二ノ規定ニ依ル申請者ハ前條第三項ノ場合ヲ除クノ外其ノ使用ノ日ノ前日迄ニ前條第一項ノ規定ニ依ル施設ノ公費ニ要スル費用ヲ當該公立學校管理者ニ納付スベシ但シ第七十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ納付スベキ費用ノ額ハ公立學校管理者ニ於テ內務大臣ノ定ムル規準ニ從ヒ地方長官ノ承認ヲ得テ之ヲ定メ豫メ告示スベシ

第一項ノ規定ニ依ル納付金ハ前條第三項ノ場合ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ公立學校ノ使用ノ日ノ前日迄ニ申請者ヨリ其ノ使用ヲ爲サズ若ハ其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公費ヲ受ケザルベキ旨ヲ當該公立學校管理者ニ申出デタルトキハ之ヲ還付スベシ

第七十八條ノ二第三項及第四項ノ規定ハ第一項及前項ニ規定スル期限ニ關シ之ヲ準用ス

第八十二條　道廳府縣立學校管理者タル地方長官ハ前七條ニ規定スル管理者ノ權限ヲ學校長ニ委任スルコトヲ得

地方長官前項ノ委任ヲ爲シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第八十三條　前八條ノ規定ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用及其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公費ニ之ヲ準用ス但シ公立學校長ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ第八十一條中公立學校長トアルハ管理者トス

第八十四條ノ料金ガ演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公費ニ要スル費用ヲモ包含スルモノナル場合ニ於テハ第八十一條ノ三ノ規定ノ準用ニ付テハ其ノ料金ヲ以テ第八十一條ノ二第一項ノ規定ノ準用ニ依ル施設ノ公費ニ要スル費用ト看做ス

第八十四條　第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ付一般ニ使用ニ關スル料金徵收ノ定アルモノニ關シテハ其ノ料金ヲ徵收スルコトヲ妨ケス

第八十五條　公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ノ準備及其ノ後片付等ニ要スル費用ハ使用ノ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公費ヲ受クル場合ニ於テハ公費ニ伴フ前項ノ費用ハ其ノ施設ノ公費ニ要スル費用ニ包含セラルルモノトス

公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ニ因リ其ノ設備ヲ損傷シタルトキハ使用ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ賠償シ又ハ原狀ニ復スヘシ

第八十六條　地方長官ハ公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者カ本章ノ規定ニ違反シテ又ハ不當ニ使用ノ許可ヲ爲シ又ハ爲ササルトキハ使用ノ許可ヲ取消シ又ハ使用ノ許可ヲ爲スコトヲ得

地方長官ハ公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者ガ第八十一條ノ二第二項若ハ第八十一條ノ三第二項又ハ此等ヲ準用スル第八十三條ノ規定ニ依リ爲スベキ事項ヲ爲サザルトキハ當該管理者ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得

第八十七條　地方長官ハ選擧運動ノ爲ニスル公立學校又ハ第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用及其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公費ニ關シ本章ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十二章ノ二　選擧公報ノ發行

第八十七條ノ二　衆議院議員選擧法第百四十條第四項ノ規定ニ依ル文書（之ヲ選擧公報ト稱ス）ハ總選擧毎ニ一回之ヲ發行スベシ

第八十七條ノ三　選擧公報ハ選擧區毎ニ之ヲ發行スベシ

特別ノ事情アル選擧區又ハ其ノ一部ニ關シテハ選擧公報ヲ發行セズ

前項ノ規定ニ依リ選擧公報ヲ發行セザル區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第八十七條ノ四　議員候補者選擧公報ニ政見等ノ掲載ヲ受ケントスルトキハ地方長官ノ指定スル期日迄ニ其ノ掲載文ヲ具シ文書ヲ以テ地方長官ニ之ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ掲載文ハ字數三千ヲ超ユルコトヲ得ズ

地方長官ハ總選擧ノ期日ノ公布アリタル後直ニ第一項ノ期日ヲ告示スベシ

第八十七條ノ五　前條第一項ノ申請アリタルトキハ地方長官ハ其ノ掲載文ヲ原文ノ儘選擧公報ニ掲載スルコトヲ要ス

前條第一項ノ掲載文ガ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ地方長官ハ內務大臣ノ指揮ヲ請ヒ之ヲ選擧公報ニ掲載セザルコトヲ得其ノ指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ地方長官ハ自己ノ意見ニ依リ之ヲ選擧公報ニ掲載セザルコトヲ得

前條第一項ノ掲載文ノ字數同條第二項ノ制限ヲ超ユルトキハ地方長官ハ其ノ超過スル部分ヲ選擧公報ニ掲載セザルモノトス

第八十七條ノ六　選擧公報ハ議員候補者毎ニ別ノ用紙ヲ以テ之ヲ調製スベシ

第八十七條ノ七　選擧公報ハ各議員候補者ノ分ヲ編綴セズシテ一括シ豫メ地方長官ノ指定スル期日迄ニ當該選擧區ニ於ケル選擧人名簿ニ記載セラレタル者ニ對シ名簿記載ノ住居ニ依リ郵便ヲ以テ之ヲ發送スベシ

地方長官ハ總選擧ノ期日ノ公布アリタル後直ニ前項ノ期日ヲ告示スベシ

第八十七條ノ八　衆議院議員選擧法第七十一條第一項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セザルニ至リタルトキハ選擧公報發行ノ手續ハ之ヲ中止ス

第八十七條ノ九　地方長官ハ選擧公報ノ發行ニ關シ本章ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三章　交通至難ノ島嶼ニ於ケル特例

第八十八條　北海道廳根室支廳管內國後郡、紗那郡、擇捉郡蘂取郡及色丹郡ニ於ケル選擧ニ關シテハ第八十九條乃至第百七條ノ規定ニ依ル

第八十九條乃至第九十二條　（削除）

第九十三條　衆議院議員選擧法第十六條第一項ニ定ムル出訴期間ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內トス

第九十四條　衆議院議員選擧法第三十一條第二項乃至第四項ノ規定及第三十四條中投票ヲ受理スヘカラスト決定シタル場合ニ關スル規定ハ之ヲ適用セス

第九十五條　投票管理者ハ投票ノ翌日投票所ニ於テ衆議院議員選擧法第四十八條、第四十九條第二項及第五十一條ノ例ニ依リ開票管理者ニ屬スル職務ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ投票立會人ハ其ノ例ニ依リ開票立會人ニ屬スル職務ヲ行フ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ投票ヲ點檢スル場合ニ之ヲ準用ス

第九十六條　各議員候補者ノ得票數ノ計算終リタルトキハ投票管理者ハ其ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第九十七條　投票ノ點檢終リタルトキハ投票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ開票管理者ニ報告スヘシ

第九十八條　投票管理者ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ投票立會人ト共ニ之ニ封印ヲ施スヘシ

第三十四條ノ規定ニ依リ受理スヘカラスト決定シタル投票ハ投票管理者之ヲ其ノ儘他ノ封筒ニ入レ投票立會人ト共ニ之ニ封印ヲ施スヘシ

第九十九條　投票管理者ハ前四條ノ規定ニ依ル手續ニ關スル顚末書ヲ作成シ投票立會人ト共ニ署名シ投票錄及前條ノ投票ト併セテ開票管理者ニ之ヲ送致スヘシ

第百條　投票管理者ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第百一條　選擧人ハ其ノ投票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第百二條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ之ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ

前項ノ規定ハ開票ニ之ヲ準用ス

投票管理者第一項ノ規定ニ依リ投票ノ期日ヲ定メタルトキハ少クトモ五日前ニ之ヲ告示シ前項ノ規定ニ依リ開票ノ期日ヲ定メタルトキハ豫メ之ヲ告示スヘシ

投票管理者第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ投票又ハ開票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ開票管理者、選擧長及地方長官ニ報告スヘシ

第百三條　開票管理者ハ第九十七條ノ報告及衆議院議員選擧法第三十五條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ送致セラレタル投票函ノ總テ到達シタル翌日開票ヲ行フヘシ但シ場合ニ依リ其ノ總テ到達シタル日之ヲ行フコトヲ得

開票管理者ハ前項ノ投票函ノ投票ニ付衆議院議員選擧法第四十九條第一項及第二項ノ規定ニ依ル手續ヲ終リタルトキハ前項ノ報告ヲ調査シ同條第二項ノ區域每ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第九十七條ノ報告遲著ノ虞アルトキハ其ノ報告總テ到達セサルモ投票函ノ總テ到達シタル翌日以後ハ開票管理者ハ其ノ投票函ノ投票及前日迄ニ到達シタル報告ニ付前項ノ例ニ依リ開票ノ手續ヲ爲スコトヲ得但シ場合ニ依リ投票函ノ總テ到達シタル日ニ於テ其ノ投票函ノ投票及其ノ時迄ニ到達シタル報告ニ付其ノ手續ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

前項ノ規定ニ依リ開票ヲ行ヒタル場合ニ於テハ開票管理者ハ報告ノ總テ到達シタル日又ハ其ノ翌日更ニ開票所ニ於テ調査未濟ノ報告ヲ調査シ該報告ニ付衆議院議員選擧法第四十九條第二項ノ區域每ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ前項ノ規定ニ依ル得票總數ニ通算シタル各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第二項及前項ノ場合ニ於テハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選擧長ニ報告スヘシ

第百四條　第九十七條ノ報告ニ關スル書類及第九十九條ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル顚末書ハ開票管理者ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第百五條　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ノ開票ニ於テハ其ノ選擧ニ係ル第九十七條ノ報告ヲ調査スヘシ

第百六條　衆議院議員選擧法第百六條ノ規定ニ依リ屆出ツヘキ事項ニ付同條ノ官ムル期間內ニ屆出ツルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ第八十八條ノ地域ニ關スル部分ニ限リ分別シテ適宜ニ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ屆出期間ヲ延長シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第八十八條ノ地域ニ關スル當選人ニ對スル衆議院議員選擧法第八十四條第一項ニ定ムル出訴期間ハ第一項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ト同一ノ期間之ヲ延長ス

第百七條　衆議院議員選擧法第百二十八條ノ規定ハ投票立會人正當ノ事故ナクシテ第九十五條又ハ第九十九條ニ定メタル義務ヲ缺キタル場合ニ之ヲ適用ス

第百八條　東京府青ケ島ニ於テハ名主ハ其ノ年十二月十九日迄ニ選擧人名簿ヲ支廳長ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選擧人名簿ハ支廳長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ選擧人名簿ヲ支廳長ニ發送シタル後確定判決ニ依リ之ヲ修正スヘキトキハ名主ハ直ニ其ノ旨ヲ支廳長ニ報告スヘシ

支廳長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ地方長官ニ報告スベシ

選擧人名簿ヲ其ノ年十二月十九日迄ニ支廳長ニ送付スルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ適宜ニ選擧人名簿ノ調製、縱覽、修正ノ申立及修正ノ申立ノ決定ニ關スル期日又ハ期間ヲ定メ併セテ之ヲ告示シ其ノ年十二月十九日迄ニ選擧人名簿ヲ送付セシムルコトヲ得

第一項ノ區域ニ於ケル選擧ニ關シテハ第九十三條及第百六條ノ規定ヲ準用ス但シ地方長官トアルハ警視總監トス

投票所ハ支廳ニ之ヲ設ケ投票管理者ノ職務ハ支廳長之ヲ行フ

衆議院議員選擧法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ投票立會人ノ選任ヲ爲ス場合ニ於テハ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ選任スルコトヲ得

第百九條　沖繩縣大東島ニ於ケル選擧人名簿ニ關スル町村長ノ職務ハ地方長官ノ定メタル官吏之ヲ行フ

前項ノ區域ニ於ケル選擧ニ關シテハ第九十三條乃至第百七條ノ規定ヲ準用ス但シ投票管理者ノ職務ハ地方長官ノ定メタル官吏之ヲ行フ

第十三章ノ二　市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル選擧ノ施行

第百九條ノ二　選擧區ノ境界ニ涉リテ境界ノ變更アリタル市町村ニ於テ行フ衆議院議員選擧法第七十五條及第七十九條ノ選擧ニ付テハ同法第二條ノ市町村ノ區域ハ最近ニ總選擧ノ行ハレタル市町村ノ區域トシ選擧ニ關スル事務ヲ管理スベキ市町村長ハ關係市町村長數人アルトキハ其ノ者ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者トス

第百九條ノ三　前條ノ選擧ヲ行フ場合ニ於テハ關係市町村長ハ選擧前選擧人名簿中市町村ノ境界ノ變更ニ因リ異動アリタル區域ニ係ル部分ヲ投票管理者ニ送付スベシ

第百九條ノ四　第百九條ノ二ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧法第三條ノ郡市ノ區域ハ最近ニ總選擧ノ行ハレタル郡市ノ區域トシ開票管理者タルベキ支廳長又ハ市長ハ關係支廳長又ハ市長數人アルトキハ其ノ者ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者トス

第百九條ノ五　府縣ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル第百九條ノ二ノ選擧ニ付テハ選擧ニ關スル事務ヲ管理スベキ地方長官ハ其ノ異動アリタル區域ガ最近ノ總選擧ノ際屬シタル府縣ノ地方長官トス

第百九條ノ六　第百九條ノ二ノ選擧ニ關スル費用ニシテ第六十九條乃至第七十二條ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第百九條ノ七　左ノ場合ニ於テ選擧又ハ投票ヲ行フベキ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ選擧又ハ投票ニ付テハ前五條ノ規定ヲ準用ス

一　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フトキ（市町村ノ境界ノ變更ガ選擧區ノ境界ニ涉ル場合ヲ除ク）

二　衆議院議員選擧法第三十七條ノ投票ヲ行フトキ

第十四章　補則

第百十條　（削除）

第百十一條　衆議院議員選擧法第百四十四條、第百四十四條ノ二及第百四十五條ノ規定ハ本令ノ適用ニ付之ヲ準用ス但シ同法第百四十五條第二項ノ規定ハ第二十六條第七

號及第八號ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ準用セス

附　則

本令ハ次ノ總選挙ヨリ之ヲ施行ス

北海道衆議院議員選挙特例ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和三年勅令第二百六十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和三年十一月六日ヨリ施行）

本令ハ本令施行ノ日以前ニ於テ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル選挙又ハ投票ニ付テモ亦之ヲ適用ス

附　則（昭和九年勅令第三百二十五號）

本令ハ次ノ總選挙ヨリ之ヲ施行ス

（別表略ス）

衆議院議員ノ選挙權ニ關スル法律

（大正十五年四月八日　法律第五十五號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル衆議院議員ノ選挙權ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

衆議院議員ノ選挙權ニ關スル法律

本法公布前ノ調製期日ニ依リ調製セラレタル最近ノ衆議院議員選挙人名簿ニ登錄セラレタル者ハ次ノ總選挙ニ至ル迄ノ間納税要件ヲ闕クニ至リタル場合ト雖之カ爲其ノ選挙權ヲ失フコトナシ本法公布後次ノ總選挙ニ至ル迄ノ間ニ調製セラルル選挙人名簿ニ登錄セラレタル者亦同シ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

衆議院議員選挙運動等取締規則

（昭和九年十二月十二日　内務省令第三十六號）

改正　昭和一一―内令一　昭和一二―内令一五

第一章　選挙事務所

第一條　選挙事務所ヲ三箇所迄設置スルコトヲ得ル選挙區、選挙事務所ノ數及選挙事務所ヲ設置シ得ヘキ區域（之ヲ選挙事務所區ト稱ス）ハ別表ヲ之テ之ヲ定ム

第二條　各選挙事務所區ニ設置シ得ヘキ選挙事務所ハ議員候補者一人ニ付キ一箇所ニ限ル

第二章　選挙運動ノ爲使用スル勞務者

第三條　選挙事務長ハ別記第一號樣式ニ準シ徽章ヲ作製シ之ニ衆議院議員選挙法第八十八條第五項ノ屆出アリタル警察署ノ檢印ヲ受ケ之ヲ選挙運動ノ爲使用スル勞働者ニ著用セシムヘシ

選挙運動ノ爲勞務ヲ提供スル者ハ其ノ勞務ニ從事中前項ノ規定ニ依ル徽章ヲ見易キ箇所ニ著用スヘシ

第三章　選挙運動ノ爲使用スル文書圖畫

第四條　選挙運動ノ爲文書圖畫ヲ頒布シ又ハ貼付シ若ハ掲示スル者ハ表面ニ其ノ氏名及住居ヲ記載スヘシ但シ信書、名刺及選挙事務所ニ貼付シ又ハ掲示スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　選挙運動ノ爲使用スル文書圖畫ヲ頒布シ又ハ貼付シ若ハ掲示スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

一　郵便ニ依ルノ外頒布スルコトヲ得ス

但シ演説會告知ノ爲ニスル引札及新聞紙ノ廣告ハ此ノ限ニ在ラス

二　立札、看板ノ類ヲ除クノ外貼付シ又ハ掲示スルコトヲ得ス但シ演説會告知ノ爲使用スル張札及演説會ノ爲演説會場内ニ於テ使用スル張札ハ此ノ限ニ在ラス

三　演説會告知ノ爲使用スル文書ト雖モ選挙ノ當日ニ限リ投票所ヲ設ケタル場所ノ入口ヨリ三百二十七米（約三町）以内ノ區域ニ於テ之ヲ頒布シ又ハ貼付シ若ハ掲示スルコトヲ得ス但シ演説會告知ノ爲新聞紙ノ廣告ニ依リ又ハ引札ヲ郵便ニ依リ頒布スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四　演説會告知ノ爲使用スル文書ト雖モ航空機（人ノ搭乘シ得サル氣球ノ類ヲ含ム）ニ依リ之ヲ頒布シ又ハ掲示スルコトヲ得ス

五　承諾ヲ得スシテ他人ノ土地又ハ工作物ニ貼付シ又ハ掲示スルコトヲ得ス

第六條　演説會告知ノ爲使用スル文書ハ二度刷又ハ二色以下トシ引札ニ在リテハ長三十一糎（約一尺）幅二十二糎（約七寸）、張札ニ在リテハ長九十四糎（約三尺一寸）幅六十四糎（約二尺一寸）ヲ超ユルコトヲ得ス

選挙運動ノ爲使用スル名刺ノ用紙ハ白色ノモノニ限ル

第七條　演説會告知ノ爲使用スル文書ニハ演説會ノ日時、場所、出演者及演題竝ニ議員候補者及其ノ黨派別ノ外記載スルコトヲ得ス

第八條　演説會告知ノ爲使用スル張札ノ數ハ演説會一箇所ニ付三十枚ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　選挙運動ノ爲使用スル立札、看板ノ類ハ白色ニ黑色ヲ用ヒタルモノニ限リ且縱二米七十三糎（約九尺）横六十一糎（約二尺）ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　選挙運動ノ爲使用スル立札、看板ノ類ニハ議員候補者及其ノ黨派別ノ外記載スルコトヲ得ス

第十一條　選挙運動ノ爲使用スル立札、看板ノ類ハ議員候補者一人ニ付通シテ百五十箇以内トシ且選挙事務所ヲ設置シタル場所ノ入口ヨリ百九米（約一町）以内ノ區域ニ於テハ通シテ二箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　選挙運動ノ爲使用スル立札、看板ノ類ニハ衆議院議員選挙法第八十八條第五項ノ屆出アリタル警察署、演説會告知ノ爲使用スル張札ニハ演説會場所在地所轄ノ警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第四章　選挙ノ期日後ニ於ケル挨拶

第十三條　何人ト雖モ選挙ノ期日後ニ於テ當選又ハ落選ニ關シ選挙人ニ挨拶スルノ目的ヲ以テ左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　選挙人ニ對シ戸別訪問ヲ爲シ又ハ當選若ハ落選ニ關スル祝辭、見舞等ノ答禮ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外連續シテ個個ノ選挙人ニ對シ面接シ若ハ電話ニ依リ通話ヲ爲スコト（昭和十二年内務省令第十五號ヲ以テ本號中改正）

二　自筆ノ信書、議員候補者一人ニ付百枚以内ノ張札及當選又ハ落選ニ關スル祝辭、見舞等ノ答禮ノ爲ニスル信書ヲ頒布シ又ハ掲示スルコト（昭和十一年内務省令第一號、昭和十二年内務省令第十五號ヲ以テ本號中改正）

三　新聞紙又ハ雜誌ヲ利用スルコト

四　當選祝賀會其ノ他ノ集會ヲ開催スルコト

五　多衆集合シ又ハ自動車ヲ連ネ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來スル等氣勢ヲ張ルノ行爲ヲ爲スコト

前項第二號ノ張札ハ二色以下ニシテ長九十四糎（約三尺一寸）幅六十四糎（約二尺一寸）以内ノモノニ限ル（昭和十一年内務省令第一號ヲ以テ本項ヲ追加）

第五章　選挙運動ノ費用

第十四條　選挙運動ノ費用ニ關スル承諾簿、

評價簿及支出簿ハ別記第二號樣式ニ依リ之ヲ作成スヘシ

第十五條　選擧運動ノ費用ノ精算屆書ハ別記第三號樣式ニ依リ之ヲ作成スヘシ

第十六條　選擧運動ノ費用ノ精算屆書ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ於テ其ノ屆出アリタル日ヨリ一年間之ヲ保存スヘシ

選擧人又ハ議員候補者ハ衆議院議員選擧法第八十四條第一項ニ定ムル出訴期間內ニ限リ前項ノ精算屆書ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

衆議院議員選擧法第八十四條第一項ノ規定ニ依リ出訴シタル者其ノ訴訟繫屬中亦同シ

第六章　罰則

第十七條　第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條　第十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年內務省令第五號選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

別記(略ス)

別表

選擧事務所ヲ三箇所迄設置スルコトヲ得ル選擧區、選擧事務所ノ數及選擧事務所區

選擧區	選擧事務所ノ數	選擧事務所區
兵庫縣 第二區	二箇所	第一選擧事務所區 尼崎市 西宮市 武庫郡 川邊郡 有馬郡 三津原郡
		第二選擧事務所區 名寺郡
第五區	二箇所	第一選擧事務所區 城崎郡 出石郡 養父郡 朝來郡 美方郡 氷上郡
		第二選擧事務所區 多紀郡
長崎縣 第一區	二箇所	第一選擧事務所區 長崎市 西彼杵郡 北高來郡 南高來郡
		第二選擧事務所區 佐賀郡 東松浦郡 北松浦郡 世保市 對馬島廳管內
第二區	三箇所	第一選擧事務所區 南松浦郡 壹岐郡
		第二選擧事務所區
		第三選擧事務所區

新潟縣 第一區	二箇所	第一選擧事務所區 新潟市 西蒲原郡 佐渡郡
		第二選擧事務所區
第三區	二箇所	第一選擧事務所區 長岡市 三條市 南蒲原郡 三島郡 古志郡 刈羽郡 北蒲原郡 岡南郡
		第二選擧事務所區
第四區	二箇所	第一選擧事務所區 高田市 西頸城郡 中頸城郡 東頸城郡
		第二選擧事務所區
三重縣 第二區	二箇所	第一選擧事務所區 津市 飯南郡 松阪市 宇治山田市
		第二選擧事務所區 多氣郡 度會郡 志摩郡 南牟婁郡 北牟婁郡
		第三選擧事務所區
滋賀縣	二箇所	第一選擧事務所區 大津市 滋賀郡 高島郡
		第二選擧事務所區
		第三選擧事務所區 甲賀郡 野洲郡 栗太郡 蒲生郡

岐阜縣 第三區	二箇所	第一選擧事務所區 可兒郡 土岐郡 惠那郡
		第二選擧事務所區 益田郡 大野郡 吉城郡
長野縣 第四區	二箇所	第一選擧事務所區 西筑摩郡 東筑摩郡 南安曇郡 松本市
		第二選擧事務所區 北安曇郡
福島縣 第二區	二箇所	第一選擧事務所區 若松市 南會津郡 北會津郡 河沼郡 耶麻郡 河村郡 大瀨郡
		第二選擧事務所區 岩瀨郡 東白川郡 西白川郡 石田郡
愛知縣 第二區	二箇所	第一選擧事務所區 名古屋市 東春日井郡 西春日井郡 中島郡 海部郡
		第二選擧事務所區 知多郡
犬山市	二箇所	第一選擧事務所區 犬山市 丹羽郡 葉栗郡
		第二選擧事務所區
阪東郡	二箇所	第一選擧事務所區 阪東郡
		第二選擧事務所區
神崎郡	二箇所	第一選擧事務所區 神崎郡
		第二選擧事務所區

岩手縣 第一區	二箇所	第一選擧事務所區 盛岡市 紫波郡 二戸郡 岩手郡 下閉伊郡 九戸郡
		第二選擧事務所區
第二區	二箇所	第一選擧事務所區 膽沢郡 江刺郡 西磐井郡 東磐井郡 稗貫郡 和賀郡 氣仙郡 上閉伊郡
		第二選擧事務所區
宮城縣 第一區	二箇所	第一選擧事務所區 宮城郡 東宮城郡 八木山市 三上郡 下北郡
		第二選擧事務所區
石川縣 第二區	二箇所	第一選擧事務所區 河北郡 羽咋郡 鹿島郡 鳳珠郡
		第二選擧事務所區 能登郡
香川縣 第一區	二箇所	第一選擧事務所區 高松市 大川郡 木田郡 香川郡
		第二選擧事務所區 小豆郡
熊本縣 第二區	二箇所	第一選擧事務所區 上益城郡 下益城郡 八代郡 葦北郡 球磨郡
		第二選擧事務所區 宇土郡
鹿兒島縣 第一區	二箇所	第一選擧事務所區 鹿兒島市 鹿兒島郡 揖宿郡 川邊郡 日置郡
		第二選擧事務所區 熊毛郡
第三區	二箇所	第一選擧事務所區 肝屬郡
		第二選擧事務所區 大島郡
		第三選擧事務所區 大島郡廳管內
沖繩縣	三箇所	第一選擧事務所區 那覇市 首里市 島尻郡 中頭郡 國頭郡
		第二選擧事務所區 宮古郡
		第三選擧事務所區 八重山郡
北海道 第一區	二箇所	第一選擧事務所區 札幌市 石狩郡 樽小支廳管內
		第二選擧事務所區 後志支廳管內

海道	第二區	二箇所	第一選擧事務所區（旭川市） 第二選擧事務所區（上川支廳管內） （留萌支廳管內） （宗谷支廳管內）
	第三區	二箇所	第一選擧事務所區（函館市） 第二選擧事務所區（渡島支廳管內） （檜山支廳管內）
	第四區	二箇所	第一選擧事務所區（室蘭市） （膽振支廳管內） （日高支廳管內） 第二選擧事務所區（空地支廳管內）
	第五區	三箇所	第一選擧事務所區（釧路市） （釧路國支廳管內） （根室支廳管內） 第二選擧事務所區（帶廣市） （十勝支廳管內） 第三選擧事務所區（網走支廳管內）

附則

（昭和十一年內務省令第一號附則）

本令ハ昭和十一年二月二十日執行ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

附則

（昭和十二年內務省令第十五號附則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

會計法

大正十年四月六日法律第四十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル會計法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計法

第一章　總則

第一條　政府ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歲入歲出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第二條　租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ以ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條　每會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　各官廳ニ以テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條　政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

第六條　政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

大藏省證券及借入金ノ最高額ハ每年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第二章　豫算

第七條　歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス

第八條　歲入歲出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ各項ニ區別スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一　歲入豫算明細書

二　各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條　豫算中ニ設クヘキ豫算費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一　豫備金

第二　豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十條　豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノハ年度經過後其ノ第二豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ常會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

第十一條　政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノヲ除クノ外災害事變其他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ亙ル契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ亙ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ每年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章　收入

第十二條　租稅其ノ他ノ歲入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其他ノ歲入ヲ徵收又ハ收納スルヿヲ得ス但各廳事務員ヲシテ收納ヲ分掌セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第四章　支出

第十三條　各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條　國務大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルヿヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十五條　國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出スヘシ但他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルヿヲ得

第十六條　國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スヿヲ得ス但以下四條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十七條　國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルヿヲ得

第十八條　國務大臣ハ日本銀行ニ命シ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第十九條　國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當該官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル歲入金、歲出金又ハ歲入歲出外現金ヲ經替使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ歲出金ニ經替使用シタル現金ヲ補塡スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルヿヲ得

第二十條　國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限リ前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得但シ軍艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五章　決算

第二十三條　會計檢査院ノ檢査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歲入歲出ノ總決算ハ翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條　總決算ハ總豫算ト同一ノ樣式ヲ用ヰ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歲入ノ部

歲入豫算額

調定濟歲入額

收入濟歲入額

不納缺損額

收入未濟歲入額
歲出ノ部
歲出豫算額
豫算決定後增加歲出額
支出濟歲出額
翌年度繰越額
不用額

第二十五條　總決算ニハ會計檢査院ノ檢査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ
一　歲入決算明細書
二　各省決算報告書
三　國債計算書

第六章　歲計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入

第二十六條　各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第二十七條　豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度內ニ終ルヘキ工事製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遲延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十八條　數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ每年度ノ支出額ヲ竣功年度迄遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十九條　過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ經費所屬年度ノ每項定額中不用ト爲リタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條　出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歲入ニ組入ルヘシ但シ支出濟歲出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第七章　契約

第三十一條　政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競爭ニ付スヘシ

關務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動產賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八章　時效

第三十二條　金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時效ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條　金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時效ノ中斷停止其他ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條　法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラス時效中斷ノ效力ヲ有ス

第九章　出納官吏

第三十五條　出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

第三十六條　出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計檢査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條　關務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

第三十八條　第十五條ニ定メタル小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章　雜則

第三十九條　特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

「ヘシ」特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條　日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證券ノ受拂ニ關シ會計檢査院ノ檢査ヲ受クヘシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年勅令第四百八十六號ヲ以テ同十一年四月一日ヨリ施行ス）

明治二十七年法律第十六號、明治三十三年法律第五十號及明治四十四年法律第二十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出並本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前々年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時效ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

本法施行前ニ進行ヲ始メタル期滿免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ他ノ法律ヲ適用ス

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

會計規則（大正一一―勅一　昭和八―勅三三〇）

朕會計規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計規則

第一章　總則

第一節　會計年度所屬區分

第一條　歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル
一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
二　隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
三　隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條　歲出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル
一　國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度
二　諸拂戾金、缺損補塡金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
三　俸給、給料、手當、旅費、手數料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
四　使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度
五　工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度
六　前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第三節　國庫金ノ出納

第三條　日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條　政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノニ限リ相當ノ利子ヲ附セシムル金額ヲ除ク外總テ相當ノ利子ヲ附セシム

第五條　每年度所屬歲入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ掲クルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

一　出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歲入金ノ拂込アリタルトキ

二　市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其收納シタル歲入金ノ送付アリタルトキ

三　國庫內ニ於テ移換ニ依ル歲入金ノ受入ヲ爲ストキ

每年度所屬歲出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章　豫算

第一節　總豫算

第六條　大藏大臣ハ歲入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歲入歲出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ニハ歲計全體ニ關スル說明ヲ附スヘシ

第七條　歲入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歲入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條　歲出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條　歲入歲出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節　歲入豫算明細書

第十條　大藏大臣ハ每年度歲入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歲入豫算明細書ヲ調製スヘシ

歲入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各自ニ區分シ各項每ニ增減ノ事由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第三節　豫定經費要求書

第十一條　各省大臣ハ每年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條　各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

「ヲ定ム」

第十三條　各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル說明及各款各項ノ說明ヲ附スヘシ

第四節　支拂豫算

第十四條　各省大臣ハ每年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官每ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ

支拂豫算ハ各款各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十五條　支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ

第十六條　大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五節　豫備金支出

第十七條　豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條　第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ每年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スル件ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條　大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第二十一條　各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條　大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條　第二豫備金支出ノ勅裁アリタル件ハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ

通知シ且其事項及金額ヲ官報ニ掲載スヘシ

第二十四條　第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途每ニ說明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ說明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條　第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途每ニ說明ヲ附シ每年度帝國議會常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ說明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節　翌年度ニ亙ル契約

第二十六條　各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ亙ル契約ヲ結フノ必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條　大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタル件ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第三章　收入

第一節　徵收

第二十八條　歲入徵收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ但シ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ特例ヲ設クルコトヲ得

歲入徵收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徵收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十九條　支出濟ト爲リタル歲出ノ返納金ヲ歲入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之カ歲入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條　歲入徵收官租稅其ノ他ノ歲入ヲ徵收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ、所屬年度及歲入科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條　歲入徵收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納人ニ對シ其ノ納付スヘキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ出納員ニ卽納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　納期ノ一定シタル歲入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ總テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第二節　收納

第三十三條　出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歲入金ヲ收納シタルトキハ領收證書ヲ納人ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納濟ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三十四條　出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三十五條　日本銀行ニ於テ歲入金ヲ收納シ又ハ歲入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納人又ハ拂込人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三十六條　每年度所屬歲入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節　報告

第三十七條　歲入徵收官ハ每月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ歲入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條　歲入事務管理廳ハ徵收報告書ニ依リ每月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章　支出

第一節　總則

第三十九條　勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對

シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第四十條　豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條　各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメントスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條　支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條　本章ノ規定ハ商法中小切手ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

第二節　小切手ノ振出

第四十四條　支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ適フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スルコトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査スヘシ

第四十五條　支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ「シ

第四十六條　小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條　支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式所持人拂ト爲スヘシ

第四十八條　支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條　毎年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫內ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ藏出金ニ繰替使用シタル現金補塡ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節　支拂

第五十一條　小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其小切手カ法令ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルヿナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條　日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　毎年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歲計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條　前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條　支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十六條　前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節　資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費

第五十七條　會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ揭クル經費ニ限ル

一　陸軍ノ軍隊、學校及病院竝海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費

二　陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費

三　陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生產若ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費

四　官船ニ屬スル經費

五　外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

六　運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

七　廳中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

八　場所ノ一定セサル事務所ノ經費

九　各廳直營ノ工事、製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

十　監獄作業賞與金

十一　囚人及刑事被告人押送費

十二　證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與

第五十八條　前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル

一　常時ノ費用ニ係ルモノハ毎一月分以內ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費、運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以內ヲ交付スルコトヲ得

二　隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限リ成ルヘク分割シテ交付スヘシ

第五十九條　會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ揭クル經費ニ限ル但第九號乃至第十三號ニ揭クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一　軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價

二　外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價

三　朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島內ニ居住スル者ニ支給スル徵兵旅費

四　運賃

五　外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課

六　政府ノ買收又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料

七　官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

八　外國ニ於テ研究又ハ調査ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與

九　交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乘組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十　軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費

十一　外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十二　補助金

十三　諸謝金

第六十條　會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂ヲ爲シ得ルハ左ニ揭クル經費ニ限ル但シ第三號ニ揭クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一　旅費

二　官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

三　補助金又ハ補給金

第六十一條　會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ揭クル官署ノ經費ニ限ル

一　在外各廳

二　遞信官署

三　區裁判所出張所

四　朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署

前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歲出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節　繰替拂

第六十二條　各省大臣ハ左ニ揭クル經費ノ支

拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ掲クル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル

一 旅費
二 埋葬費
三 在外公館ニ於ケル難民貸與金
四 海軍省所管艦船經費

第六十三條 所管大臣ハ左ニ掲クル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ヲ交互ニ繰替使用セシムルコトヲ得

一 鐵道官署
二 遞信官署

前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六十四條 各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限リ必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルヿヲ得

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第七節 報告

第六節 年度開始前支出

第六十六條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第六十七條 所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一節 總決算

第六十八條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第六十九條 大藏大臣ハ總決算ニ歳入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計檢査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 歳入決算明細書、各省決算報告書及收入支出決算書

第七十條 大藏大臣ハ歳入豫算明細書ト同一ノ區分ニ依リ歳入決算明細書ヲ調製シ各項毎ニ豫算ニ對スル增減ノ事由ヲ說明スヘシ

第七十一條 歳入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年度收入濟歳入額ニ付豫算ニ對スル增減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十二條 各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條 歳入徵收官ハ會計檢査院ニ證明ノ爲歳入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第七十四條 支出官ハ會計檢査院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第七十五條 前二條ノ計算書ハ歳入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節 國債計算書

第七十六條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條 國債計算書ニハ左ニ掲クル事項「ヲ示スヘシ」

一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示ス計算
二 當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算
三 最近五年度間ニ於ケル各種國債增減ノ情況ヲ示ス計算

第六章 定額繰越及定額戻入

第一節 定額繰越

第七十八條 各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スル

ト認ハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

繰越計算書ハ歳出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

一 繰越ヲ要スル項ノ定額
二 定額中支出濟ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額
三 定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額
四 定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條 會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ參照書類ヲ添附スヘシ

第八十條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第二節 定額戻入

第八十一條 支出濟ト爲リタル歳出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定額ニ之ヲ戻入ルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ返納セシムヘシ

第八十三條 日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定額ニ戻入ノ記帳ヲ爲シ其ノ旨ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第七章 契約

第一節 總則

第八十五條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スベシ

第八十六條 契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條 各省大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 三千圓ヲ超エサル指名競爭契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ
二 外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競爭契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ
三 雇賃ニ付スルトキ
四 物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ
五 第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付

各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條 政府ト契約ヲ結ハムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條 契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條 政府ニ屬スル財産ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登錄前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條 財産ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ涉ルモノニ付テハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條 各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ檢査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大

臣ハ特ニ檢査ノ官吏又ハ技術者ヲ命シ事實ヲ調定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超エルコトヲ得ス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 一般競爭契約

第九十六條 一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條 各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競爭ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

一 契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造又ハ物件ヲ粗雜ニシ又ハ其ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者

二 競爭ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

三 競爭ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者

四 檢査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者

五 正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者

六 前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者

第九十八條 各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競爭ニ加ラシメサルコトヲ得

第九十九條 競爭ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第百條 競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第百一條 競爭ハ第百九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第百二條 入札ノ方法ニ依リ競爭ニ付セムトスルトキハ其入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙、掲示其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

第百三條 前條ノ公告ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

一 競爭入札ニ付スル事項

二 契約條項ヲ示ス場所

三 競爭執行ノ場所及日時

四 入札ノ保證金額

第百四條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競爭入札ニ付スル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第百五條 開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

競爭加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札ハ無效トス

第百六條 開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第百八條 入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第百二條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第百九條 各省大臣動產ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ賣拂ニ付スルコトヲ得

第三節 指名競爭契約

第百十條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ指名競爭ニ付スルコトヲ得

一 契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競爭ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競爭ニ付スルノ必要ナキトキ

二 一萬圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ五千圓ヲ超エサル財產ノ買入ヲ爲ストキ

三 賃借料年額又ハ總額三千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

四 豫定賃貸料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ

五 豫定代價二千圓ヲ超エサル財產ノ賣拂ヲ爲ストキ

六 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓ヲ超エサルトキ

第百十一條 指名競爭ニ付セムトスルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ指名競爭ニ付スルコトヲ妨ケス

第百十二條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競爭ニ付シテ契約ヲ結ヒタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第百十三條 第九十七條乃至第百一條、第百四條乃至第百七條ノ規定ハ指名競爭契約ノ場合ニ之ヲ準用ス

各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第百十四條 隨意契約

第四節 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 契約ノ性質又ハ目的カ競爭ヲ許ササルトキ

二 急迫ノ際競爭ニ付スルノ暇ナキトキ

三 政府ノ行爲ヲ祕密ニスルノ必要アルトキ

四 五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財產ノ買入ヲ爲ストキ

五 賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

六 豫定賃貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ

七 豫定代價千圓ヲ超エサル財產ノ賣拂ヲ爲ストキ

八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ

九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ

十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ

十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ

十二 農工場、學校、試驗所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生產又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ

十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財產ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財產ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生產ニ係ル製築材料ノ賣拂ヲ爲ストキ

十五 外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ

十六 道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、產業組合又ハ慈惠ノ爲ニ設立シタル教育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ

十七　移住地域内ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ

十八　學術又ハ技術ノ保護奬勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

十九　產業又ハ拓殖事業ノ保護奬勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生產者ヨリ直接ニ其ノ生產若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲ストキ

二十　公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十一　土地、建物、林野又ハ其ノ產物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十二　事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ借入ヲ爲ストキ

二十三　法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ

前項第十九號乃至第廿三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルヿヲ要ス

前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第百十五條　競爭ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナキトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競爭ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十六條　落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限内ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得但期限ヲ除クノ外最初競爭ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ除リ該價格又ハ金額ノ制限内ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十八條　隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徵スヘシ

第百十九條　各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第八章　保管金及有價證券

第百二十條　政府ハ法律勅令ノ規定ニ依ルニ非サレハ公有又ハ私有ノ現金又ハ有價證券ヲ保管セス

第百二十一條　政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第百二十二條　政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシム

第百二十三條　政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シテハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

第九章　出納官吏

第一節　總則

第百二十四條　本令ニ於テ出納官吏ト稱スルハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ

第百二十五條　出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

第百二十六條　各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第百二十七條　所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル官署ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一　鐵道官署

二　遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ廳ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第百二十八條　前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ主任出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第百二十九條　出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ但シ所管大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ出納官吏又ハ出納員ニ交付セシムルコトヲ得

第百三十條　出納官吏又ハ出納員其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタル場合ニ於テハ所管大臣ハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ通知スヘシ

第百三十一條　出納官吏及出納員ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ヲ爲スヘシ

第二節　責任

第百三十二條　出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其ノ代理官、分任官又ハ所屬出納員ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ出納員ノ責任ニ付之ヲ準用ス

第百三十三條　代理出納官吏、分任出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行爲ニ付會計法第三十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第百三十四條　各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計檢査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得

第百三十五條　前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏又ハ出納員其責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルヿヲ得

所管大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計檢査院ニ於テ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其ノ既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付スヘシ

第三節　檢査及證明

第百三十六條　出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免、死亡、退職其他異動アリタルトキ所管大臣檢査員ヲ命シテ之ヲ檢査セシムヘシ但臨時ニ資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ檢査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ檢査員ヲ命シテ出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ檢査セシムヘシ

第百三十七條　前條ノ檢査ヲ執行スルニ當リ當該出納官吏又ハ出納員事故ニ因リ自ラ檢査ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ代理者又ハ特ニ所管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第百三十八條　出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ檢査シタルトキハ檢定書二通ヲ作成シ檢査員及當該出納官吏、出納員又ハ立會人之ニ記名捺印シ一通ハ當該出納官吏、出納員又ハ立會人ニ交付シ一通ハ所管大臣ニ提出スヘシ

第百三十九條　出納官吏又ハ出納員他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ金櫃ノ檢査ヲ執行スル者ハ併セテ他ノ公金ノ檢査ヲ行フヘシ

第百四十條　租稅其他ノ歲入金ノ收納ヲ掌ル官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歲入徵收官ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十一條　資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十二條　歲入歲出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十三條　第六十三條ノ規定ニ依リ現金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ代理者又ハ特ニ所管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十四條 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシ出納員ノ出納ハ總テ主所屬出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス但シ所管大臣又ハ會計檢査院ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第百四十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ第百四十條乃至第百四十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第百四十六條 出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ノ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏又ハ出納員定期內ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ會計檢査院ニ於テ檢査判決ヲ爲スヘシ

第百四十七條 出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第十章 日本銀行ノ計算報告及出納證明

第百四十八條 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納報告書ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第百四十九條 日本銀行ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クル爲國庫金ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國債ノ發行ニ依ル收入金、國債元利拂資金及隔地者拂資金ノ收支ヲ整理シ之ヲ前項ノ計算書ニ掲記スヘシ

大藏大臣ハ第一項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第百五十條 日本銀行ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クル爲政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第百五十一條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル日本銀行ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ニ依ル

第十一章 帳簿

第百五十二條 大藏省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ國庫金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百五十三條 大藏省ハ歲入歲出ノ主計簿ヲ備ヘ歲入主計簿ニハ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記シ歲出主計簿ニハ歲出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第百五十四條 歲入徵收官ハ徵收簿ヲ備ヘ歲入ノ調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百五十五條 歲入事務管理廳ハ歲入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百五十六條 支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歲出ノ支拂豫算額、支出濟額及支拂豫算殘額ヲ登記スヘシ

第百五十七條 各省ハ歲出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第百五十八條 出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百五十九條 前七條ニ規定スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

第百六十條 日本銀行ハ左ニ掲クル帳簿ヲ備

ヘ政府ノ爲ニ取扱フ現金ノ出納又ハ有價證券ノ受拂ヲ登記スヘシ

一 國庫金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

二 支拂豫算額及支拂濟額ヲ登記スヘキ帳簿

三 國債ノ發行ニ依ル收入金ニ關スル出納ヲ登記スヘキ帳簿

四 國債元利拂資金ノ出納ヲ登記スヘキ「簿帳簿

五 隔地者拂資金ノ收支ヲ登記スヘキ帳簿

六 有價證券ノ受拂ヲ登記スヘキ帳簿

前項ノ帳簿ノ樣式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ定ム

第百六十一條 大藏大臣ハ會計檢査官立會ノ上毎年七月三十一日前年度ノ主計簿ヲ締切ルヘシ

第十二章 雜則

第百六十二條 本令ニ依リ會計檢査院ニ提出スル計算證明書類ノ樣式及提出期限ニ付テハ會計檢査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第百六十三條 前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第百六十四條 本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百六十五條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外收入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第百六十六條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百六十七條 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

仕佛命令委任規程

會計年度開始前現金支出規則

明治二十二年勅令第百二十一號

金庫規則

明治二十三年勅令第二十號

明治二十三年勅令第二十二號

明治二十三年勅令第三十二號

明治二十三年勅令第三十五號

明治二十三年勅令第百四號

明治二十三年勅令第百十八號

明治二十三年勅令第百九十三號

明治二十三年勅令第二百七十三號

明治二十三年勅令第二百九十五號

明治二十四年勅令第一號

明治二十四年勅令第二十四號

明治二十四年勅令第十五號

明治二十四年勅令第百六十三號

明治二十四年勅令第百七十一號

明治二十六年勅令第七十號

明治二十六年勅令第二百二十八號

明治二十七年勅令第四十號

明治二十七年勅令第七十六號

明治二十八年勅令第百四號

明治二十九年勅令第百五十八號

明治二十九年勅令第二百四十號

明治二十九年勅令第二百六十八號

明治二十九年勅令第三百七十三號

明治三十年勅令第十五號

明治三十年勅令第二十一號

明治三十年勅令第五十八號

明治三十年勅令第百二十七號

明治三十一年勅令第三十七號

明治三十一年勅令第三十八號

帝國大學資金並學校及圖書館資金所屬森林原野並產物特別處分規則

明治三十一年勅令第百七十四號

明治三十二年勅令第一十五號

明治三十二年勅令第一百六號

明治三十二年勅令第二百二十九號

明治三十二年勅令第三一百三號

明治三十二年勅令第三百六十三號

明治三十二年勅令第三百七十五號

明治三十二年勅令第四百十三號

明治三十二年勅令第四百二十四號

明治三十二年勅令第四百三十七號

明治三十三年勅令第三十九號

明治三十三年勅令第二百八十號

明治三十三年勅令第三百四十二號
明治三十三年勅令第四百八號
明治三十四年勅令第八號
明治三十四年勅令第百二十號
明治三十五年勅令第二百五號
明治三十五年勅令第二百三十六號
明治三十六年勅令第二十三號
明治三十六年勅令第百八十號
明治三十七年勅令第十號
明治三十七年勅令第五十四號
明治三十七年勅令第十七號
明治三十七年勅令第百七十八號
明治三十七年勅令第二百十七號
明治三十八年勅令第三十五號
明治三十八年勅令第三十二號
明治三十八年勅令第二十二號
明治三十八年勅令第百二十八號
郵便電信及電話官署經費渡切規則
明治三十八年勅令第百二十八號
明治三十八年勅令第二百一號
明治三十八年勅令第二百二號
明治三十八年勅令第二百六十五號
明治三十八年勅令第二百九十號
明治三十八年勅令第百一號
明治三十九年勅令第九十三號
明治三十九年勅令第二百十六號
明治三十九年勅令第二百七十號
明治四十年勅令第八十四號
明治四十年勅令第百五十號
明治四十年勅令第二百二十七號
明治四十年勅令第二百六十一號
明治四十年勅令第三百四十一號
明治四十年勅令第百三十八號
明治四十一年勅令第百五十八號
明治四十一年勅令第二百四十八號
明治四十一年勅令第三百十一號
明治四十二年勅令第六十一號
明治四十二年勅令第二百二十六號
明治四十三年勅令第三百四十一號
明治四十三年勅令第四百八號
明治四十三年勅令第四百九號
明治四十四年勅令第六十一號
明治四十四年勅令第六十二號
明治四十四年勅令第百五十六號
明治四十四年勅令第二百一十號
明治四十四年勅令第二百七十九號
明治四十四年勅令第二百九十二號
明治四十四年勅令第七
明治四十四年勅令第百三
明治四十四年勅令第百三十五號
大正元年勅令第百三十六號
大正二年勅令第百三十七號
大正三年勅令第百三十八號
大正三年勅令第百三十六號
大正四年勅令第七十八號
大正四年勅令第五十五號
大正四年勅令第八十七號
大正四年勅令第百五十
大正四年勅令第九十五號
大正四年勅令第百二十五號
大正五年勅令第四十五號
大正五年勅令第百五十五號
大正五年勅令第百六十二號
大正五年勅令第百七十三號
大正五年勅令第百八十八號
大正五年勅令第百九十八號
大正五年勅令第二百十九號
大正六年勅令第五十二號
大正六年勅令第百六十二號
大正六年勅令第百八十一號
大正六年勅令第二百三十四號
大正七年勅令第百二十二號
大正八年勅令第一十六號
大正八年勅令第三百六十二號
大正九年勅令第百二十五號
大正九年勅令第百三十六號
大正九年勅令第百四十七號
大正十年勅令第百四十四號
大正十年勅令第百四十八號
大正六年勅令第百三十二號ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第百六十八條 金庫ニ納付セシムル爲納入ノ告知アリタル歳入金ニシテ本令施行前收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依リ日本銀行ニ於テ之カ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了セサル場合ニ之ヲ準用ス

第百六十九條 仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ仕拂命令ニ關スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第百七十條 大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該年度ノ歳出支拂未濟金トシテ之ヲ繰越整理スヘシ

第百七十一條 本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル資金ニシテ大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノハ之ヲ大正十一年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第百七十二條 大正十年度支出濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ仕拂命令濟歳出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ支出濟歳出額ニ併算スヘシ

大正十年度分ニ限リ金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第百六十條第二號ノ帳簿ニ代用セシムルコトヲ得

第百七十四條 前六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則（昭和八年勅令第三百三十號）

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法例

（明治三十一年六月二十一日法律第十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法例別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十一年勅令第百二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行ス）

明治二十三年法律第九十七號法例ハ此法律發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別冊）

法例

第一條 法律ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス但法律ヲ以テ之ニ異ナリタル施行時期ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

臺灣、北海道、沖繩縣其他島地ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ施行時期ヲ定ムルコトヲ得

第二條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル慣習ハ法令ノ規定ニ依リテ認メタルモノ及ヒ法令ニ規定ナキ事項ニ關スルモノニ限リ法律ト同一ノ效力ヲ有ス

第三條 人ノ能力ハ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム

外國人カ日本ニ於テ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其外國人カ本國法ニ依レハ無能力者タルヘキトキト雖モ日本ノ法律ニ依レハ

能力者タルヘキトキハ前項ノ規定ニ拘ハラス之ヲ能力者ト看做ス

前項ノ規定ハ親族法又ハ相續法ノ規定ニ依ルヘキ法律行爲及ヒ外國ニ在ル不動產ニ關スル法律行爲ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條　禁治產ノ原因ハ禁治產者ノ本國法ニ依リ其宣告ノ效力ハ宣告ヲ爲シタル國ノ法律ニ依ル

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ニ付キ其本國法ニ依リ禁治產ノ原因アルトキハ裁判所ハ其者ニ對シテ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得但日本ノ法律カ其原因ヲ認メサルトキハ此限ニ在ラス

第五條　前條ノ規定ハ準禁治產ニ之ヲ準用ス

第六條　外國人ノ生死カ分明ナラサル場合ニ於テハ裁判所ハ日本ニ在ル財產及ヒ日本ノ法律ニ依ルヘキ法律關係ニ付テノミ日本ノ法律ニ依リテ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第七條　法律行爲ノ成立及ヒ效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒ其何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ム

「法ニ依ル」當事者ノ意思カ分明ナラサルトキハ行爲地法ニ依ル

第八條　法律行爲ノ方式ハ其行爲ノ效力ヲ定ムル法律ニ依ル

行爲地法ニ依リタル方式ハ前項ノ規定ニ拘ハラス之ヲ有效トス但物權其他登記スヘキ權利ヲ設定シ又ハ處分スル法律行爲ニ付テハ此限ニ在ラス

第九條　法律ヲ異ニスル地ニ在ル者ニ對シテ爲シタル意思表示ニ付テハ其通知ヲ發シタル地ヲ行爲地ト看做ス

契約ノ成立及ヒ效力ニ付テハ申込ノ通知ヲ發シタル地ヲ行爲地ト看做ス若シ其申込ヲ受ケタル者カ承諾ヲ爲シタル當時申込ノ發信地ヲ知ラサリシトキハ申込者ノ住所地ヲ行爲地ト看做ス

第十條　動產及ヒ不動產ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル

前項ニ掲ケタル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ノ完成シタル當時ニ於ケル目的物ノ所在地法ニ依ル

第十一條　事務管理、不當利得又ハ不法行爲ニ因リテ生スル債權ノ成立及ヒ效力ハ其原因タル事實ノ發生シタル地ノ法文ニ依ル

前項ノ規定ハ不法行爲ニ付テハ外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依レハ不法ナラサルトキハ之ヲ適用セス

外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依リテ不法ナルトキト雖モ被害者ハ日本ノ法律カ認メタル損害賠償其他ノ處分ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條　債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ債務者ノ住所地法ニ依ル

第十三條　婚姻成立ノ要件ハ各當事者ニ付キ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム但其方式ハ婚姻事件行地ノ法律ニ依ル

「妨ケス」前項ノ規定ハ民法第七百七十七條ノ適用ヲ妨ケス

第十四條　婚姻ノ效力ハ夫ノ本國法ニ依ル

外國人カ女戶主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ日本人ノ婿養子ト爲リタル場合ニ於テハ婚姻ノ效力ハ日本ノ法律ニ依ル

第十五條　夫婦財產制ハ婚姻ノ當時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル

外國人カ女戶主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ日本人ノ婿養子ト爲リタル場合ニ於テハ夫婦財產制ハ日本ノ法律ニ依ル

第十六條　離婚ハ其原因タル事實ノ發生シタル時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル但裁判所ハ其原因タル事實カ日本ノ法律ニ依ルモ離婚ノ原因タルトキニ非サレハ離婚ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　子ノ嫡出ナルヤ否ヤハ其出生ノ當時母ノ夫ノ屬シタル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム若シ其夫カ子ノ出生前ニ死亡シタルトキハ其最後ニ屬シタル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

第十八條　私生子認知ノ要件ハ其父又ハ母ニ關シテハ認知ノ當時父又ハ母ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定メ其子ニ關シテハ認知ノ當時子ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

認知ノ效力ハ父又ハ母ノ本國法ニ依ル

第十九條　養子緣組ノ要件ハ各當時者ニ付キ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム

「依ル」養子緣組ノ效力及ヒ離緣ハ養親ノ本國法ニ

第二十條　親子間ノ法律關係ハ父ノ本國法ニ依ル若シ父アラサルトキハ母ノ本國法ニ依ル

第二十一條　扶養ノ義務ハ扶養義務者ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ム

第二十二條　前九條ニ掲ケタルモノノ外親族關係及ヒ之ニ因リテ生スル權利義務ハ當事者ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ム

第二十三條　後見ハ被後見人ノ本國法ニ依ル

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ノ後見ハ其本國法ニ依レハ後見開始ノ原因アルモ後見ノ事務ヲ行フ者ナキトキ及ヒ日本ニ於テ禁治產ノ宣告アリタルトキニ限リ日本ノ法律ニ依ル

第二十四條　前條ノ規定ハ保佐ニ之ヲ準用ス

第二十五條　相續ハ被相續人ノ本國法ニ依ル

第二十六條　遺言ノ成立及ヒ效力ハ其成立ノ當時ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル

遺言ノ取消ハ其當時ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル

前二項ノ規定ハ遺言ノ方式ニ付キ行爲地法ニ依ルコトヲ妨ケス

第二十七條　當事者ノ本國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其當事者カ二箇以上ノ國籍ヲ有スルトキハ最後ニ取得シタル國籍ニ依リテ其本國法ヲ定ム但其一カ日本ノ國籍ナルトキハ日本ノ法律ニ依ル

國籍ヲ有セサル者ニ付テハ其住所地法ヲ以テ本國法ト看做ス其住所カ知レサルトキハ其居所地法ニ依ル

地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ニ付テハ其者ノ屬スル地方ノ法律ニ依ル

第二十八條　當事者ノ住所地法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其住所カ知レサルトキハ其居所地法ニ依ル

前條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ當事者ノ住所地法ニ依ルヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　當事者ノ本國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其國ノ法律ニ從ヒ日本ノ法律ニ依ルヘキトキハ日本ノ法律ニ依ル

第三十條　外國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其規定ノ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルトキハ之ヲ適用セス

公式令

（明治四十年二月一日勅令第六號）

改正、大正一〇一勅令一四五

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ公式令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

公式令

第一條　皇室ノ大事ヲ宣誥シ及大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣誥スルハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ除クノ外詔書ヲ以テス

詔書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ大事ニ關スルモノニハ宮內大臣年月日ヲ記入シ內閣總理大臣ト俱ニ之ニ副署ス其ノ大權ノ施行ニ關スルモノニハ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第二條　文書ニ由リ發スル勅旨ニシテ宣誥セサルモノハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ除クノ外勅書ヲ以テス

勅書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ事務ニ關スルモノニハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス其ノ國務大臣ノ職務ニ關スルモノニハ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第三條　帝國憲法ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢及帝國憲法

第七十三條ニ依ル帝國議會ノ議決ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ他ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第四條　皇室典範ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮內大臣年月日ヲ記入シ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第五條　皇室典範ニ基ツク諸規則、宮內官制其ノ他皇室ノ事務ニ關シ勅定ヲ經タル規程ニシテ發表ヲ要スルモノハ皇室令トシ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス國務大臣ノ職務ニ關連スル皇室令ノ上諭ニハ內閣總理大臣又ハ內閣總理大臣及主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

皇族會議及樞密顧問又ハ其ノ一方ノ諮詢ヲ經タル皇室令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

第六條　法律ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ帝國會議ノ協賛ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル法律ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

第七條　勅令ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル勅令及貴族院ノ諮詢又ハ議決ヲ經タル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載シ帝國憲法第八條第一項又ハ第七十條第一項ニ依リ發スル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

帝國議會ニ於テ帝國憲法第八條第一項ノ勅令ヲ承諾セサル場合ニ於テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スル勅令ノ上諭ニハ同條第二項ニ依ル旨ヲ記載ス

第八條　國際條約ヲ發表スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第九條　豫算及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スノ件ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協賛ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第十條　閣令ニハ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

省令ニハ各省大臣年月日ヲ記入シ之ニ「署名ス」

宮內省令ニハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

第十一條　皇室令、勅令、閣令及省令ハ別段ノ施行時期アル場合ノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス

第十二條　前數條ノ公文ヲ公布スルハ官報ヲ「以テス」

第十三條　國書其ノ他ノ外交上ノ親書、條約批准書、全權委任狀、外國派遣官吏委任狀、名譽領事委任狀及外國領事認可狀ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ主任ノ國務大臣之ニ副署ス外務大臣ニ授クル全權委任狀ニハ內閣總理大臣之ニ副署ス

第十四條　親任式ヲ以テ任スル官ノ官記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス宮內官ニ付テハ宮內大臣內閣總理大臣ヲ任スルノ官記ニハ他ノ國務大臣又ハ內大臣、宮內大臣ヲ任スルノ官記ニハ內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ノ官記ニハ御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮內官ニ付テハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮內官ニ付テハ宮內省ノ印ヲ鈐シ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十五條　親任式ヲ以テ任シタル官ヲ免スルノ辭令書ニハ御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮內官ニ付テハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

內閣總理大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ他ノ國務大臣又ハ內大臣、宮內大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ヲ免スルノ辭令書ニハ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮內官ニ付テハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

第十六條　爵記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第十七條　一位ノ位記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス二位以下四位以上ノ位記ニハ御璽ヲ鈐シ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス五位以下ノ位記ニハ宮內省ノ印ヲ鈐シ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十八條　爵位ノ返上ヲ命シ又ハ允許スルノ辭令書ニハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

第十九條　勳二等功三級以上ノ勳記ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ勳三等功四級以下ノ勳記ニハ國璽ヲ鈐シ內閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム（大正十年勅令第百四十五號ヲ以テ本項改正）

勳記ニハ勳章ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記官之ニ署名ス

第二十條　記章ノ證狀竝外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ニハ內閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記官之ニ署名セシム

證狀ニハ其ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記官之ニ署名ス

第二十一條　勳章及記章竝外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ヲ褫奪スルノ辭令書ニハ內閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム

附則　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公文式ハ之ヲ廢止ス

軍令ニ關スル件

（明治四十年九月十二日軍令第一號）

朕軍令ニ關スル件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス

第一條　陸海軍ノ統帥ニ關シ勅定ヲ經タル規程ハ之ヲ軍令トス

第二條　軍令ニシテ公示ヲ要スルモノニハ上諭ヲ附シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ主任ノ陸軍大臣海軍大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第三條　軍令ノ公示ハ官報ヲ以テス

第四條　軍令ハ別段ノ施行時期ヲ定ムルモノノ外直ニ之ヲ施行ス

共通法（大正七年四月十七日法律第三十九號）

改正、大正一二年一法律二五

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル共通法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

共通法

第一條　本法ニ於テ地域ト稱スルハ內地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ヲ謂フ（大正十二年法律第二十五號ヲ以テ本項改正）

前項ノ內地ニハ樺太ヲ包含ス

第二條　民事ニ關シ一ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ法令ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於テハ各地域ニ於テ其地ノ法令ヲ適用ス二以上ノ地域ニ於テ同一ノ他ノ地域ノ法令ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於テ其相互ノ間亦同シ民事ニ關シテハ前項ノ場合ヲ除クノ外法例ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各當事者ノ屬スル地域ノ法令ヲ以テ其ノ本國法トス

第三條　一ノ地域ノ法令ニ依リ其ノ地域ノ家ニ入ル者ハ他ノ地域ノ家ヲ去ル

一ノ地域ノ法令ニ依リ家ヲ去ルコトヲ得サル者ハ他ノ地域ノ家ニ入ルコトヲ得ス

陸海軍ノ兵籍ニ在ラサル者及兵役ニ服スル義務ナキニ至リタル者ニ非サレハ他ノ地域ノ家ニ入ルコトヲ得ス但シ徵兵終決處分ヲ經テ第二國民兵役ニ在ル者ハ此限ニ在ラス

第四條　一ノ地域ニ於テ成立シタル法人ハ他ノ地域ニ於テ其ノ成立ヲ認ム

前項ノ法人ハ他ノ地域ノ法令ニ依リ同種又ハ類似ノ法人ノ爲スコトヲ得サル事項ハ其ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　一ノ地域ノ法人ハ其ノ事務所若ハ營業所ヲ他ノ地域ニ移轉シ又ハ從タル事務所若ハ營業所ヲ他ノ地域ニ於テ設立スルコトヲ得但シ主タル事務所又ハ營業所ノ移轉ハ移轉地ニ於テ設立スルコトヲ得ヘキ法人ト同種ノ法人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ移轉又ハ設立ニ必要ナル條件ハ各地域ノ法令ノ定ムル所ニ依ル

第六條　一ノ地域ノ法人カ其ノ事務所若ハ營業所ヲ他ノ地域ニ移轉シ又ハ從タル事務所若ハ營業所ヲ他ノ地域ニ於テ設立シタルトキハ四週間內ニ各其ノ他ノ法令ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ法人ニ關シ一ノ地域ニ於テ生シタル事項ニ付他ノ地域ニ於テ登記ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　一ノ地域ノ會社ハ他ノ地域ノ會社ト合併ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ合併ニ必要ナル條件ハ各地域ノ法令ノ定ムル所ニ依ル

第八條　一ノ地域ノ法人ノ役員ノ行爲ニ付定メタル過料ノ規定ハ其ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ同種又ハ類似ノ法人ノ役員ノ爲シタル行爲ニ之ヲ適用ス

前項ノ役員トハ發起人、理事、監事及之ニ準スヘキ者竝清算人ヲ謂フ

第九條　民事訴訟及非訟事件ニ付一ノ地域內ニ住所ヲ有セサル者ノ裁判管轄又ハ他ノ地域ノ法人ノ裁判管轄ニ關シテハ民事訴訟法、人事訴訟法手續法及非訟事件手續法中日本ニ住所ヲ有セサル者又ハ外國法人ノ裁判管轄ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ規定ノ適用ニ付裁判管轄ノ指定ニ關スル司法大臣ノ職務ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣總督、關東長官又ハ南洋廳長官之ヲ行フ（大正十二年法律第二十五號ヲ以テ本項改正）

第十條　一ノ地域ニ主タル營業所又ハ住所ヲ有スル者ニ對シテハ其ノ地域ニ於テノミ破產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

一ノ地域ニ於テ爲シタル破產ノ宣告ノ效力ハ他ノ地域ニ及フ

第十一條　一ノ地域ニ於テ民事訴訟、非訟事件又ハ破產事件ニ關シテ爲シタル訴訟行爲、裁判、處分其ノ他ノ手續上ノ行爲ハ他ノ地域ニ於ケル法令ノ適用ニ關シテハ其ノ地ノ法令ニ依リ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス但シ其ノ地ノ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ民事爭訟調停ニ付之ヲ準用ス

民事爭訟調停ニ關スル規定ナキ地域ニ於テハ其ノ調停ハ民事訴訟法ニ依リテ爲シタル和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十二條　一ノ地域ニ於テ作成シタル公正證書其ノ他法令ニ依リ官署公署ノ作成シタル文書ハ他ノ地域ニ於テ其ノ地ノ法令ニ依リ作成シタルモノト同一ノ公正ノ效力ヲ有ス

第十三條　一ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル者ハ他ノ地域ニ於テ之ヲ處罰スルコトヲ得

第十四條　刑事ニ關シ一ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ法令ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於テハ各地域ニ於テ其地ノ法令ヲ適用ス二以上ノ地域ニ於テ同一ノ他ノ地域ノ法令ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於テ其相互ノ間亦同シ一ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ犯罪ヲ處斷スル場合ニ於テハ前項ノ場合ヲ除クノ外犯罪地ノ法令ニ依ル但シ笞刑ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

犯罪地ノ法令ニ依リ處斷スル場合ニ於テ處斷地ノ法令ニ笞刑ニ關スル規定アルトキハ其ノ規定ニ依リ笞刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第十五條　一ノ地域ノ法人ノ役員又ハ支配人ノ行爲ニ付定メタル刑罰ノ規定ハ其ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ同種ノ法人ノ役員又ハ支配人ノ爲シタル行爲ニ之ヲ適用ス

前項ノ役員ニハ第八條第二項ニ揭クル者ノ外檢査役ヲ包含ス

第十六條　一箇ノ刑事事件又ハ牽連スル數箇ノ刑事事件地域ヲ異ニスル數箇ノ裁判官廳ノ管轄ニ屬スルトキハ刑事訴訟法第五條及第十條第一項ノ規定ヲ準用ス（大正十二年法律第二十五號ヲ以テ本條改正）

第十七條　一ノ地域ノ檢事、檢察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者他ノ地域ノ管轄裁判官廳ニ於テ事件ヲ審理スルコトヲ適當ト認ムルトキハ其ノ地域ノ檢事、檢察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ送致スルコトヲ得

一ノ地域ノ豫審又ハ第一審ノ裁判官廳他ノ地域ノ管轄裁判官廳ニ於テ事件ヲ審理スルコトヲ適當ト認ムル片ハ檢事、檢察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ其地域ノ管轄裁判官廳ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第十八條　一ノ地域ニ於テ刑事ノ訴訟若ハ卽決處分又ハ假出獄ニ關シテ爲シタル裁判、處分其ノ他ノ手續上ノ行爲ハ他ノ地域ニ於ケル法令ノ適用ニ關シテハ其ノ地ニ於テ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條第一項但書ノ規定ハ私訴ニ之ヲ準用ス

第十九條　一ノ地域ニ於テ爲シタル刑ノ執行猶豫ノ言渡又ハ假出獄ノ處分ハ他ノ地域ニ於テ其地ノ法令ニ依リ之ヲ取消スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但第三條ノ規定ニ付テハ別ニ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得（第三條ヲ除ク外ノ規定ハ大正七年勅令第一四四號ヲ以テ大正七年六月一日ヨリ施行シ、第三條ノ規定ハ大正十年勅令第二八三號ヲ以テ大正十年七月一日ヨリ施行ス）

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニ付亦之ヲ適用ス但シ第十一條第一項及第十八條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ人ノ資格ニ基ク既成ノ效果ヲ妨ケス

本法施行前ニ宣告シタル破產ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（大正十二年法律第二十五號附則）

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十六條ノ改正規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年勅令第五百十六號ヲ以テ第十六條ノ改正規定ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス）

第十六條ノ改正規定施行ノ際現ニ繫屬スル事件ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律

（明治四十年三月二十九日法律第二十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

法律ノ全部又ハ一部ヲ樺太ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但左ノ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルヿヲ得

一　土人ニ關スルコト

二　行政官廳又ハ公署ノ職權ニ關スルヿ

三　法律上ノ期間ニ關スルコト

四　裁判所又ハ裁判所長カ職權ヲ以テ選任シ又ハ選定スル辯護人、訴訟代理人又ハ訴訟承繼人ニ關スルコト

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

樺太ニ施行スル法律ノ特例ニ關スル件

（大正九年五月三日勅令第百二十四號）

改正
大正一〇・一・一勅令七七、三〇八
大正一一・一・一勅令六二、二〇六、三
大正一一・九・一勅令三五六、五一五
大正一二・一・一勅令八七
大正一三・一・一勅令三五七
昭和二・一・一勅令四五、三七七
昭和四・一・一勅令一五四、二八六
昭和六・一・一勅令一三二

朕樺太ニ施行スル法律ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

樺太施行法律特例

第一條　樺太ニ於ケル土人ノ外ニ關係者ナキ民事ニ關スル事項及土人ノミニ對スル刑事ニ關スル事項ハ從來ノ慣例ニ依ル

前項ニ規定スル事項ニ關スル訴訟手續ハ裁判所ノ便宜ニ從フ

第二條　樺太廳支廳長及稅務、林務、鑛業又ハ水產ニ關スル事務ヲ管掌スル官吏ハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職權ヲ有ス

刑事訴訟法中地方長官ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第三條　民法又ハ商法ニ規定スル登記ヲ爲スヘキ期間ハ之ヲ二倍トス

第四條　刑事訴訟法第八十二條ノ場合ニ於テハ海陸路四里毎ニ一日ヲ伸長ス

第五條　裁判所又ハ裁判長カ職權ヲ以テ辯護士ヲ訴訟承繼人、訴訟代理人又ハ辯護人ニ選定シ又ハ選任スヘキ場合ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條　漁業法第七條ノ規定ハ土人ノ漁業ニ關シテ之ヲ適用セス樺太廳長官ニ於テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七條　鑛業法、砂鑛法、砂鑛區稅法及鑛業抵當法ニ依ル「農商務大臣」若ハ主務大臣及鑛務ニ關スル事項ヲ管掌スル官署ノ長ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第八條　鑛發令及陸地測量標條例中府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第九條　（削除）

第十條　砂糖消費稅法及織物消費稅法ノ施行ニ關スル事務ハ樺太廳支廳之ヲ行フ但シ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖及織物ニ關シテハ稅關ニ委託シテ之ヲ行ハシム

第十一條　出版法及新聞紙法ニ關スル內務大臣ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ取扱フ

豫約出版法中內務大臣ノ職務ハ樺太廳長官、地方官廳ノ職務ハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

第十二條　藥品營業並藥品取扱規則中內務大臣及地方長官ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行ヒ內務省及地方官ノ事務ハ樺太廳之ヲ行フ

第十三條　間接國稅犯則者處分法中稅務監督局トアルハ樺太廳、稅務署トアルハ樺太廳支廳トシ稅務署長ノ職務ハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

第十四條　產業組合法ニ規定スル登記又ハ屆出ヲ爲スヘキ期間ハ之ヲ二倍トシ同法中地方長官ノ職務ハ樺太廳長官、北海道廳支廳長ノ職務ハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

第十五條　精神病者監護法第三條、第四條及第五條ニ規定スル屆出期間並同法第三條及第八條ニ規定スル假監置ノ期間ハ之ヲ二倍トス

精神病者監護法第六條又ハ第八條第三項ノ規定ニ依リ町村長ニ於テ精神病者ヲ監置スヘキトキハ樺太廳長官ノ命令ニ依ル場合ヲ除クノ外同長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ認可ヲ受クル暇ナキトキハ三十日以內之ヲ監置スルコトヲ得

町村長ハ其ノ監護スル精神病者ノ監置ヲ適當ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得

第十六條　紙幣類似證券取締法中主務大臣ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第十七條　土地收用法第十條、第十一條、第二十條及第二十四條ニ規定スル期間ハ之ヲ二倍トシ同法中內務大臣ノ職務ハ內閣總理大臣、大臣、地方長官及收用審查會ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第十八條　地方鐵道法及鐵道抵當法中監督官廳トアルハ樺太廳長官トス

第十九條　國稅徵收法中大藏大臣ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第二十條　傳染病豫防法中內務大臣及地方長官ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第二十一條　森林法中主務大臣及地方長官ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ但シ日本商工會議所ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第二十二條　商工會議所法中主務大臣ノ職務ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　戶籍法ニ規定スル屆出又ハ申請ヲ爲スヘキ期間ハ之ヲ二倍トス

第二十四條　國籍法及明治三十一年法律第二十一號中內務大臣ノ職務ハ內閣總理大臣之ヲ行フ

第二十五條　登錄稅法第六條第二項中樺太トアルハ內地トス

第二十六條　無信線電話線建設條例カ遞信省トアルハ樺太廳トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治四十年勅令第九十四號
明治四十年勅令第九十七號
明治四十年勅令第二百三十三號
明治四十年勅令第二百五十七號
明治四十年勅令第三百十八號
明治四十二年勅令第百五十二號
明治四十二年勅令第百七十八號
明治四十三年勅令第二十七號
明治四十三年勅令第二百五號
明治四十三年勅令第三百四十五號
明治四十四年勅令第百四十八號
大正元年勅令第十二號
大正四年勅令第八十八號
大正五年勅令第十六號
大正六年勅令第三十號
大正六年勅令第三十一號
大正七年勅令第二百六十號
大正八年勅令第二百三十四號

朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律

（明治四十四年三月二十五日 法律第三十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　朝鮮ニ於テハ法律ヲ要スル事項ハ朝鮮總督ノ命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第二條　前條ノ命令ハ內閣總理大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ

第三條　臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ朝鮮總督ハ直ニ第一條ノ命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ命令ハ發布後直ニ勅裁ヲ請フヘシ若勅裁ヲ得サルトキハ朝鮮總督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第四條　法律ノ全部又ハ一部ヲ朝鮮ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　第一條ノ命令ハ第四條ニ依リ朝鮮ニ施行シタル法律及特ニ朝鮮ニ施行スル目的ヲ以テ制定シタル法律及勅令ニ違反スルコトヲ得ス

第六條　第一條ノ命令ハ制令ト稱ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律

（大正十年三月十五日 法律第三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　法律ノ全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ官廳又ハ公署ノ職權、法律上ノ期間其ノ他ノ事項ニ關シ臺灣特殊ノ事情ニ因リ特例ヲ設クル必要アルモノニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二條　臺灣ニ於テ法律ヲ要スル事項ニシテ施行スヘキ法律ナキモノ又ハ前條ノ規定ニ依リ難キモノニ關シテハ臺灣特殊ノ事情ニ因リ必要アル場合ニ限リ臺灣總督ノ命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第三條　前條ノ命令ハ主務大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ

第四條　臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ臺灣總督ハ前條ノ規定ニ依ラス直ニ第二條ノ命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ發シタル命令ハ公布後直ニ勅裁ヲ請フヘシ勅裁ヲ得サルトキハ臺灣總督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第五條　本法ニ依リ臺灣總督ノ發シタル命令ハ臺灣ニ行ハルル法律及勅令ニ違反スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年法律第六十三號又ハ明治三十九年法律第三十一號ニ依リ臺灣總督ノ發シタル命令ニシテ本法施行ノ際現ニ效力ヲ有スルモノニ付テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル

臺灣ニ施行スル法律ノ特例ニ關スル件

大正十一年九月十八日 勅令第四百七號

改正 大正一一・一一・一 勅令五二三　大正一二・一二・一 勅令五一四　昭和二・一一・一 勅令二一一　昭和四・一・一 勅令二八四　昭和七・一・一 勅令三六〇　昭和八・一・一 勅令九六二

朕臺灣ニ施行スル法律ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一章　通則

第一條　臺灣ニ施行スル民事又ハ刑事ニ關スル法律中裁判所構成法トアルハ臺灣總督府法院條例、執達吏手數料規則トアルハ臺灣總督府法院執達規則トス

前項ノ法律中裁判所構成法ノ規定ヲ揭ケ又ハ其ノ規定ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ付法院條例中其ノ規定ニ相當スル規定アルモノハ其ノ規定ニ依ル

第二條　前條第一項ノ法律中大審院トアルハ高等法院上告部、控訴院トアルハ高等法院覆審部、地方裁判所トアルハ地方法院合議部又ハ地方法院支部合議部、區裁判所トアルハ地方法院單獨部又ハ地方法院支部單獨部、區裁判所出張所トアルハ地方法院出張所、控訴院長トアルハ高等法院長、地方裁判所長トアルハ地方法院長、檢事總長又ハ檢事長トアルハ高等法院檢察官長、控訴院ノ檢事トアルハ高等法院檢察官、地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事トアルハ地方法院檢察官又ハ地方法院支部檢察官トス但シ公證人法中區裁判所トアルハ地方法院又ハ地方法院支部、地方裁判所トアルハ地方法院、控訴院トアルハ高等法院トス

第三條　第一條第一項ノ法律ニ規定スル各省大臣ノ職務ハ臺灣總督之ヲ行フ

第四條　第一條第一項ノ法律中府縣トアルハ州又ハ廳、市町村トアルハ市街庄又ハ區、市區町村長トアルハ市尹街庄長又ハ區長トス但シ公證人法中市區町村長トアルハ印鑑證明ニ關スル事務ヲ主管スル官公署トス

第四條ノ二　別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ律令中臺灣特殊ノ事情ニ因リ規定セラレタル事項ニ關シテハ第一條第一項ノ法律トノ關係ニ於テハ當分ノ內當該律令ノ規定ニ依ル

第四條ノ三　第一條第一項ノ法律中裁判所書記ノ除斥、忌避及回避ニ關スル規定ハ法院通譯ニ之ヲ準用ス

第二章　民事ニ關スル特例

第一節　民法ニ關スル規定

第五條　本島人ノミノ親族及相續ニ關スル事項ニ付テハ民法第四編及第五編ノ規定ヲ適用セス別ニ定ムルモノヲ除クノ外慣習ニ依ル

第六條　本令施行前ニ發生シタル左ニ揭クル權利ニハ本令施行ノ日ヨリ左ノ例ニ依リ各民法ノ規定ヲ適用ス

一　所有權　業主權

二　地基權及工作物又ハ竹木所有ノ爲ニスル存續期間二十年以上ノ疇耕權其ノ他ノ永佃權　地上權

三　耕作又ハ牧畜ノ爲ニスル存續期間二十年以上ノ疇耕權其ノ他ノ永佃權　永小作權

四　典權及起耕胎權　質權

五　胎權（起耕胎權ヲ除ク）　抵當權

六　第二號第三號ニ該當セサル疇耕權其ノ他ノ永佃權及佃權　賃借權

第七條　臺灣不動產登記規則又ハ臺灣土地登記規則ニ依リテ爲シタル登記ハ民法第百七十七條ノ規定ノ適用ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ不動產登記法ニ依ル登記ト看做ス

第八條　本令施行ノ際臺灣土地登記規則ニ依リテ業主權、典權、胎權又ハ第六條第二號

若ハ第三號ニ該當スル墾耕權ニ關スル登記ヲ爲スコトヲ得ル者本令施行ノ日ヨリ一年內ニ第六條ノ例ニ依リ民法ノ權利ニ關スル登記ヲ爲シタルトキハ各其ノ效力ヲ生ス

第九條　本令施行ノ際臺灣土地登記規則ニ依リテ墾耕權ニ關スル登記ヲ爲スコトヲ得ル者ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ賃貸借ニ關スル規定ヲ適用ス但シ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第十條　本令施行前ニ土地ノ引渡ヲ受ケ登記ヲ爲サス本令施行ノ際現ニ之ヲ墾耕スル者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ本令施行ノ日ヨリ賃貸借ニ關スル規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テハ存續期間ノ定アルトキト雖各當事者ハ其ノ期間內ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルモノト看做ス

第十一條　主務官廳カ本令施行後正當ノ理由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其ノ解散ヲ命シタルトキハ法人ハ訴願スルコトヲ得

第十一條ノ二　陸海軍ノ兵籍ニ在ラサル者及兵役ニ服スルノ義務ナキニ至リタル者ニ非サレハ臺灣ノ家ニ入ルコトヲ得ス但シ徵兵終決處分ヲ經テ第二國民兵役ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　後五條ノ規定ハ本島人ノミニ關スル事項ニ之ヲ適用ス

第十三條　本令施行ノ際現ニ十六年以上ノ者ハ二十年ニ達セサルモノト雖仍成年者トス

第十四條　民法第七百二十五條乃至第七百三十一條ノ規定ハ第一條第一項ノ法律中親族ニ關スル規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第十四條ノ二　內地人ト本島人トノ間ノ婚姻又ハ縁組ニ因リ臺灣ノ家ニ入リタル者ノ協議上ノ離婚又ハ離縁ハ之ヲ郡守、警察署長警察分署長又ハ支廳長ニ屆出ツルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第十五條　本令施行ノ際現ニ存スル祭祀公業ハ慣習ニ依リ存續ス但シ民法施行法第十九條ノ規定ニ準シ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

第十六條　本令施行ノ際現ニ獨立ノ財產ヲ有スル團體ニシテ民法第三十四條ニ揭ケタル目的ヲ有セサルモノハ財產ハ團體員ノ共有トス

第十七條　民法ノ施行ニ關シテハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民法施行法ヲ準用ス

第二節　商法、小切手法及破產法ニ關スル規定

第十八條　家長、董事其ノ他ノ者ニシテ本令施行ノ際現ニ主人ニ代リテ其ノ營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ニハ本令施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十八條ノ二　日本內地、朝鮮、樺太又ハ關東州若ハ南洋群島ニ於テ振出シ又ハ日本及滿洲國以外ノ亞細亞洲ノ地域ニ於テ振出シ臺灣ニ於テ支拂フヘキ小切手ノ呈示期間ハ小切手法第二十九條ノ規定ニ拘ラス左ノ期間ニ依ル

一　日本內地、朝鮮、樺太又ハ關東州ニ於テ振出シタルモノ　二十日

二　南洋群島ニ於テ振出シタルモノ　六十日

三　日本及滿洲國以外ノ亞細亞洲ノ地域ニ於テ振出シタルモノ　六十日

第十八條ノ三　小切手法ノ適用ニ付テハ信用組合ハ之ヲ銀行ト同視ス

第十八條ノ四　破產法中相續財產ニ對スル破產ニ關スル規定ハ本島人ノ相續財產ニ對スル破產ニ之ヲ適用セス

第十九條　商法ノ施行ニ關シテハ商法施行法ヲ準用ス

第三節　民事訴訟法ニ關スル規定

第二十條　訴訟關係人カ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シタルトキハ呼出ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第二十一條　（削除）

第二十二條　（削除）

第二十二條ノ二　民事訴訟費用法施行前要シタル訴訟費用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十三條　（削除）

第二十四條　民事訴訟法中改正法律施行法ニ於テ舊法ト稱スルハ從前ノ民事訴訟法ノ規定ノ外本令ノ從前ノ規定ヲ謂フ

第四節　不動產登記法ニ關スル規定

第二十五條　不動產登記法ノ施行ニ關シテハ不動產登記法附則及大正二年法律第十八號附則ノ規定ヲ準用ス

第二十六條　不動產登記法ノ施行ニ付臺灣特殊ノ事項ノ登記手閉ニ關シテハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依ル

第五節　雜則

第二十七條　法人ニ關スル登記事項ニシテ內地ニ於テ生シタルモノニ付テハ其ノ登記期間ヲ二週間伸長ス

第二十七條ノ二　公證人法中勅令トアルハ臺灣總督府令トス

第三章　刑事ニ關スル特例

第二十八條　檢察官ハ刑事訴訟法第百二十三條ニ規定スル場合ノ外被疑者ニ付同法第八十七條ニ規定スル事由アリタル場合ニ於テ急速ヲ要シ判官ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ直ニ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

刑事訴訟法第百二十三條及前項ニ規定スル場合ニ於テハ司法警察官モ亦勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

刑事訴訟法第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百九條ノ規定ハ前二項ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

第二十九條　司法警察官刑事訴訟法第百二十七條ノ規定ニ依リ訊問シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遲クトモ七日內ニ同條ニ定メタル送致ノ手續ヲ爲スヘシ

司法警察官他ノ司法警察官ノ命令又ハ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ刑事訴訟法第百二十七條ノ規定ニ依ラス速ニ之ヲ命令シ又ハ囑託シタル司法警察官ニ引致シ又ハ送致スヘシ

第三十條　檢察官刑事訴訟法第百二十九條第一項ノ規定ニ依リ勾留狀ヲ發シタル場合又ハ他ノ檢察官ヨリ勾留セラレタル被疑者ヲ受取リタル場合ニ於テ勾留ノ日又ハ被疑者ヲ受取リタル日ヨリ十日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ書類及證據物ト共ニ之ヲ管轄法院ノ檢察官若ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲ササルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

第三十一條　刑事訴訟法第百十一條及第百十二條第一項ノ規定ハ檢察官ノ爲ス勾留ニ付之ヲ準用ス

第三十二條　檢察官ハ被疑者ニ付刑事訴訟法第八十七條ニ規定スル事由アルタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ押收、搜索、檢證、證人訊問竝鑑定、通譯及飜譯ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ司法警察官モ亦押收、搜索、檢證、證人訊問竝鑑定、通譯及飜譯ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

刑事訴訟法第二百十四條、第二百十七條、第二百二十八條及第二百三十六條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ檢察官又ハ司法警察官ノ爲ス證人訊問竝鑑定、通譯及飜譯ノ處分ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　法院又ハ豫審判官ハ必要ト認ムルトキハ命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ檢證又ハ鑑定ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

刑事訴訟法第百五十條第二項第三項及第二百二十八條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ司法警察官ノ爲ス鑑定ノ處分ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　刑事訴訟法第二百五十條及第二百五十一條中勅令トアルハ臺灣總督府令トス

第三十五條　刑事訴訟法第二百六十四條ノ規定ハ當分ノ内本島人ノ爲ス告訴ニ付之ヲ適用セス

第三十六條　刑事訴訟法中市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘキ場合ニ於テハ市街庄若ハ區ノ官公吏又ハ相當ノ者ヲシテ立會ハシムヘシ

第三十七條　刑事訴訟法第三百三十八條第三項ノ規定ハ之ヲ適用セス但シ檢察官又ハ辯護人ハ必要トスル事項ニ付公判ニ於テ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ飜譯人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ裁判長適當ト認ムルトキハ檢察官又ハ辯護人ヲシテ直接ニ其ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十八條　刑事訴訟法ノ施行ニ關シテハ刑事訴訟法第六百十六條及第六百十八條乃至第六百三十一條ノ規定ヲ準用ス

第三十九條　大正十一年十二月三十一日以前ニ要シタル刑事訴訟費用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四十條　第二十八條ノ規定ニ依ル拘禁ハ之ヲ刑事補償法第一條第一項ニ規定スル未決勾留ト看做ス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

文官任用令

（大正二年八月一日勅令第二百六十一號）

改正、大正七―勅令一〇、大正九―勅令一五九、勅令三五五、大正一〇―勅令一一五、大正一一―勅令一一六、勅令四七三、大正一二―勅令四二、勅令四〇二、大正一三―勅令二八、勅令一六七、昭和五―勅令四七、昭和九―勅令五八、勅令三七五、昭和一〇―勅令一二一

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官任用令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　文官ノ任用ハ親任式ヲ以テ任スル官及特別ノ規程ヲ設クルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　勅任文官ハ第五條第一項ノ資格ヲ有シ一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用ス

第三條　第五條第一項ノ資格ヲ有セス二年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ハ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條ノ二　左ニ掲クル勅任文官ハ前二條ノ規定ニ依ル資格ヲ有セサルモ各其ノ職務ニ必要ナル學識技能及經驗ヲ有スル者ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

内閣調査局長官
海外駐劄財務官
專賣局長官
内閣印刷局長
造幣局長
專賣局部長
千住製絨所長
臺灣總督府專賣局長

第四條　陸海軍將官ハ各其ノ部内ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條　奏任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　高等試驗行政科試驗ニ合格シタル者
二　高等試驗外交科試驗ニ合格シ二年以上外交官又ハ領事官ノ職ニ在リタル者
三　二年以上判事又ハ檢事ノ職ニ在リタル者
四　裁判所構成法ニ依リ判事、檢事又ハ司法官試補タル資格ヲ有シ二年以上陸軍法務官若ハ海軍法務官、朝鮮總督府若ハ南洋廳ノ判事若ハ檢事又ハ臺灣總督府法院若ハ關東法院ノ判官若ハ檢察官ノ職ニ在リタル者
五　普通試驗ニ合格シタル者
六　高等試驗ニ合格シタル者
七　二年以上文官ノ職ニ在リタル者
四年以上雇員タル者

第六條　判任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者
二　高等試驗合第七條ノ規定ニ依リ高等試驗豫備試驗ヲ受クルコトヲ得ル者
三　專門學校令ニ依リ、法律學、政治學、行政學又ハ經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年ノ課程ヲ履修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者
四　普通試驗ニ合格シタル者
五　高等試驗ニ合格シタル者
六　二年以上文官ノ職ニ在リタル者
七　四年以上雇員タル者

第七條　教官、技術官其ノ他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官ハ高等官ニ在リテハ高等試驗委員、判任官ニ在リテハ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス
學校長ハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ文官タル資格ヲ有スル者ハ仍其ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

官ノ職ニ在リタル者
二年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ文部部内ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第六條　判任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者
二　高等試驗合第七條ノ規定ニ依リ高等試驗豫備試驗ヲ受クルコトヲ得ル者
三　專門學校令ニ依リ、法律學、政治學、行政學又ハ經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年ノ課程ヲ履修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者
四　普通試驗ニ合格シタル者
五　高等試驗ニ合格シタル者
六　二年以上文官ノ職ニ在リタル者
七　四年以上雇員タル者

第七條　教官、技術官其ノ他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官ハ高等官ニ在リテハ高等試驗委員、判任官ニ在リテハ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス
學校長ハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ文官タル資格ヲ有スル者ハ仍其ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

文官分限令

（明治三十二年三月二十八日勅令第六十二號）

改正、明治三六―勅令一五六、昭和七―勅令一五三

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官分限令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　本令ハ親任式ヲ以テ敍任スル官、公使、祕書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官ニ適用ス

第二條　官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ免セラルルコトナシ

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
理事又ハ主理ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ陸軍法務官又ハ海軍法務官ノ職ニ在リタル者ト看做ス

附　則（大正十一年勅令第百十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前關東廳法院ノ判官又ハ檢察官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ陸軍法務官又ハ海軍法務官ノ職ニ在リタル者ト看做ス
檢察官ノ職ニ在リタル者ト看做ス

附　則（昭和九年勅令第三百七十五號）

第三條　官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

一　不具、廢疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
二　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ
三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス

第四條　官吏ハ廢官若ハ廢廳ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第五條　第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス

第六條　官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラルルコトナシ

第七條　文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク
審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第八條　文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク

第九條　懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス

前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ

第十條　第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一　懲戒令ノ規定ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二　刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ

三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四　官廳事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在テハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在テハ高等官ニ付テハ滿二年、判任官ニ付テハ滿一年トス

第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ズルトキハ高等官ニ在リテハ文官高等分限委員會、判任官ニ在リテハ文官普通分限委員會ノ諮問ヲ經ルコトヲ要ス但シ其ノ諮問ヲ經ザルコトニ付本人ノ同意アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職官吏ト異ナルコトナシ

前條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第十三條　第十一條ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス

第十四條　免官ハ勅任官ニ在テハ內閣總理大臣、奏任官ニ在テハ內閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

休職ハ勅任官ニ在テハ內閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在テハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ス其ノ復職ヲ命スルトキ亦同シ

附　則

第十五條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏非職條例、明治二十三年勅令第二百八十六號其ノ他從前ノ命令ニシテ本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條　本令施行前官吏非職條例又ハ明治二十三年勅令第二百八十六號ニ依リ非職又ハ休職ヲ免セラレ未タ滿期ニ至ラサル者ハ本令第十一條第一項第四號ノ休職者ニ關スル規定ヲ適用ス但シ本令第十三條ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　本令中休職トアルハ他ノ法令ニ於テ規定スル非職ト看做ス

附　則（昭和七年勅令第二百五十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ第十一條第一項第二號ノ規定ニ依リ休職ヲ免ゼラレ本令施行ノ際現ニ休職中ナル者ニ付テハ同號ノ規定ノ改正ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

文官分限委員會官制

（昭和七年九月二十四日勅令第二百五十四號）

改正、昭和九―勅令三四九

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官分限委員會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文官分限委員會官制

第一章　文官高等分限委員會

第一條　文官高等分限委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ高等文官ニ關スル文官分限令第十一條第三項ノ諮問ニ應ジ意見ヲ答申ス

第二條　委員會ハ會長一人委員七人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ內閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　樞密顧問官　一人

二　大審院長タル判事　一人

三　會計檢査院長　一人

四　行政裁判所長官　一人

五　文官分限令ノ適用ヲ受クル勅任文官　三人

前項第一號及第五號ノ委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條　委員會ニ豫備委員六人ヲ置ク

豫備委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　樞密顧問官　一人

二　大審院部長タル判事　一人

三　會計檢査院部長　一人

四　部長タル行政裁判所評定官　一人

五　文官分限令ノ適用ヲ受クル勅任文官　二人

豫備委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條　會長事故アルトキハ上席ノ委員其ノ職務ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ闕員アルトキハ會長ハ同種ノ資格ヲ有スル豫備委員ニ代理ヲ命ズ但シ同種ノ資格ヲ有スル豫備委員ニ代理ヲ命ズルコト能ハザル場合ニハ他ノ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ズ

第六條　委員會ハ會長及委員ヲ併セ六人以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

委員會ノ議事ハ出席委員ノ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第七條　第三條第二項第一號及第五號ノ委員竝ニ豫備委員ノ任期ハ三年トス

第八條　委員會ニ幹事ヲ置ク高等官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條　委員會ニ書記ヲ置ク判任官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二章　文官普通分限委員會

第十條　文官普通分限委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク當該官廳ノ長官ノ監督ニ屬シ判任文官ニ關スル文官分限令第十一條第三項ノ諮問ニ應ジ意見ヲ答申ス

一　內閣

二　樞密院

三　各省

四　朝鮮總督府

五　臺灣總督府

六　關東局

七　樺太廳

八　南洋廳

九　會計檢査院

十　行政裁判所

十一　警視廳

十二　北海道廳

十三　府縣

十四　朝鮮總督府道

十五　臺灣總督府州

十六　貴族院事務局

十七　衆議院事務局

前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通分限委員會ヲ置クコトヲ得

第十一條　委員會ハ會長一人委員五人ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二條　會長ハ當該官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ內閣ニ在リテハ法制局長官、樞密院ニ在リテハ書記官長、各省ニ在リテハ次官、朝鮮總督府ニ在リテハ政務總監、臺灣總督府ニ在リテハ總務長官、關東局ニ在リテハ總長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ當該官廳ノ長官之ヲ命ズ

一　當該官廳部內ノ高等官　二人

二　當該官廳部外ノ高等官　三人

特別ノ事情アル官廳ニ在リテハ當該官廳ノ長官ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ受ケ前項第二號ノ委員ニ代ヘ當該官廳部內ノ高等官ヲ委員ニ命ズルコトヲ得

第十三條　委員會ニ豫備委員三人ヲ置ク

豫備委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ當該官廳ノ長官之ヲ命ズ

一　當該官廳部內ノ高等官　一人
二　當該官廳部外ノ高等官　二人
前條第三項ノ規定ハ豫備委員ニ付之ヲ準用ス

第十四條　會長事故アルトキハ上席ノ委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條第二項ノ規定ハ委員ノ代理ニ付之ヲ準用ス

第十五條　委員會ハ會長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

委員會ノ議事ハ出席委員ノ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第十六條　委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

第十七條　委員會ニ書記ヲ置ク會長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ其ノ官廳ノ長官之ヲ命ズ書記ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三章　手續

第十八條　文官分限令第十一條第三項ノ諮問ハ勅任文官ニ在リテハ內閣總理大臣、奏任文官ニ在リテハ本屬長官ノ申請ニ依リ內閣總理大臣、判任文官ニ在リテハ本屬長官之ヲ行フ

第十九條　會長、委員及豫備委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ズ

第二十條　委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官吏服務紀律

（明治二十年七月三十日勅令第三十九號）

朕官吏服務紀律ノ政正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ施行セシム

官吏服務紀律

第一條　凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條　官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條　官吏ハ職務ノ內外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ內外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹愼懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條　官吏ハ已ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同樣トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第五條　官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條　官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルヽコトヲ得ス

第七條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給竝贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條　左ニ揭ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一　官廳ノ工事ヲ受負フ者
一　官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
一　官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
一　官廳ノ用品ヲ調達スル者
一　官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條　凡ソ上官タル者ハ職務ノ內外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　官吏竝ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條　官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條　官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ內ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條　本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

高等試驗令（昭和四年三月二十八日勅令第十五號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等試驗令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

高等試驗令

第一條　奏任文官ノ任用資格試驗、外交官及領事官ノ任用資格試驗竝ニ裁判所構成法第五十八條ノ試驗ハ高等試驗ト稱シ本令ニ依リ之ヲ行フ但シ特別ノ規程アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　高等試驗ハ每年一回東京ニ於テ之ヲ行フ其ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

本試驗各科ノ試驗ハ各別ノ期日ニ之ヲ行フ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等試驗ヲ受クルコトヲ得ズ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二　破產者ニシテ復權ヲ得ザル者

第四條　高等試驗ヲ分チテ豫備試驗及本試驗トス

豫備試驗ニ合格シタル者ニ非ザレバ本試驗ヲ受クルコトヲ得ズ

第五條　豫備試驗ハ受驗者ガ本試驗ヲ受クルニ相當ナル學識ヲ有スルヤ否ヤヲ考試スルヲ以テ目的トス

第六條　豫備試驗ハ論文及外國語ニ付之ヲ行フ

外國語試驗ハ英語、佛語及獨語ノ中ニ就キ受驗者ヲシテ豫メ一種ヲ選擇セシメ之ヲ行フ但シ受驗者ノ願ニ依リ他ノ外國語ヲ以テ之ニ代フルコトアルベシ

第七條　豫備試驗ヲ受ケントスル者ハ中學校ヲ卒業シタル者、文部大臣ニ於テ普通教育ニ關シ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト定メタル者及高等試驗委員ニ於テ普通教育ニ關シ中學校ト同驗以上ト認ムル外國ノ學校ヲ卒業シタル者ヲ除クノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ國語及漢文、歷史、地理、數學竝ニ物理及化學ニ付中學校卒業程度ニ於テ行フ試驗ニ合格シタル者ナルコトヲ要ス

第八條　高等學校高等科ヲ卒リ若ハ大學豫科ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認ムル者ハ豫備試驗ヲ免ズ

豫備試驗ニ合格シタル者ハ爾後豫備試驗ヲ免ズ

第九條　本試驗ハ受驗者ガ必要ナル學識及其ノ應用能力ヲ有スルヤ否ヤヲ考試スルヲ以テ目的トス

第十條　本試驗ヲ分チテ行政科、外交科及司法科ノ三科トス

受驗者ハ二科以上ノ試驗ヲ併セ受クルコト

ヲ得

第十一條　本試驗ハ筆記及口述トス筆記試驗ニ合格シタル者ニ非ザレバ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ズ

第十二條　民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、破產法其ノ他高等試驗委員ニ於テ必要ト認ムル科目ノ筆記試驗及口述試驗ハ受驗者ニ法文ヲ示シテ之ヲ行フ

第十三條　行政科試驗ノ筆記試驗ハ左ノ必須科目及選擇科目ニ付之ヲ行フ

必須科目

一　憲法
二　行政法
三　民法
四　經濟學

選擇科目

一　哲學概論
二　倫理學
三　論理學
四　心理學
五　社會學
六　政治學
七　國史
八　政治史
九　經濟史
十　國文及漢文
十一　商法
十二　刑法
十三　國際公法
十四　民事訴訟法
十五　刑事訴訟法
十六　財政學
十七　農業政策
十八　商業政策
十九　工業政策
二十　社會政策

選擇科目ハ受驗者ヲシテ豫メ三科目ヲ選擇セシム

行政科試驗ノ口述試驗ハ行政法及受驗者ノ受驗シタル筆記試驗ノ科目中其ノ志望ニ係ル其ノ他ノ二科目ニ付之ヲ行フ

第十四條　外交科試驗ノ筆記試驗ハ左ノ必須科目及選擇科目ニ付之ヲ行フ

必須科目

一　憲法
二　國際公法
三　經濟學
四　外國語

外國語ハ英語、佛語、獨語、支那語及露語ノ中ニ就キ受驗者ヲシテ豫メ其ノ一種ヲ選擇セシム

受驗者ノ願ニ依リ其ノ選擇シタル外國語ノ外他ノ外國語ヲ併セ試驗スルコトアルベシ

選擇科目

一　哲學概論
二　倫理學
三　論理學
四　心理學
五　社會學
六　政治學
七　國史
八　政治史
九　經濟史
十　外交史
十一　國文及漢文
十二　民法
十三　商法
十四　刑法
十五　行政法
十六　國際私法
十七　財政學
十八　商業政策
十九　商業學

選擇科目ハ受驗者ヲシテ豫メ三科目ヲ選擇セシム

外交科試驗ノ口述試驗ハ外國語（筆記試驗ニ於テ受驗シタルモノ）、國際公法及受驗者ノ受驗シタル筆記試驗ノ科目中其ノ志望ニ係ル其ノ他ノ二科目ニ付之ヲ行フ

第十五條　司法科試驗ノ筆記試驗ハ左ノ必須

科目及選擇科目ニ付之ヲ行フ

必須科目

一　憲法
二　民法
三　商法
四　刑法
五　民事訴訟法又ハ刑事訴訟法（受驗者ヲシテ豫メ一種ヲ選擇セシム）

選擇科目

一　哲學概論
二　倫理學
三　論理學
四　必理學
五　社會學
六　國史
七　國文及漢文
八　行政法
九　破產法
十　國際公法
十一　民事訴訟法又ハ刑事訴訟法（必須科目ニ於テ受驗者ノ選擇セザリシモノ）
十二　國際私法
十三　經濟學
十四　社會政策
十五　刑事政策

選擇科目ハ受驗者ヲシテ豫メ二科目ヲ選擇セシム

司法科試驗ノ口述試驗ハ受驗者ノ受驗シタル筆記試驗ノ科目中其ノ志望ニ係ル三科目ニ付之ヲ行フ但シ其ノ中一科目ハ民法又ハ刑法ナルコトヲ要ス

第十六條　前三條ニ掲クル選擇科目中心理學、社會學、政治史、經濟史其ノ他必要ト認ムル科目ニ付テハ閣令ヲ以テ其ノ範圍ヲ定ムルコトヲ得

第十七條　一ノ科ノ筆記試驗ニ合格シタル者ニ付テハ受驗者ノ願ニ依リ翌年ニ限リ其ノ科ノ筆記試驗ヲ免ス

第十八條　一ノ科ノ本試驗ニ合格シタル者ニシテ他ノ科ノ本試驗ヲ受ケントスル者ニ付テハ受驗者ノ願ニ依リ其ノ既ニ受驗シタル科目ノ試驗ヲ免ズ但シ行政科本試驗ヲ受ケントスル者ニ在リテハ行政法、外交科本試驗ヲ受ケントスル者ニ在リテハ國際公法、司法科本試驗ヲ受ケントスル者ニ在リテハ民法又ハ刑法（受驗者ヲシテ其ノ一ヲ志望セシム）ノ試驗ハ之ヲ免セス

第十九條　高等試驗ノ合格者ヲ定ムル方法ハ高等試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

第二十條　高等試驗ノ合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第二十一條　不正ノ方法ニ依リ高等試驗ヲ受ケントシタル者又ハ高等試驗ニ關スル規程ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止シ其ノ合格ヲ無效トス

前項ノ規定ニ該當スル者ニ對シテハ三年以內ニ於テ期間ヲ定メ高等試驗ヲ受ケシメザルコトヲ得

第二十二條　高等試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ本試驗ノ一科ニ付十五圓ヲ納ムベシ

第二十三條　高等試驗ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ一ノ科ノ筆記試驗ニ合格シタル者ニ對シ第十七條ノ規定ヲ適用シテ其ノ科ノ口述試驗ヲ行フ場合ニ於テ其ノ筆記試驗ニ於テ受驗シタル科目中商業史アルトキハ之ヲ本令ニ依ル筆記試驗ノ科目ト看做ス

文官高等試驗ニ合格シタル者ハ之ヲ本令ニ依リ行政科試驗ニ合格シタルモノト看做ス

高等試驗令施行細則

（大正七年二月二十八日 閣令第一號）

改正、大正一二ー閣令三、大正一三ー閣令一、昭和二ー閣令一、昭和四ー閣令一

高等試驗令施行細則左ノ通定ム

高等試驗令施行細則

第一條　高等試驗ヲ受ケムトスル者ハ受驗願書ニ履歷書及高等試驗令第七條又ハ第八條ノ規定ニ該當スル者ナルコトヲ證スル書類竝出願前一年內ニ帽ヲ著ケスシテ撮影シタル手札形寫眞（裏面ニ撮影年月日又氏名ヲ自署スヘシ）ヲ添ヘ高等試驗委員長ニ提出スヘシ

高等試驗司法科試驗ヲ受ケムトスル者ニシテ大正十二年勅令第百九十七號ニ依リ豫備試驗ノ免除ヲ申請セムトスルモノハ受驗願書ニ履歷書、豫備試驗免除申請書及明治二十四年司法省令第三號判事檢事登用試驗規則ニ依ル試驗ノ受驗ヲ出願シタル者ナルコトヲ證スル書類竝出願前一年內ニ帽ヲ著ケスシテ撮影シタル手札形寫眞（裏面ニ撮影年月日及氏名ヲ自署スヘシ）ヲ添ヘ高等試驗委員長ニ提出スヘシ

受驗ノ出願ハ豫備試驗ヲ受クル者ニ在リテハ毎年四月一日ヨリ同月二十五日迄ニ、其ノ他ノ者ニ在リテハ毎年五月一日ヨリ同月二十五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第二條　受驗願書ニハ本試驗ノ分科ヲ記載シ且本試驗ニ於テ受驗セントスル科目ヲ筆記試驗及口述試驗別ニ記載スベシ

第三條　豫備試驗ヲ受クル者ニ在リテハ受驗願書ニ前條ニ規定スル事項ノ外豫備試驗ニ於テ受驗セントスル外國語ノ種類ヲ記載スヘシ

第四條　一ノ科ノ筆記試驗ニ合格シタル者高等試驗令第十七條ノ規定ニ依リ其ノ科ノ筆記試驗ノ免除ヲ受ケントスルトキハ受驗願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

一ノ科ノ本試驗ニ合格シタル者ニシテ他ノ科ノ本試驗ヲ受ケントスル者高等試驗令第十八條ノ規定ニ依リ其ノ既ニ受驗シタル科目ノ試驗ノ免除ヲ受ケントスルトキハ受驗願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五條　受驗手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ受驗願書ニ貼附スヘシ

受驗手數料ハ試驗ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

第六條　受驗願書及添附書類ハ之ヲ還付セス

但シ證書又ハ證明書ハ請求ニ因リ之ヲ還付スス

第七條　受驗者試驗當日開試ノ時間迄ニ出席セス又ハ試驗半途ニテ休止シタルトキハ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條　受驗者ハ試驗委員長ノ告示其ノ他試驗委員ノ指示ヲ遵守スヘシ

第九條　高等試驗ノ合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十條　高等試驗ニ關シ本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ高等試驗委員長之ヲ定ム

高等試驗施行要綱

（昭和四年三月二十八日 內閣告示第一號）

高等試驗施行要綱左ノ通定メタリ

高等試驗施行要綱

第一條　高等試驗豫備試驗ノ論文試驗ヲ行フニハ受驗者ニ其ノ高等普通教育ノ素養ヲ有スルヤ否ヤヲ考試スルニ適スル論題數個ヲ與ヘ其ノ一ニ對シテ答案ヲ作成セシメ思想ノ內容及表示方法ニ付考査ヲ爲スモノトス

第二條　高等試驗豫備試驗ノ外國語試驗ハ外國文和譯及和文外國語譯ニ付之ヲ行ヒ通常ノ外國文ヲ了解シ且外國文ニ依リテ簡易ナル思想ヲ表ハスノ能力ニ付考試ヲ爲スモノトス

第三條　高等試驗本試驗各科目ノ試驗ニ關シテハ試驗ノ目的ハ受驗者カ必要ナル學識及其ノ應用能力ヲ有スルヤ否ヤヲ考試スルニ在ルニ鑑ミ試驗問題ノ選定及試驗成績ノ考査ニ當リ特殊ノ學說特殊ノ學派ノ見解ニ偏スルコトナク適正ヲ得ルニ努メ又記憶力ニ基ク知識ノ考試ニ偏スルコトナク學理ノ理會及其ノ應用能力ヲ試スルニ意ヲ用フルモノトス

第四條　憲法、行政法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法其ノ他諸法ノ試驗ニ當リテハ普ニ規定ノ說明論述ニ止マラス機宜ニ應シ各規定ノ基ク理由及史實竝ニ其ノ實際ニ及ホス效果等ニ付考試ヲ爲シ國內法ニ在リテハ特ニ其ノ我國體國俗等トノ關係ニ付考試ヲ爲スモノトス

高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件

（大正七年二月二十八日 文部省令第三號）

改正、大正九ー文令一七、大正一一ー文令三四、大正一三ー文令四、文令一三、大正一四ー文令三七、大正一五ー文令六、昭和四ー文令二八、昭和七ー文令一三

高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等試驗令第七條ニ依リ普通教育ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學歷ヲ有スル者トス

一　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定規程ニ合格シタル者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ國語及漢文、歷史、地理、數學竝物理及化學ニ付試驗檢定ニ合格シ若ハ試驗ヲ免除セラレタル者又ハ朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官若ハ關東長官ノ定ムル專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依リ國語及漢文、歷史、地理數學竝物理及化學ニ付試驗檢定ニ合格シ若ハ試驗ヲ免除セラレタル者

二　專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

三　專門學校入學者檢定規程ニ依リ特定ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラレタル者ニシテ普通教育ニ關スル試驗ヲ受ケ若ハ成績優秀ナルノ故ヲ以テ無試驗檢定ニ依リ中學校卒業以上ノ學力ヲ以テ入學程度トスル大學豫科又ハ專門學校ニ入學シタル者

四　高等學校高等科第二學年以上又ハ修業年限三年ノ大學豫科第二學年以上ニ入學シタル者

五　前各號ノ外中學校卒業以上ノ學力ヲ以テ入學程度トシ且文部大臣ノ指定ヲ受ケタル學校ニ入學シタル者

第二條　左ノ者ハ高等試驗令第八條ニ依リ高等學校高等科ヲ卒リ若ハ大學豫科ヲ修了シタル者ト同等以上ト認ム

一　大學學部ニ學生トシテ入學シ現ニ在學スル者又ハ卒業シ若ハ學士試驗ニ合格シタル者

二　文部大臣ニ於テ高等學校高等科若ハ大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校ヲ卒業シタル者

第三條　高等試驗令第七條ノ試驗ハ毎年少クトモ一回之ヲ行フ

試驗ノ出願期限、試驗施行ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

第四條　試驗ヲ受ケントスル者ハ受驗願書（第一號書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ受驗地ノ地方廳ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一　履歷書（第二號書式）

二　戸籍抄本

三　寫眞（手札形トシ出願前三月以內ニ脫帽ニテ撮影シタルモノニシテ裏面ニ撮影年月日、本籍氏名ヲ記載スヘシ）

四　第六條第二項ニ依ル證明書ノ寫、專門學校入學者檢定規程第七條第二項ニ依ル證明書ノ寫又ハ同規程第八條ノ資格ヲ證明スル書面

第五條　試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ金五圓ヲ納付スヘシ

第六條　試驗ニ合格シタル者ニハ合格證書（第三號書式）ヲ交付ス

試驗ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セサルモ受驗學科目中合格點ヲ得タルモノアルトキハ其ノ證明書（第四號書式）ヲ交付ス

前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ試驗ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス

專門學校入學者檢定規程第七條第二項又ハ第八條ニ依リ試驗ヲ免除セラルル者ニ付亦同シ

第七條　合格證書ヲ有スル者其ノ氏名、本籍ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ合格證書ノ書換若ハ再交付ヲ出願スル者ハ手數料トシテ金一圓ヲ納付スヘシ

第八條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止シ尙期間ヲ定メテ試驗ヲ受ケシメサルコトアルヘシ

專門學校入學者檢定規程第十條ニ依リ試驗ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止セラレタル期間本令ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト後日發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ效力ヲ失フ

第九條　本令ニ依リ納付スヘキ手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ之ヲ願書ニ貼付スヘシ

其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

附　則（昭和四年文部省令第二十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ文部大臣ニ於テ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校ハ本令ニ依リ高等學校高等科若ハ大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校ト看做ス

（附錄書式略ス）

高等試驗ノ受驗資格ニ關スル件

（大正十二年四月三十日　勅令第百九十七號）

改正、昭和二―勅令一〇二、昭和四―勅令一六、昭和七―勅令二二六

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等試驗ノ受驗資格ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年司法省令第三號判事檢事登用試驗規則ニ依ル試驗ノ受驗ヲ出願シタル者ニシテ高等試驗司法科ノ試驗ヲ受ケムトスルモノニハ受驗者ノ申請ニ因リ昭和十二年十二月三十一日迄豫備試驗ヲ免スルコトヲ得

高等試驗令第十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ豫備試驗ヲ免セラレタル者ニ之ヲ適用セス

請願令

（大正六年四月五日　勅令第三十七號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ請願令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

請願令

第一條　請願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二條　請願ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

請願出ニハ侮辱誹毀ニ涉リ又ハ秩序風俗ヲ紊ル文辭ヲ用ウルコトヲ得ス

第三條　請願書ノ文字ハ端正鮮明ナルコトヲ要ス

第四條　請願書ニハ請願ノ要旨、理由、年月日、請願者ノ族稱、職業、住所、年齡ヲ記載シ請願者各自之ニ署名捺印スヘシ

第五條　法人請願者ナルトキハ其ノ名稱及住所ヲ記載シ法定ノ代表者各自請願書ニ署名捺印スヘシ

第六條　法人ハ其ノ目的ノ遂行ニ關係アル事項ニ非サレハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　未成年者及禁治產者ノ請願ハ其ノ法定代理人ニ於テモ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ請願書ニ代理ノ事由及法定代理人ノ族稱、職業、住所、年齡ヲ記載シ法定代理人之ニ署名捺印スヘシ

第八條　署名スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代署セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代署者請願書ニ其ノ事由ヲ附記シ且其ノ族稱、職業、住所、年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第九條　請願ハ第七條ノ場合ヲ除クノ外代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　天皇ニ奉呈スル請願書ハ封皮ニ請願ノ二字ヲ朱書シ內大臣府ニ宛テ其ノ他ノ請願書ハ請願ノ事項ニ付職權ヲ有スル官公署ニ宛テ郵便ヲ以テ差出スヘシ

第十一條　左ニ揭クル事項ニ付テハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

一　皇室典範及帝國憲法ノ變更ニ關スル事項

二　裁判ニ干預スル事項

第十二條　相當ノ敬禮ヲ守ラス又ハ本令ノ規定ニ違反スル請願書ハ之ヲ却下ス但シ官公署ニ對スル請願書ハ第三條乃至第五條、第七條第二項又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモノヲ却下セサルコトヲ得

第十三條　請願ニ對シテハ指令ヲ與ヘス

第十四條　天皇ニ奉呈スル請願書ハ內大臣奏聞シ旨ヲ奉シテ之ヲ處理ス

第十五條　請願ニ關シ官公署ノ職員ニ强テ面接ヲ求メタル者ハ二月以下ノ禁錮若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

二人以上共ニ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　行幸ノ際沿道又ハ行幸地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

行啓ノ際沿道又ハ行啓地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者亦同シ

第十七條　請願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動シ又ハ名義ノ何タルヲ問ハス請願ニ關スル運動ノ爲金錢其ノ他ノ利益ヲ收受シ、要求シ若ハ其ノ收受ヲ約束シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

恩給法

（大正十二年四月十四日法律第四十八號）

改正　昭和八ー法律五〇

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル恩給法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

恩給法

第一章　總則

第一條　公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ（昭和八年法律第五十號ヲ以テ本項改正）

普通恩給、增加恩給、傷病年金及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス（同上）

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條　恩給年額竝一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位ニ滿タシム

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス（同上）

前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル官內職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス（同上）

第七條　時效期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時效完成セス

時效期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者決定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至ル迄ハ時效完成セス

時效期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時效期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時效期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條　公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ハ之ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條　年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ（昭和八年法律第五十號ヲ以テ本號改正）

三　國籍ヲ失ヒタルトキ

在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ因リ禁錮以上ノ刑（陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マス）ニ處セラレタルトキハ其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職カ普通恩給ヲ受ケタル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生シタル權利ノミ消滅ス（同上ヲ以テ本項追加）

第九條ノ二　裁定官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ニ付其ノ權利ノ存否ヲ調査スヘシ（同上ヲ以テ本條追加）

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外內閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條　行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ內閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ內閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ公務傷病ノ程度ニ付テハ出訴ヲ爲スコトヲ得ス（昭和八年法律第五十號ヲ以テ但書追加）

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　內閣總理大臣及內閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條　內閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審查會ニ諮問スヘシ

恩給審查會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

一　文官及準文官竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

二　軍人及準軍人竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

三　朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、聾啞學校及小學校ニ幼稚園、盲學校、實業補習學校、類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス（昭和八年法律第五十號ヲ以テ本號改正）

四　前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

五　警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

六　待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條　前條第一號、第二號若ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年中ニ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得（同上ヲ以テ本項改正）

前條第三號、第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ國庫以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年

又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄内ニ於テ在職シタル第三號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス(同上)

第十八條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、神官司廳又ハ神宮皇學館ノ職員タル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(同上ヲ以テ本項改正)

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二章　公務員

第一節　通則

第十九條　本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員並第二十四條ニ掲クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條　文官トハ武官又ハ宮内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條　軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者

二　國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者

準軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生

二　勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條　教育職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　公立ノ學校、幼稚園若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ(昭和八年法律第五十號ヲ以テ本號改正)

二　道府縣立師範學校長(同上)

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校又ハ幼稚園ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ(同上)

第二十三條　警察監獄職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　警部補、巡査、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛

二　看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守

三　判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條　待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　判任官以上ノ待遇ヲ受クル神官司廳職員、神官神部署職員及官國幣社ノ神職

二　判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ職員(前條第二號ニ掲クル者ヲ除ク)、感化院職員及矯正院職員(昭和八年法律第五十號ヲ以テ本號改正)

三　地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

四　前三號ニ掲クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條　本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職

二　現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト

三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命

四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任命但シ巡査、陸軍警査、海軍警査ニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス

五　待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條　本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官又ハ退官、官ノ外退職

二　現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス(昭和八年法律第五十號ヲ以テ本號改正)

三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

五　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條　第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ戰務、戒嚴地境内ノ勤務又ハ外國ノ領戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條　公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル退職シタル者再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給又ハ第八十二條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年其ノ他ノ前在職年ノ年月數ハ之ヲ合算ス(昭和八年法律第五十號ヲ以テ但書改正)

退職シタル月ニ於テ再就職シタル場キハ在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ

起算ス

第二十九條　公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條　軍人又ハ警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ准士官以上ノ軍人ニ付テハ十三年ニ達スル迄、下士官以下ノ軍人及警察監獄職員ニ付テハ十二年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ十分ノ七ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス（同上ヲ以テ本條改正）

第三十一條　削除

第三十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一　戰地ニ在リテ戰鬪ニ參與シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二　戰地外ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ冒ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

第三十四條　公務員戒嚴地境内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條　公務員外國鎮戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第三十六條　航空機乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條　潛水艦乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潛水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條　公務員其ノ職務ヲ以テ遐陬又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條　海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三分ノ一月ヲ加算ス一年以上引續キ編隊艦船ニ乘シテ上陸制限ノ下ニ準戰訓練ニ服シタルトキモ同シ（昭和八年法律第五十九ヲ以テ本項改正）

前項ノ遠洋就海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算事由ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十條ノ二　休職、待命、歸休、停職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニシテ一月以上ニ亘ルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減ス（昭和八年法律第五十號ヲ以テ本條追加）

第四十一條　左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二　第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三　在職中二年以下ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數（同上ヲ以テ本號改正）

四　公務員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數（同上ヲ以テ本號追加）

五　公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數（同上）

六　宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ（同上）

第四十二條　左ニ掲クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一　宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

二　準軍人ノ在職年月數

三　高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四　準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ準軍人又ハ皇宮警手トシテノ在職年ハ夫々之ヲ軍人又ハ警察監獄職員トシテノ在職年ト看做ス（同上ヲ以テ本項改正）

第四十三條　第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十條ノ二及第四十一條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月ニ付之ヲ準用ス（同上ヲ以テ本項改正）

第四十四條　本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條　公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條　公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖裁定官廳ニ於テ恩給審査會ノ議ニ付スルヲ相當ト認メ且恩給審査會ニ於テ不具癈疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス（同上ヲ以テ本項改正）

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十六條ノ二　公務員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ノ

程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年内ニ退職シタルトキ又ハ其ノ公務員カ下士官以下ノ軍人ニシテ退職後一年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病年金ヲ料ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル條件(傷病ノ程度ヲ除ク)ヲ具備スル者ニシテ退職當時ノ傷病ノ程度カ前項ノ勅令ニ定ムル程度ニ達セサリシモノノ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

前條第四項ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ給スヘキ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス(昭和八年法律第五十號ヲ以テ本條追加)

第四十七條　前二條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス(同上ヲ以テ本條改正)

第四十八條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一　勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ

二　戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

三　公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍、公務傷病ニ因ル不具癈疾ノ程度及傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度竝教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上)

第五十條　裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給又ハ增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス(同上ヲ以テ本項追加)

第五十一條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二　在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第二號但書及第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス(同上)

第五十二條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ在職スル不具癈疾ノ程度ニ相應スル增恩加給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二　後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第五十五條ノ二　前二條中增加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職シ再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス(昭和八年法律第五十號ヲ以テ本條追加)

第五十六條　前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス(同上ヲ以テ本號改正)

第五十七條　前四條ノ規定ハ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス(同上)

第五十八條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一　公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵トシテ就職スルトキ又ハ準士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ存ヲス(同上ヲ以テ本號改正)

二　二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス(同上)

三　之ヲ受クル者三十五歲ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歲以上

員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ退職シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癈疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一　後ノ傷痍又ハ疾病カ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表第

四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セス（同上ヲ以テ本號追加）

四　恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ（同上ヲ以テ本號追加）

前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法並停止方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（同上ヲ以テ本項追加）

第一項第二號ノ規定ハ增加恩給及傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　文官ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ（昭和八年法律第五十號ヲ以テ本條改正）

下士官以上ノ軍人ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

教育職員ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾唖學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟ニ對シ其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

警察監獄職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ每月其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ每月其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二節　恩給金額

第五十九條ノ二　本節ニ於ニ退職前一年內ノ俸給年額ト稱スルハ退職前一年內ニ付テハ別表第一號準軍人ニ在リテハ各階等ニ付定メラレタル別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ其ノ階等ニ對スル俸給額トス）ノ總額ヲ謂フ但シ左ノ特例ニ從フ（同上ヲ以テ本條追加）

一　公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲退職シ又ハ死亡シタル者ニ付退職又ハ死亡ノ際昇給アリタルトキハ其ノ爲サレタル昇給ノ中級俸ノ定アルモノ（軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ級俸トス）ニ付テハ一級、其ノ定ナキモノニ付テハ昇給前ノ俸給ノ百分ノ十五ヲ限度トシ退職一年前ヨリ昇給セラレタルモノトシテ計算ス

二　前號ニ規定スル場合以外ノ場合ニ於テ退職前一年內ニ昇給アリタルトキハ其ノ昇給カ前俸給二年以上据置ノ後爲サレタルモノナルトキニ限リ前號ノ規定ヲ準用ス

轉官職ニ依ル俸給ノ增額ハ之ヲ昇給ト看做シ前項但書ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル退職前一年內ノ俸給ノ算出方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

實在職期間一年未滿ナルトキハ其ノ俸給額ヲ月數ノ割合ニ依リ一年分ニ換算ス

本節ニ於テ退職前ノ俸給月額ト稱スルハ退職前ノ俸給年額ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヲ謂フ

第六十條　文官在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス（同上ヲ以テ本條改正）

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中十七年以上ノ在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年中十七年ヲ前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年七年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號、第五十五條ノ二又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十一條　准士官以上ノ軍人在職年十三年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス（昭和八年法律第五十號ヲ以テ本項改正）

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第一號ノ準軍人在職年十三年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス（同上）

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年以上十四年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十四年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第四十六條、第四十七條又ハ第五十五條ノ二一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十三年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス（同上）

准軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條ノ二　下士官以下ノ軍人在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス（同上ヲ以テ本條追加）

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第二號ノ準軍人在職年十二年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十三年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ下士官ニ在リテハ七圓、兵ニ在リテハ六圓ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項並前條第五項、第七項及第八項ノ規定ハ下士官以下ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

第六十二條　教育職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス（同上）

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾唖學校又ハ其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス第二項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス（同上）

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十三條　警察監獄職員在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス（同上）

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス（同上）

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十二年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス（同上）

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス（同上）

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條　待遇職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス（同上）

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス（同上）

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條ノ二　一時恩給ヲ受ケタル後其ノ一時恩給ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ勅令ノ定ムル時期ニ於テ返還シタルトキハ此ノ限ニ在ラス（同上ヲ以テ本條追加）

第六十五條　公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ二　公務員ノ傷病年金ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第三號ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ傷病年金ノ年額ニ付之ヲ準用ス（同上ヲ以テ本條追加）

第六十六條　下士官以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ傷病年金ヲ給セラルル程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年內ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス（同上ヲ以テ本項改正）

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等竝傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス（同上）

ノ普通恩給ノ年額トス但シ差月數一月ニ付一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ勅令ノ定ムル時期ニ於テ返還シタルトキハ此ノ限ニ在ラス（同上ヲ以テ本條追加）

第六十五條　公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ二　公務員ノ傷病年金ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第三號ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ傷病年金ノ年額ニ付之ヲ準用ス（同上ヲ以テ本條追加）

第六十六條　下士官以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ傷病年金ヲ給セラルル程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年內ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス（同上ヲ以テ本條改正）

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等竝傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス（同上）

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條　文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス（同上ヲ以テ本條改正）

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條　准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿ニシテ又ハ下士官在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士官以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス（同上ヲ以テ本條改正）

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十九條　削除（同上ヲ以テ本條削除）

第七十條　警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス（同上ヲ以テ本條改正）

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條　削除（同上ヲ以テ本條削除）

第三章　遺族

第七十二條　本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戶籍內ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一　在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二　普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條　未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戶主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

三　其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

前項第一號又ハ第二號ニ規定スル場合及增

加恩給ヲ併給セラルル者ノ死亡シタル場合ニハ其ノ死亡ノ月ノ翌月ヨリ五年間ハ前項ノ規定ニ依ル扶助料ノ年額ニ各其ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ加給ス（昭和八年法律第五十號ヲ以テ本項追加）

第七十六條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ
但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條　扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス（同上ヲ以テ本項改正）

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一　其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三　不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

屆出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ入リタリト認メラルル遺族ニ付テハ裁定官廳ハ恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得（同上ヲ以テ本項追加）

裁定官廳ハ前項ニ規定スル事情ヲ調査スル爲必要アルトキハ他ノ官廳又ハ公署ノ援助ヲ求ムルコトヲ得（同上）

第八十一條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條　文官、教育職員又ハ待遇職員在職三年以上十七年未滿、准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿、下士官タル軍人又ハ警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス（同上）

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第五十九條ノ二第五項ノ規定ハ死亡前ノ俸給月額ニ付之ヲ準用ス

第七十三條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第七十四條ノ規定ハ第一項ノ扶助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

附則（大正十二年法律第四十八號附則）

第八十三條　本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條　左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一　官吏恩給法
一　官吏遺族扶助法
一　軍人恩給法
一　市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法
一　府縣立師範學校長恩給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法
一　明治二十四年法律第四號
一　明治二十九年法律第十三號
一　官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
一　明治二十九年法律第七十八號
一　明治三十三年法律第七十五號
一　明治三十三年法律第七十六號
一　明治三十三年法律第七十七號
一　巡査看守退職料及遺族扶助料法
一　明治三十五年法律第二十九號
一　在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法
一　明治四十年法律第四十八號
一　明治四十年法律第四十九號
一　明治四十一年法律第三十五號
一　明治四十三年法律第三十號
一　明治四十四年法律第六十一號
一　明治四十四年法律第六十七號
一　明治四十五年法律第十一號
一　明治四十五年法律第十二號
一　大正七年法律第三十五號
一　大正十年法律第三十五號
一　大正十年法律第九十四號
一　大正十一年法律第十八號
一　大正十一年法律第十九號
一　明治二十二年勅令第百三十三號
一　明治二十三年勅令第九十八號
一　明治二十五年勅令第十八號
一　明治二十五年勅令第三十二號
一　明治三十二年勅令第三十二號
一　明治三十二年勅令第百九十六號
一　明治三十八年勅令第二百二十九號
一　明治四十年勅令第百八十八號
一　明治四十年勅令第百八十九號
一　明治四十年勅令第百九十一號
一　明治四十一年勅令第七十一號
一　明治四十五年勅令第七十號
一　大正七年勅令第六十二號
一　大正十年勅令第二百六十八號
一　大正十一年勅令第八十七號
一　大正十一年勅令第二百八十四號
一　明治九年第九十九號達陸軍恩給令
一　明治十五年第四十一號達巡査看守給助例
一　明治十六年第三十八號達海軍恩給令
一　明治十七年第一號達官吏恩給令

第八十五條　本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料、其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他何レニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條　第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ

經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條　第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隠料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條　從前ノ規定ニ依リ内閣恩給局長ノ爲シタル裁定ハ其申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル内閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル其申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル其申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ其申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條　府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退隠料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條　内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ一年、警察監獄職員ニ在リテハ三年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ四年トス（昭和八年法律第五十號ヲ以テ本項改正）

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條　海軍警吏補ヨリ海軍巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡査ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條　朝鮮總督府巡査補ヨリ朝鮮總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡査補及朝鮮總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條　削除（同上ヲ以テ本條削除）

第九十六條　大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎

タル恩給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條　第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十八條　第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具癈疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條　第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ付テハ當分ノ内之ヲ適用セス其ノ退隠料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ノ外ノ公務員ノ在職年トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依ル教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ掲クル在職年トノ間ニ付亦同シ但シ學習院ノ職員トシテノ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ轉任シタル者失格原因ナクシテ退職シ年金タル恩給ヲ受ケサル場合ニ於テハ文官ノ在職年數ニ應シ之ニ一時恩給ヲ給ス

教育職員ヨリ文官ニ轉シタル者教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ノ外ノ文官トシテ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官トシテノ在職最終ノ俸給額ニ基キ之ニ恩給ヲ給ス

第百條　本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ增額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ俟タズシテ同法附則ノ規定ニ依リ增額セラレタルモノト看做ス

第百一條　本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隠、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ增給ス

第百二條　明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛若ハ衆議院守衛又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給合ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ增加給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ

付之ヲ準用ス

第百三條　北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百四條　第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（別表）

第一號表

（甲）

階等		假定俸給年額
將官及相當官	親任	七、五〇〇圓
	一等	六、五〇〇圓
	二等	五、六〇〇圓
	三等	四、六〇〇圓
	四等	三、九五〇圓
佐官及相當官	五等	三、二五〇圓
	六等	二、三五〇圓
	七等	一、七〇〇圓
	八等	一、四〇〇圓

（乙）

階等		假定俸給年額
准士官	判任官一等	一、二〇〇圓
下士官	同上二等	八五五圓
	同上三等	七六五圓
	同上四等	六七五圓
兵	海軍一等兵	六〇〇圓
	陸軍上等兵	五四〇圓
	海軍二等兵	四九五圓
	陸軍一等兵	四五〇圓
	海軍三等兵	
	陸軍二等兵	
	海軍四等兵	

第二號表

傷病原因	症狀等差	階等	親任 勅任 勅任待遇 將官	奏任 三等乃至五等 奏任待遇 佐官	奏任 六等乃至九等 奏任待遇 尉官	判任 一等 判任待遇 准士官	判任 二等 判任待遇 准士官下士官	判任 三等 判任待遇 准士官下士官	判任 四等 判任待遇 准士官下士官兵卒
甲號 戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	第一項	特別項	二、四〇〇〇圓	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	一〇、〇〇〇圓	九〇〇圓	七九〇圓	六〇〇圓
	第二項	第一項	二、〇〇〇〇圓	一、五〇〇〇圓	一〇、〇〇〇圓	八〇〇〇圓	八〇〇圓	七二〇圓	六〇〇圓
	第三項	第二項	一、六〇〇〇圓	一、二〇〇〇圓	八〇〇〇圓	六〇〇〇圓	六〇〇圓	五七〇圓	四八〇圓
	第四項	第三項	一、二八〇〇圓	九六〇〇圓	六四〇〇圓	五七〇〇圓	五〇〇圓	四六〇圓	三八〇圓
	第五項	第四項	一、〇〇〇〇圓	七五〇〇圓	五〇〇〇圓	四〇〇〇圓	四〇〇圓	三六〇圓	三〇〇圓
	第六項	第五項	八〇〇〇圓	六〇〇〇圓	四〇〇〇圓	三〇〇〇圓	三〇〇圓	二六〇圓	二四〇圓
乙號 普通公務	第一項	特別項	一、九二〇圓	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	九〇〇圓	八〇〇圓	七二〇圓	六〇〇圓
	第二項	第一項	一、四四〇圓	一、二〇〇圓	九六〇圓	七二〇圓	六〇〇圓	五四〇圓	四八〇圓
	第三項	第二項	一、二八〇〇圓	九六〇圓	七二〇圓	六〇〇圓	五四〇圓	四八〇圓	四〇〇圓
	第四項	第三項	一、〇〇〇〇圓	七五〇圓	六〇〇圓	五四〇圓	四八〇圓	四〇〇圓	三六〇圓
	第五項	第四項	八〇〇〇圓	六〇〇圓	四八〇圓	四〇〇圓	三六〇圓	三〇〇圓	二四〇圓
	第六項	第五項	六四〇〇圓	四八〇圓	三六〇圓	三〇〇圓	二四〇圓	二〇〇圓	一六〇圓

備考　特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

傷病原因	症狀等差	階等	判任 一等	判任 二等	判任 三等	判任 四等
甲號 戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	第一款		三一二圓	二八六圓	二六〇圓	
	第二款		二四〇	二二〇	二〇〇	
	第三款		一九二	一七六	一六〇	
	第四款		一五六	一四三	一三〇	
乙號 普通公務	第一款		二五二圓	二三一圓	二一〇圓	
	第二款		一九二	一七六	一六〇	
	第三款		一五六	一四三	一三〇	
	第四款		一三二	一二一	一一〇	

高等及同待遇者ニ給スヘキ金額ハ判任一等ノ者ニ給スヘキ金額ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第四號表

傷病原因	症狀等差	下士官	兵
甲號　戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	第一目	九九〇圓	九〇〇圓
	第二目	八二五	七五〇
	第三目	六六〇	六〇〇
	第四目	四九五	四五〇
	第五目	三三〇	三〇〇
	第六目	一六五	一五〇

傷病原因	症狀等差	下士官	兵
乙號　普通公務	第一目	七九二圓	七二〇圓
	第二目	六六〇	六〇〇
	第三目	五二八	四八〇
	第四目	三九六	三六〇
	第五目	二六四	二四〇
	第六目	一三二	一二〇

附則（昭和八年法律第五十號附則）

第一條　本法ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十六條ノ二及第五十八條第一項第四號ノ改正規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ第五十八條第一項第四號ノ改正規定ハ本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テモ之ヲ適用ス

第三條　第十三條第二項但書ノ改正規定ハ本法施行前ヨリ行政裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條　第十八條第一項ノ改正規定ニ依ル納付金額ハ同項ニ規定スル公務員ニ付テ附則第九條ノ規定ノ必要ナキニ至ル迄ハ第十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ同項ニ規定スル公務員ガ第五十九條（改正前又ハ改正後）及附則第九條ノ規定ニ依リ納付スル金額ノ合計額ト同額トス

第五條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ加算年又ハ休職等ノ減算ニ關スル改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

第六條　第四十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職、待命、歸休、停職其ノ他同條ニ規定スル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本法施行後ト雖モ同條ノ規定ヲ適用セズ

第七條　傷病年金ハ本法施行後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニ之ヲ給ス但シ本法施行前賑恤金（之ニ準ズルモノヲ含ム）又ハ傷病賜金ヲ受クベキ事由ヲ生ジタル者ニハ本法施行前其ノ事由ヲ生ジタルトキト雖モ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第八條　第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ズル者ニハ之ヲ適用セズ

前項ニ規定スル者本法施行後再ビ就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ因ル增額分ニ付第五十八條第一項第三號ノ改正規定ヲ適用ス

第九條　第五十九條ノ改正規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後就職シ又ハ俸給（又ハ給料）ガ昇給若ハ增額セラレタル月ノ翌月ヨリ之ヲ適用ス

第十條　第五十九條ノ二第一項但書ノ場合ニ於テ其ノ公務員カ同一種類ノ公務員トシテ實在職年二十年以上勤續シタル者ニシテ特殊ノ事情アルモノニ付テハ當分ノ內同但書各號ニ於ケル制限ノ一級ヲ二級、百分ノ十五ヲ百分ノ三十トス

第十一條　本法施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達シタル者ニハ其ノ者ガ本法施行後改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ達セズシテ退職シタル場合ト雖モ退職前ノ俸給ニ依リ之ニ普通恩給ヲ給ス但シ其ノ年額ハ在職年ノ不足一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

第十二條　前條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ休職、再服役其ノ他法令上ノ在職期限ノ定アル地位ニ在ル者ニシテ本法施行後前ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達スルモノニ付之ヲ準用ス

第十三條　第六十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前受ケタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十四條　第七十五條第二項ノ改正規定ハ公務員ガ本法施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本法施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十五條　恩給法施行前同法第二十三條ニ掲クル公務員トシテ普通恩給（退隱料）ヲ受ケ引續キ文官ニ任ジ同法施行後迄在職シタル後本法施行前退職シ同法第八十五條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ普通恩給（退隱料）

ヲ文官ノ普通恩給ニ改定セラレザリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラズ特ニ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法施行前ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給(退隠料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定ス但シ恩給法施行後文官退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ増額セラルル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

前項ノ規定ハ恩給法施行後本法施行前ニ文官トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一項ニ規定スル者引續キ本法施行後迄在職スルトキハ恩給法第八十五條第一項ノ規定ニ拘ラズ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ同法第二十三條ニ掲グル公務員トシテノ普通恩給(退隠料)ヲ文官トシテノ普通恩給ニ改定ス

第十六條　第九十一條第二項ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ在職シ從前ノ同項ニ規定スル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十七條　本法施行ノ際現ニ在職シ恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ恩給ノ停止ニ付テハ其ノ者ガ引續キ其ノ官職ニ在職スル期間ニ限リ仍同法第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

第十八條　本法施行前恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザリシ者又ハ前條ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ當該在職期間ト他ノ公務員ノ在職年トノ通算ハ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條　前條ニ規定スル者ヲ除クノ外恩給法第九十九條第一項ニ規定シタル者ノ大正十二年十月一日以後ノ在職年ハ同日以後ノ他ノ公務員ノ在職年ニ通算ス但シ本法施行前ニ給與事由ノ生ジタル場合ニ於テハ其ノ者ガ再就職シ本法施行後退職又ハ死亡シタル場合ニ限リ此ノ規定ニ依ル

前項ニ規定スル者ノ大正十二年九月三十日以前ノ在職年ノ同日以前ノ他ノ公務員ノ在職年トノ通算ニ付テハ同日以前ノ舊法ノ例ニ依ル

第一項ニ規定スル者ノ大正十二年十月一日前後ノ在職年ノ通算ニ關シテハ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用ス

朝鮮ニ於ケル法令ノ効力ニ關スル件

(明治四三年八月　制令第一號)

朝鮮總督府設置ノ際朝鮮ニ於テ其ノ効力ヲ失フヘキ帝國法令及韓國法令ハ當分ノ内朝鮮總督ノ發シタル命令トシテ尙其ノ効力ヲ有ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

制令ニ於テ法律ニ依ルノ規定アル場合ニ於テ其ノ法律ノ改正アリタルトキノ効力ニ關スル件

(明治四四年六月　制令第一一號)

制令ニ於テ法律ニ依ルノ規定アル場合ニ於テ其ノ法律ノ改正アリタルトキハ改正法律施行ノ日ヨリ其ノ改正法律ニ依ル但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮陸軍特別志願兵令

(昭和十三年二月　勅令第九五號)

第一條　戸籍法ノ適用ヲ受ケザル年齢十七年以上ノ帝國臣民タル男子ニシテ陸軍ノ兵役ニ服スルコトヲ志願スルモノハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ銓衡ノ上之ヲ現役又ハ第一補充兵役ニ編入スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ現役又ハ第一補充兵役ニ編入セラレタル者ノ兵役ニ關シテハ陸軍大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外兵役法ノ定ムル所ニ依リ現役兵又ハ第一補充兵トシテ徴集セラレタル者ノ兵役ニ同ジ

第一項ニ規定スル年齢ハ志願ノ年ノ十二月一日ニ於ケル年齢トス

第二條　前條ノ規定ニ依リ現役又ハ第一補充兵役ニ編入スベキ員數ハ毎年陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

前條ノ規定ニ依ル現役又ハ第一補充兵役編入ノ手續ヲ終リタルトキハ陸軍大臣ハ其ノ狀況ヲ上奏スベシ

第三條　補充兵役若ハ國民兵役ニ在ル者又ハ兵役ヲ終リタル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ陸軍部隊編入ヲ志願スルモノハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ銓衡ノ上之ヲ適宜ノ部隊ニ編入スルコトヲ得

第四條　前條ノ規定ニ依リ陸軍部隊ニ編入セラレタル者ハ第一國民兵役ニ在ル者又ハ兵役ヲ終リタル際豫備兵、後備兵若ハ第一國民兵タリシ者ニ在リテハ後備兵役ニ、其ノ他ノ者ニ在リテハ第一補充兵役ニ服セシメ兵役ヲ終リタル者ニシテ前ニ兵ノ階級ヲ有シタルモノニ對シテハ陸軍部隊ニ編入ノ際之ニ前ニ有シタル兵ノ階級ヲ與フ

前項ノ規定ニ依ル服役期間ハ部隊ニ編入セラレタル日ヨリ其ノ編入ヲ解除セラレタル日迄トシ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同ジ

第五條　陸軍大臣ハ朝鮮ニ在リテハ道知事及警察署長ヲシテ第一條ノ規定ニ關スル事務ノ一部ヲ擔任セシムルコトヲ得

附則

本令ハ昭和十三年四月三日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府陸軍兵志願者訓練所官制

(昭和十三年三月　勅令第一五六號)

第一條　朝鮮總督府陸軍兵志願訓練所ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ陸軍特別志願兵令第一條

ノ規定ニ依リ陸軍ノ兵役ニ服スルコトヲ志願シタル者ニ對シ心身ノ鍛錬其ノ他ノ訓練ヲ施ス所トス

第二條　陸軍兵志願者訓練所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　教授　專任一人　奏任

助教授　專任二人　判任

書記　專任一人　判任

第三條　所長ハ朝鮮總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　教授及助教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ訓練ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ昭和十三年四月三日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍特別志願兵令施行規則

（昭和十三年三月　省令第一一號）

第一條　本令ニ於テ令ト稱スルハ陸軍特別志願兵令ヲ謂フ

第二條　令第一條ノ規定ニ依リ陸軍ノ現役又ハ第一補充兵役ニ編入セラレ得ベキ者ハ體格等位甲種（兵役法施行令第六十八條ノ規定ニ依ル）、身長一・六〇米以上ニシテ現役兵トシテ入營シ又ハ第一補充兵トシテ教育ノ爲召集セラルル迄ニ朝鮮總督府陸軍兵志願者訓練所ノ課程ヲ修了シ又ハ修了シ得ベキ見込ノモノニ限ル

第三條　朝鮮軍司令官ハ毎年一月十日迄ニ到著スル如ク令第一條ノ規定ニ依リ現役又ハ第一補充兵役ニ編入スベキ者ノ人員及入營部隊ニ關スル意見ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ

第四條　陸軍大臣ハ令第一條ノ規定ニ依リ現役又ハ第一補充兵役ニ編入スベキ者ノ人員及入營部隊ヲ朝鮮軍司令官ニ達ス

第五條　令第一條ノ規定ニ依リ陸軍ノ兵役ニ服スルコトヲ志願スル者ハ四月三十日迄ニ到著スル如ク願書（附錄第一樣式）ニ戸籍抄本ヲ添ヘ之ヲ本籍地ノ警察署長ニ差出スベシ

前項ニ規定スル戸籍抄本ニハ戸主、本人ノ直系尊屬、妻子及兄弟姉妹ニシテ現ニ其ノ戸籍ニ在ル者ヲ掲グルモノトス

第六條　警察署長前條ノ願書類ヲ受ケタルトキハ朝鮮總督府陸軍兵志願者訓練所生徒採用豫定者タルモノニ限リ其ノ身上明細書、壯丁名簿及壯丁名簿附表ヲ調製シ之ヲ願書類ニ添附シ道知事ニ提出スルモノトス

道知事前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ且壯丁連名簿ヲ調製添附シ五月二十日迄ニ到著スル如ク朝鮮軍司令官ニ提出スルモノトス

前二項ニ規定スル身上明細書壯丁名簿壯丁名簿附表及壯丁連名簿ノ樣式ハ兵役法施行規則第二百三十條第八十四條及第八十五條ニ規定スルモノニ準ズ

第七條　朝鮮軍司令官ハ朝鮮ニ在ル部隊ニ屬スル將校ヲ以テ銓衡委員ヲ編成シ銓衡ノ爲必要ナル檢査ヲ爲サシメ其ノ適否ヲ決シ適當ト認メタル者ニ對シテハ現役又ハ第一補充兵役編入ノ處分ヲ爲ス

前項ノ檢査ハ陸軍身體檢査規則ニ定ムル徵兵身體檢査及朝鮮軍司令官ノ規定スル學科試驗トス

第八條　朝鮮軍司令官ハ前條ノ規定ニ依リ志願者ヲ現役又ハ第一補充兵役ニ編入シタルトキハ道知事及警察署長ヲ經テ之ニ現役兵證書又ハ第一補充兵證書ヲ交付スベシ

前項ノ現役兵證書及第一補充兵證書ハ兵役法施行規則第二百十八條ニ規定スルモノニ準ズ

第九條　前條ノ規定ニ依リ現役又ハ第一補充兵役ニ編入セラレタル者ニ關スル兵役法施行規則ニ規定スル事務ハ朝鮮ニ在リテハ市町村長ニ係ルモノハ警察署長、師管徵兵官及聯隊區徵兵官ニ係ルモノハ師團長及道知事、聯隊區司令官ニ係ルモノハ師團長之ヲ

行フ

第十條　第八條ノ規定ニ依リ現役又ハ第一補充兵役ニ編入セラレタル者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ兵役免除ノ手續ヲ爲スベキモノトス

一　兵役法施行規則ノ定ムル所ニ依リ次年ニ入營延期ノ手續ヲ爲スベキ者

二　兵役法施行規則ノ定ムル所ニ依リ再ビ徵集ノ手續ヲ爲スベキ者

三　現役兵トシテ入營シ又ハ第一補充兵トシテ教育ノ爲召集セラルル迄ニ朝鮮總督府陸軍兵志願者訓練所ノ課程ヲ終了セザル者

四　朝鮮軍司令官ニ於テ現役又ハ第一補充兵役編入處分ヲ取消スヲ要スト認メタル者

第十一條　朝鮮軍司令官ハ毎年二月二十日迄ニ到著スル如ク令第一條ノ規定ニ依リ前年中ニ現役又ハ第一補充兵役ニ編入シタル者ノ銓衡狀況ヲ陸軍大臣ニ報告スベシ

第十二條　令第三條ノ規定ニ依リ陸軍部隊（國民軍ヲ除ク以下之ニ同ジ）編入ヲ志願スル者ハ願書（附錄第二樣式）ニ在職陸軍軍醫將校又ハ醫師ノ健康診斷書、身上明細書及戸籍抄本ヲ添ヘ憲兵又ハ前ニ憲兵タリシ者ニ在リテ本籍地所管ノ憲兵隊長ヲ經由シ憲兵司令官ニ、其ノ他ノ者ニ在リテハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ差出スベシ

前項ノ身上明細書ハ本籍地ノ市長（東京市、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長以下之ニ同ジ）又ハ町村長若ハ之ニ準ズベキ者ノ奥書證印ヲ要ス

第一項ニ規定スル身上明細書ノ樣式ハ兵役法施行規則第三十條ニ規定スルモノニ準ズ

第十三條　憲兵司令官又ハ聯隊區司令官前條ノ願書類ヲ受ケタルトキハ銓衡ノ上許可シ難キ者ニ對シテハ本人ニ其ノ旨ヲ通達シ適當ト認メタル者ニ對シテハ缺員補充其ノ他特ニ必要アルトキニ限リ陸軍召集規則中臨時召集又ハ充員召集ニ關スル規定ヲ準用シテ陸軍部隊ニ編入ノ手續ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ兵種ナキ者ニ對シテハ聯隊區司令官其ノ兵種ヲ決定スルモノトス

憲兵司令官又ハ聯隊區司令官ハ前項ノ規定ニ依リ部隊編入ノ手續ヲ爲シタルトキハ前條第一項ノ願書類ヲ志願者ノ編入ヲ受クベキ部隊ノ長ニ送付スベシ

第十四條　令第三條ノ規定ニ依ル志願者編入セラルベキ部隊ニ到著シタルトキハ部隊長ハ志願者ニ對シ所要ノ身體檢査ヲ行フベシ

前項ノ身體檢査ニ合格シタル者ハ其ノ志願

附錄第一樣式　（用紙美濃白紙）

陸軍特別志願兵令ニ依ル服役願

抄本相添へ及願出候也

追テ第一補充兵役ニ編入セラレタル場合ニ於テハ兵役法第五十七條第一項ノ規定ニ依リ陸軍ノ部隊ニ召集相成度申添候

年　月　日

本籍地　道府郡島邑面里洞番地

現住所　何々　本人　氏　名印

同　戸主　氏　名印

同　親權者又ハ後見人　氏　名印

朝鮮軍司令官殿

ヲ許可セラレタルモノトス

第十五條　前條ノ身體檢査ニ於テ不合格ト爲リタル者ニ付テハ部隊長ハ本人ニ歸鄉ヲ命ジ且其ノ者ノ氏名ヲ速ニ本籍地所管ノ憲兵司令官又ハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通報スベシ

第十六條　第十四條ノ規定ニ依リ陸軍部隊ニ編入セラレタル者ニシテ軍事上又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ必要ナキニ至リタルトキハ師團長、航空兵團司令官又ハ憲兵司令官ニ於テ其ノ部隊編入ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル解除ノ手續ニ付テハ陸軍召集規則中召集解除ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條　第十二條乃至第十六條ノ規定中本籍地ノ聯隊區司令官トアルハ朝鮮ニ在リテハ第十九師團長又ハ第二十師團長、臺灣ニ在リテハ臺灣軍司令官、關東州及滿洲國ニ在リテハ關東軍司令官、本籍地所管ノ憲兵司令官又ハ憲兵隊長トアルハ朝鮮、臺灣、關東州及滿洲國ニ在リテハ在留地所管ノ憲兵隊司令官、又ハ憲兵隊長本籍地ノ市長又ハ町村長若ハ之ニ準ズベキ者トアルハ朝鮮ニ在リテハ在留地ノ警察署長、臺灣ニ在リテハ在留地ノ郡守、警察署長又ハ支廳長、關東州ニ在リテハ在留地ノ警察署長、滿洲國ニ在リテハ大使館兵事員トシ第十二條第二項ノ奥書證印ハ朝鮮ニ本籍及住所ヲ有スル者ニ在リテハ本籍地又ハ現住地ノ警察署長ノ奥書證印トス

附則

本令ハ昭和十三年四月三日ヨリ之ヲ施行ス

國家總動員法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

（昭和十三年五月勅令三一六號）

國家總動員法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附則

本令ハ昭和十三年五月五日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第二樣式

陸軍特別志願兵令ニ依ル陸軍部隊編入願

一　徵集年次
二　兵役區分及兵等級（前ニ有シタル兵ノ等級ハ之ヲ朱書スベシ）
三　生年月日
四　本籍地
五　現住（在留）地
六　職業
七　特業及特有ノ技能
八　編入希望部隊　第一希望　何兵何隊　第二希望　何兵何隊

陸軍特別志願兵令第三條ノ規定ニ依リ陸軍部隊編入志願ニ付御許可相成度別紙陸軍々醫將校（醫師）ノ健康診斷書、身上明細書及戸籍抄本相添ヘ願出候也

年　月　日　本人　氏　名印

憲兵司令官（何聯隊區司令官）殿

（用紙美濃白紙）

備考

一　徵兵檢査ヲ受ケザル者ニ在リテハ戸主及親權者又ハ後見人ノ連署捺印ヲ要ス

二　本願出ト同時ニ幹部候補生タルコトヲ志願スル者ハ陸軍補充令施行規則第七十七條及第七十九條ニ規定スル願書類ヲ差出スコトヲ要ス

裁判所構成法

裁判所構成法目次

裁判所構成法（明二三―法六）

第一編　裁判所及檢事局

第一章　總則……一

第二章　區裁判所……二

第三章　地方裁判所……三

第四章　控訴院……四

第五章　大審院……五

第二編　裁判所及檢事局ノ官吏

第一章　判事又ハ檢事ニ任セラルヽニ必要ナル準備及資格……六

第二章　判事……七

第三章　檢事……八

第四章　裁判所書記……八

第五章　執達吏……九

第六章　廷丁……九

第三編　司法事務ノ取扱

第一章　開廷……九

第二章　裁判所ノ用語……一〇

第三章　裁判ノ評議及言渡……一一

第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程……一一

第五章　司法年度及休暇……一一

第六章　法律上ノ共助……一一

第四編　司法行政ノ職務及監督權……一一

裁判所構成法施行條例（明二三―法二二）……一三

司法事務共助法（明四四―法五二）一四

司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル件（明四四―勅二六八）……一五

新辯護士法（昭八―法五三）

第一章　辯護士ノ職務及資格……一六

第二章　辯護士名簿……一六

第三章　辯護士ノ權利及義務……一七

第四章　辯護士會……一七

第五章　懲戒……一九

辯護士名簿登錄規則（明二六―司五）……二〇

裁判所構成法中改正法律（昭一〇―法二九）……二一

裁判所ノ廢止及設立ニ關スル法律（昭一〇―法三〇）……二一

辯護士法中改正法律（昭一〇―法三四）……二二

公證人法中改正法律（昭一〇―法三五）……二三

執達吏規則中改正法律（昭一〇―法三二）……二三

執達吏手數料規則中改正法律（昭一〇―法三三）……二三

執達吏規則（明二三―法五一）……二三

執達吏手數料規則（明二三―法五二）……二五

執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル法律（大八―法四一）……二七

大正八年法律第四十一號ニ依ル執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル件（大八―勅一九三）……二七

司法代書人法（大八―法四八）……二七

司法代書人法施行細則（大八―司九）……二八

行政裁判法（明二三―法四八）

第一章　行政裁判所組織……二九
第二章　行政裁判所權限……三〇
第三章　行政訴訟手續……三〇
第四章　附則……三三
行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件（明二三―法一〇六）……三三
行政裁判所令（大二―勅一三三）……三三
訴願法（明二三―法一〇五）……三三
司法代書人法中改正法律（昭一〇―法三六）……三四
司法代書人法施行細則中改正（昭一〇―司二〇）……三五
朝鮮總督府裁判所令（明四二―勅二三六）……三六
朝鮮總督府判事及檢事ノ任用ニ關スル件（明四三―制六）……三九
朝鮮辯護士規則（明四三―制一二）……四〇
朝鮮辯護士試驗規則（大一〇―總一五三）……四一
朝鮮辯護士令（昭一一―制四）……四一

裁判所構成法

（明治廿三年二月十日法律第六號）

改正
明治三八―法律六七
明治三九―法律五〇
明治四一―法律一〇、三〇
明治四四―法律七一
大正二―法律六
大正三―法律三九
大正一〇―法律一〇一
大正一一―法律五三
大正一四―法律五
昭和九年―法律二

朕裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

裁判所構成法

第一編　裁判所及檢事局

第一章　總則

第一條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス
第一　區裁判所
第二　地方裁判所
第三　控訴院
第四　大審院

第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條　地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　裁判所ノ設立廢止及管轄區域竝ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム「ク

第五條　各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク

第六條　各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムル件ハ通知ヲ求メ其意見ヲ述フルヿヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其事務ヲ行フ檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ然テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條　檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條　各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限リ別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得

外國語ノ通譯ヲ要スル裁判所及檢事局ニ通譯官ヲ置クコトヲ得

第九條　區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

第十條　法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一　權限アル裁判所ニ缺ク法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二　裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決

ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章　區裁判所

第十一條　區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政事務ヲ委任ス

第十二條　事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同ク毎年前以テ之ヲ定ム

第十三條ノ二　區裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ地方裁判所長ハ地方裁判所判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第十四條　區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル

第一　千圓ヲ超過セサル金額又ハ價額千圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求

第二　價額ニ拘ラス左ノ訴訟

（イ）住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

（ロ）不動產ノ經界ノミニ關ル訴訟

（ハ）占有ノミニ關ル訴訟

（ニ）雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

（ホ）左ニ揭ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

（一）賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

（二）旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

第十四條ノ二　區裁判所ハ破產事件ニ付裁判權ヲ有ス

第十五條　區裁判所ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外非訟事件ニ關ル事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

訟事件中登記事務ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十六條　區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一　拘留又ハ科料ニ該ル罪

第二　短期一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ヲ除ク外有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪

第十六條ノ二　司法大臣ハ地方裁判所ノ管轄區域內ノ一ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事ノ事務ノ全部又ハ一部分ヲ其ノ地方裁判所ノ管轄區域內ノ他ノ區裁判所ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第十七條　前數條ニ揭ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ揭ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十七條ノ二　司法大臣ハ區裁判所ニ屬スル事務ノ一部分ヲ取扱フ爲區裁判所出張所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第十八條　各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ他ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務省之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章　地方裁判所

第十九條　地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第二十條　各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條　司法大臣ハ各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條　各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年前以テ之ヲ定ム

前二項ニ揭ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

第二十三條　或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條　第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域內ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十五條ノ二　地方裁判所ノ豫審判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ會長ノ決スル可否同數ナルトキハ前條ノ規定ニ依ル ノ外控訴院長ニ於テ其ノ管轄區域內ノ他ノ地方裁判所ノ豫審判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二　第二審トシテ

（イ）區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）區裁判所ノ決定及命令ニ對スル

法律ニ定メタル抗告

第二十七條　地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限竝ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二　第二審トシテ

（イ）區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條　（削除）

第二十九條　地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條　地方裁判所ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條　司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域內ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用ヰルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域內ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條　地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條　各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章　控訴院

第三十四條　控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條　各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第三十六條　事務ノ分配及結了竝ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一　前項ニ揭ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二　控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用ヰルコトヲ得ス

第三十七條　控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク

外地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條　皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條　控訴院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條　控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條　第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ三人又ハ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

第四十二條　各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五章　大審院

第四十三條　大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第四十四條　大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四十五條　大審院ノ事務ノ分配竝ニ代理ノ順序ハ每年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ事件緊急ナリトヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ代理ヲ爲シ得認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條　大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

第四十七條　大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條　大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條　大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條　大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

（イ）上告

（ロ）地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令竝ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

（ハ）地方裁判所又ハ區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第七十三條、第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ罪竝ニ

皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處スベキモノノ豫審及裁判

第五十一條　前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十二條　大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條　大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條　第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條　大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條　大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編　裁判所及檢事局ノ官吏

第一章　判事又ハ檢事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及資格

第五十七條　判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ第六十五條ニ定メタル者ヲ除ク外試補トシテ一年六月以上裁判所及檢事局ニ於テ實務ノ修習ヲ爲シ且考試ヲ經ルコトヲ要ス

實務ノ修習及考試ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五十八條　試補ハ成規ノ試驗ニ合格シタル者ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

前項ノ試驗ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　（削除）

第六十條　一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條　試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一　訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二　證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三　登記ヲ爲ス事

第六十二條　司法大臣ハ試補ノ行狀其ノ地位ニ適セス又ハ修習ノ成績考試ニ合格スヘキ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ罷免スルコトヲ得

第六十三條　新任ノ判事又ハ檢事ハ闕位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ闕位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ウ

第六十四條　區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用ヰラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ス且通常代理ノ規程ニ依リ離キコトアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時闕位アル間ハ此ノ法律ノ範圍內ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

第六十五條　三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル試驗及考試ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得

司法官試補タル資格ヲ有シ朝鮮總督府判事又ハ朝鮮總督府檢事タル者亦同シ

第六十六條　左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第二章　判事

第六十七條　判事ハ終身官トシ親任勅任又ハ奏任トス

第六十八條　大審院長ハ親任判事ヲ以テ之ヲ親補ス

控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補シ其ノ他ノ判事ノ職ハ勅任判事又ハ奏任判事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條　五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラル、コトヲ得ス

第七十條　十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラル、コトヲ得ス

第七十一條　第六十九條及第七十條ニ掲ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マテ各々其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十一條ノ二　前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル司法省各局長司法書記官朝鮮總督府判事朝鮮總督府檢事臺灣總督府法院判官臺灣總督府法院檢察官關東廳法院判官又ハ關東廳法院檢察官ノ在職ハ之ヲ判事ノ在職ト看做ス

第七十二條　判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一　公然政事ニ關係スル事

第二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四　商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條　第七十四條乃至第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラル、コトナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラル、ハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ

第七十四條　判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第七十四條ノ二　大審院長年齡六十五年共ノ他ノ判事ノ職ニ在ル者年齡六十三年ニ達シタルトキハ退職トス但シ控訴院又ハ大審院ノ總會ニ於テ三年以內ノ期間ヲ定メ仍在職セシムヘキモノト決議シタルトキハ其ノ期間滿了ノ時ニ於テ退職トス

第七十四條ノ三　司法大臣ハ裁判事務上必要アルトキハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ判事ニ轉所ヲ命スルコトヲ得

第七十五條　法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

第七十六條　判事ノ官等俸給及進給ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十七條　（削除）

第七十八條　判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴追ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ラス引續キ之ヲ給ス

第三章　檢事

第七十九條　檢事ハ親任勅任又ハ奏任トス

第七十六條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長ハ親任檢事ヲ以テ之ヲ親補ス

檢事長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補シ其ノ他ノ檢事ノ職ハ勅任檢事又ハ奏任檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

第八十條　檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

第八十條ノ二　檢事總長年齡六十五年其ノ他ノ檢事ノ職ニ在ル者年齡六十三年ニ達シタルトキハ退職トス但シ司法大臣ハ三年以内ノ期間ヲ定メ仍在職セシムルコトヲ得

第八十一條　檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干涉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條　檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條　檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域内ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍内ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條　司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域内ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及内務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章　裁判所書記

第八十五條　裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第八十六條　地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス

監督書記及書記長ハ各〻其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

第八十七條　書記其ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第八十八條　書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ大審院長控訴院長檢事總長檢事長ニ各〻其ノ裁判所又ハ檢事局ノ書記ヲ地方裁判所長檢事正ニ各〻其ノ裁判所及其ノ管轄區域内ノ區裁判所又ハ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ノ書記ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

書記長及通譯官ハ奏任トス

書記長及通譯官ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十九條　書記ニ任セラル、ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試驗ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格竝ニ此ノ試驗及試驗ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條　書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セラル、コトヲ得

第九十一條　書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記錄ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ其ノ調製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得

前四項ニ揭ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十二條　合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十三條　豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五章　執達吏

第九十四條　各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十五條　執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ地方裁判所長ニ其ノ管轄區域内ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラル、ニ必要ナル資格竝ニ試驗ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條　執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十七條　執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

第九十八條　裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲サ、ル場合ニ限リ裁判所ノ執行ス

前二項ニ揭ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條　執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス

執達吏ノ職務細則竝ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百條　執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章　廷丁

第百一條　廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

第百二條　廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用ヰルコトヲ得

第三編　司法事務ノ取扱

第一章　開廷

第百三條　開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第百四條　訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第百五條　裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第百六條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第百七條　裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記錄ニ記入ス

第百八條　開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百九條　裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ揭ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以內ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スコトヲ得

第百十條　前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一　裁判所ハ閉廷ヲ待タスシテ本條ノ罰スルコトヲ得

第二　違犯者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第百十一條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十二條　裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ處合ニ於テノ異議ハ二十四時以內ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル裁判所ニ於テハ上告ヲ許サス

第百十三條　第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第百十四條　判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章　裁判所ノ用語

第百十五條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ申日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヰルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

第百十六條　通事ノ任命及使用竝ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百十七條　通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラルヽコトヲ得

第百十八條　外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章　裁判ノ評議及言渡

第百十九條　合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第百二十條　四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十一條　判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末竝ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十二條　評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第百二十三條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル金額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ其ノ說各〻過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三說以上ニ分レ各〻過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百二十四條　判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程

第百二十五條　裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及檢事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域內ノ裁判所及檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及檢事局ノ開廳時間及開廷ノ時日ニ付訓令ヲ發ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章　司法年度及休暇

第百二十六條　司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第百二十七條　（削除）

第百二十八條　（削除）

第百二十九條　（削除）

第百三十條　（削除）

第六章　法律上ノ共助

第百三十一條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

法律上ノ輔助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百三十二條　檢事局モ亦各自ノ管轄區域內ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第百三十三條　裁判所書記課モ亦其ノ權內ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權內ノ事件ニ付互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第四編　司法行政ノ職務及監督權

第百三十四條　合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第百三十五條　司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一　司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ

監督ス

第二　大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三　控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四　地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五　區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六　檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七　檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第八　檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第百三十六條　前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一　官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ竝ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二　官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ警告スル事

但シ此ノ警告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第百三十六條ノ二　合議裁判所長檢事總長檢事長檢事正ハ其ノ監督ニ屬スル判事若ハ檢事ヲシテ司法行政事務ノ一部分ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第百三十七條　第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第百三十八條　裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第百三十九條　前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ滿足セシムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第百四十條　司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滯若ハ拒絶ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第百四十一條　裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第百四十二條　司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第百四十三條　此ノ編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附則

第百四十四條　此ノ法律ノ施行ニ關ル規程竝ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ牴觸スト雖モ當分ノ内仍ホ效力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

附則（明治四十一年法律第三十號）

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ提起シタル訴訟ハ本法ニ依リ他ノ裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノト雖モ受訴裁判所之ヲ裁判スヘシ

本法施行後重禁錮又ハ輕禁錮ニ處スヘキ罪ノ裁判權ニ付テハ重禁錮ヲ懲役ト看做シ輕禁錮ヲ禁錮ト看做ス

附則（大正十四年法律第五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十四年勅令第二百五十一號ヲ以テ同年七月十日ヨリ施行ス）

本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ニ付テハ管轄ニ關スル從前ノ規定ヲ適用ス但シ本法ニ依リ其ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル司法省參事官ノ本法施行前ニ於ケル在職ハ裁判所構成法第六十九條乃至第七十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ判事ノ在職ト看做ス

裁判所構成法施行條例

（明治二十三年三月十九日法律第二十二號）

改正、明治四一一法律三一

朕裁判所構成法施行條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

裁判所構成法施行條例

第一條　從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條　始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ檢事局トス控訴院大審院ノ檢事局モ亦同シ

第三條　區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモノトス

第四條　裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條　裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキモ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事刑事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條　裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條　裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル郡長區長戶長又ハ市長町長村長ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條　裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ

第九條　明治十八年第三十一號布告遠警罪卽決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十條　明治十八年第十二號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交涉ノ件處分法ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十一條　明治二十一年勅令第六十四號ハ仍

效力ヲ有ス

區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

北海道及島嶼ニシテ區判判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委任シテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十二條　東京地方裁判所管内小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條　沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ長崎控訴院ノ管轄トス

第十四條　（削除）

第十五條　明治二十一年勅令第七十一號清國竝ニ朝鮮國駐在領事裁判規則ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十六條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ必要トセス

第十七條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件ヲ必要トセス

第十八條　裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得

明治十七年太政官達第百二號判事登用規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試驗ヲ要セシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第十九條　裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條　三年以上裁判官又ハ檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上法制局參事官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法省高等官（會計局ノ高等官ヲ除ク）ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條　裁判所構成法第二編第二章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

司法事務共助法

（明治四十四年三月三十日法律第五十二號）

改正、大正一一一法律二三

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル司法事務共助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

司法事務共助法

第一條　內地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域ニ於テ司法事務ヲ取扱フ官廳間ノ司法事務ノ共助ハ本法ニ依ル

第二條　司法事務ヲ取扱フ官廳ハ民事及刑事ニ關シ相互ニ左ノ事項ヲ囑託スルコトヲ得

一　訴訟書類ノ送達

二　證據調

三　令狀ノ發付及執行

四　犯罪ノ搜査

第三條　民事ノ判決ハ其ノ執行力アル正本ニ基キ司法事務ヲ取扱フ他ノ官廳ノ管轄區域內ニ於テ其ノ强制執行ヲ爲スコトヲ得但シ執行地ノ法令ニ依リ許スヘカラサル請求ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ假差押又ハ假處分ノ命令ノ執行ニ之ヲ準用ス

第四條　刑事ノ判決ハ謄本ヲ送付シテ其ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得但シ死刑又ハ笞刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ囑託ニ依ル執行ニ付テハ刑名同シキモノハ之ヲ同一ノ刑ト看做シ舊韓國法規ノ流刑又ハ禁獄ハ之ヲ禁錮ト看做ス

第五條　前條ノ規定ニ依リテ囑託ヲ受ケタル

官廳ハ其ノ管轄區域內ノ監獄ニ於テ刑ノ執行ヲ繼續スルコト能ハサル事由ヲ生シタルトキハ囑託ヲ爲シタル官廳ニ其ノ管轄區域內ノ監獄ニ於テ繼續シテ之ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第六條　司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年勅令第二百六十七號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行ス）

司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル件

（明治四十四年十月廿四日勅令第二六八號）

改正、大正一一一勅令八〇

朕司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　司法事務共助法ニ依ル共助ニ關スル費用ハ囑託ヲ受ケタル官廳ノ支辨トシ事宜ニ依リ關係官廳ノ協議ヲ以テ囑託ヲ爲シタル官廳ニ對シ費用ノ全部又ハ一部ヲ補償スルコトヲ得

第二條　受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル手續ハ護送地ノ規定ニ依リ其ノ費用ハ護送ヲ爲ス官廳ノ支辨トシ內地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域相互ノ間ニ於ケル航海中ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

附　則

本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

辯護士法

（昭和八年四月二十八日）
（法律第五十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル辯護士法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

辯護士法

第一章　辯護士ノ職務及資格

第一條　辯護士ハ當事者其ノ他ノ關係人ノ委囑又ハ官廳ノ選任ニ因リ訴訟ニ關スル行爲其ノ他一般ノ法律事務ヲ行フコトヲ職務トス

第二條　左ノ條件ヲ具フル者ハ辯護士タル資格ヲ有ス

一　帝國臣民ニシテ成年者タルコト

二　辯護士試補トシテ一年六月以上ノ實務修習ヲ了ヘ考試ヲ經タルコト

前項第二號ノ實務修習及考試ニ關スル事項ハ司法大臣之ヲ定ム

第三條　辯護士試補タルニハ成規ノ試驗ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ試驗ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　左ニ掲グル者ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ辯護士タル資格ヲ有ス

一　判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル者

二　三年以上專任行政裁判所長官又ハ專任行政裁判所評定官タリシ者

三　三年以上陸軍法務官又ハ海軍法務官タリシ者

第五條　左ニ掲グル者ハ辯護士タル資格ヲ有セズ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　懲戒ノ處分ニ因リ免官若ハ免職セラレタル者、本法ニ依リ除名セラレタル者又ハ辯理士法若ハ計理士法ニ依リ業務ヲ禁止セラレタル者ニシテ免官、免職、除名又ハ業務禁止後二年ヲ經過セザル者

三　禁治産者又ハ準禁治産者

四　破産者ニシテ復權ヲ得ザル者

第六條　外國ノ辯護士タル資格ヲ有スル外國人ハ相互ノ保證アルトキニ限リ司法大臣ノ認可ヲ受ケ外國人又ハ外國法ニ關シ第一條ニ規定スル事項ヲ行フコトヲ得但シ前條ニ掲グル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條第二項、第二十條及第二十三條乃至第二十六條ノ規定ハ前項ノ認可ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

司法大臣必要ト認ムルトキハ第一項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第二章　辯護士名簿

第七條　辯護士タルニハ辯護士名簿ニ登錄セラルルコトヲ要ス

第八條　辯護士名簿ハ之ヲ司法省ニ備フ

第九條　辯護士タラントスル者ハ其ノ入會セントスル辯護士會ヲ經由シテ司法大臣ニ登錄ノ請求ヲ爲スベシ

第十條　辯護士辯護士會ノ所屬ヲ變更セントスルトキハ新ニ入會セントスル辯護士會ヲ經由シテ司法大臣ニ登錄換ノ請求ヲ爲スベシ

前項ノ登錄換アリタルトキハ辯護士ハ直ニ舊所屬辯護士會ニ之ヲ屆出ヅベシ

第十一條　辯護士所屬辯護士會ヲ退會セントスルトキハ其ノ辯護士會ヲ經由シテ司法大臣ニ登錄取消ノ請求ヲ爲スベシ

第十二條　辯護士會ハ會ノ秩序又ハ信用ヲ害スル虞アル者ノ登錄若ハ登錄換ノ請求ノ進達ヲ拒絶シ又ハ退會ヲ命ズルコトヲ得

第十三條　前條ノ規定ニ依リ登錄若ハ登錄換ノ進達ヲ拒絶セラレ又ハ退會セシメラレタル者ハ司法大臣ニ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ハ場合ニ於テ司法大臣ハ審査委員會ニ諮問シテ登錄若ハ登錄換ノ請求ノ進達ヲ命ジ又ハ退會ノ命ヲ取消スコトヲ得

第十四條　審査委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　左ノ場合ニ於テハ司法大臣ハ辯護士名簿ノ登錄ヲ取消スベシ

一　辯護士國籍ヲ喪失シタルトキ

二　辯護士第五條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ

三　第十一條ノ規定ニ依リ登錄取消ノ請求アリタルトキ

四　辯護士退會セシメラレ又ハ除命セラレタルトキ

五　辯護士死亡シタルトキ

六　總會ノ決議ニ因リ辯護士會解散シタルトキ

第十六條　辯護士名簿ノ登錄、登錄換及登錄取消ハ司法大臣之ヲ其ノ辯護士所屬ノ辯護士會ニ通知スベシ

第十七條　登錄ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章　辯護士ノ權利及義務

第十八條　辯護士ノ事務所ハ所屬辯護士會ノ地域內ニ之ヲ設クベシ

辯護士ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ二個以上ノ事務所ヲ設クルコトヲ得ズ但シ他ノ辯護士事務所ニ於テ執務スルコトヲ妨ゲズ

第十九條　辯護士事務所ヲ設ケタルトキハ直ニ之ヲ司法大臣及所屬辯護士會ニ屆出ヅベシ事務所ヲ移轉シタルトキ亦同ジ

第二十條　辯護士ハ誠實ニ其ノ職務ヲ行ヒ職務ノ內外ヲ問ハズ其ノ品位ヲ保持スベシ

第二十一條　辯護士又ハ辯護士タリシ者ハ其ノ職務上知得シタル秘密ヲ保持スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ但シ他ノ法令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　辯護士ハ所屬辯護士會ノ會則ヲ遵守スベシ

第二十三條　辯護士ハ正當ノ理由アルニ非ザレバ法令ニ依リ官廳ノ命ジタル事項及會則ノ定ムル所ニ依リ所屬辯護士會ノ指定シタル事項ヲ行フコトヲ辭スルコトヲ得ズ

第二十四條　辯護士ハ左ニ掲グル事件ニ付其ノ職務ヲ行フコトヲ得ズ

一　相手方ノ協議ヲ受ケテ賛助ヲ爲シ又ハ其ノ委囑ヲ承諾シタル事件

二　相手方ノ協議ヲ受ケタル事件ニシテ其ノ協議ノ程度及方法ガ信賴關係ニ基クモノト認メラルルモノ

三　公務員トシテ職務上取扱ヒタル事件

四　仲裁手續ニ依リ仲裁人トシテ取扱ヒタル事件

第二十五條　辯護士ハ係爭權利ヲ讓受クルコトヲ得ズ

第二十六條　辯護士ハ事件ノ委囑ヲ承諾セザルトキハ速ニ其ノ旨ヲ委囑者ニ通告スベシ若遲延ヲ怠リタルトキハ之ガ爲生ジタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ

第二十七條　辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ズ但帝國議會若ハ地方議會ノ議員ト爲リ又ハ官署若ハ公署ヨリ特ニ命ゼラレ若ハ囑託セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラズ

辯護士ハ所屬辯護士會ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ商業其ノ他營利ヲ目的トスル業務ヲ營ミ若ハ之ヲ營ム者ノ使用人ト爲リ又ハ營利ヲ目的トスル法人ノ業務執行社員取締役若ハ使用人ト爲ルコトヲ得ズ

第二十八條　前條ノ規定ハ實務修習中ノ辯護士試補ニ之ヲ準用ス

第四章　辯護士會

第二十九條　辯護士會ハ法人トス

辯護士會ハ辯護士ノ品位ノ保持及辯護士事務ノ改善進步ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三十條　辯護士會ハ地方裁判所ノ管轄區域毎ニ之ヲ設立スベシ但シ辯護士會ニ屬スル辯護士三百名以上アル場合ニ於テ其ノ中百名以上ノ者ハ同一地方裁判所ノ管轄區域內ニ別ニ辯護士會ヲ設立スルコトヲ得

第三十一條　辯護士會ヲ設立セントスルトキハ會員ト爲ルベキ辯護士ハ會則ヲ定メ司法

大臣ノ認可ヲ受クベシ
辯護士會ノ設立アリタルトキハ前項ノ辯護士ハ當然舊所屬辯護士會ヲ退會シ其ノ會員ト爲ルモノトス
第十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
辯護士會會則ヲ變更セントスルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受クベシ
第三十二條　司法大臣辯護士會ノ設立ヲ認可シタルトキハ辯護士會ノ名稱、事務所ノ所在地及設立ノ年月日ヲ告示スベシ
司法大臣辯護士會ノ名稱又ハ事務所ノ所在地ノ變更ヲ認可シタルトキハ變更ノ告示ヲ爲スベシ
第三十三條　辯護士會ノ代表者ハ一人トス但シ代表者差支アル場合ニ於テ之ニ代リテ辯護士會ヲ代表スベキ者ヲ置クコトヲ妨ゲズ
第三十四條　辯護士會ハ司法大臣ノ監督ヲ受ク
第三十五條　第三十一條ニ規定スル場合ヲ除クノ外辯護士名簿ニ登錄又ハ登錄換ヲ受ケタル者ハ當然其ノ入會セントスル辯護士會ノ會員ト爲リ登錄換ヲ爲ス場合ニハ舊所屬辯護士會ヲ退會スルモノトス
第三十六條　辯護士第十一條ノ規定ニ依ル請求ニ因リテ登錄ヲ取消サレタルトキハ當然所屬辯護士會ヲ退會シタルモノトス
第三十七條　辯護士會ハ辯護士試補ノ實務修習ニ關スル規定
第三十八條　辯護士會ハ官廳ヨリ諮問ヲ受ケタル事項ニ付答申ヲ爲スベシ
辯護士會ハ司法事務ニ關シ官廳ニ建議ヲ爲スコトヲ得辯護士ノ利益ニ關スル事項ニ付亦同ジ
第三十九條　辯護士會會則ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一　名稱及事務所ノ所在地
二　會ノ代表者其ノ他ノ機關ノ組織及職務權限ニ關スル規定
三　會議ニ關スル規定
四　辯護士試補ノ實務修習ニ關スル規定
五　辯護士ノ報酬ニ關シ標準ヲ示ス規定
六　會員ノ風紀保持ニ關スル規定
七　無資力者ノ爲ニスル法律相談及訴訟扶助ニ關スル規定
八　答申及建議ノ決議ニ關スル規定
九　會員ト委囑者トノ間ニ於ケル紛議ノ調停ニ關スル規定
十　辯護士名簿ノ登錄及登錄換ノ請求ノ進退ニ關スル規定
十一　入會及退會ニ關スル規定
十二　懲戒ノ申告ニ關スル規定
十三　會費ノ徵收ニ關スル規定
第四十條　辯護士會ハ毎年定期總會ヲ開ク

辯護士會ハ必要アル場合ニ於テ臨時總會ヲ開クコトヲ得
第四十一條　辯護士會ハ總會ノ日時、場所及議題並ニ役員選擧ノ日時及場所ヲ豫メ司法大臣ニ申告スベシ
第四十二條　司法大臣ハ辯護士會ノ總會又ハ役員選擧ノ場所ニ臨席シ又ハ所部ノ官吏ヲシテ臨席セシムルコトヲ得
第四十三條　辯護士會ハ遲滯ナク總會ノ決議並ニ役員ノ就任及退任ヲ司法大臣ニ申告スベシ
第四十四條　左ノ事項ハ總會ノ決議ヲ經ベシ
一　會則ノ變更
二　豫算及決算
第四十五條　辯護士會ノ會議法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ司法大臣ハ其ノ決議ヲ取消シ、其ノ議事ヲ停止スルコトヲ得
第四十六條　辯護士會ハ辯護士ト委囑者トノ間ニ紛議ヲ生ジタルトキハ當時者ノ請求ニ因リ其ノ調停ヲ爲スコトヲ得
第四十七條　辯護士會ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ同一地方裁判所ノ管轄區域內ニ於ケル他ノ辯護士會ト合併スルコトヲ得
辯護士會合併シタルトキハ合併ニ因リテ解散シタル辯護士會所屬ノ辯護士ハ當然舊所屬辯護士會ヲ退會シ合併後存續シ又ハ合併

ニ因リテ設立シタル辯護士會ノ會員ト爲ルモノトス
第十條第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十八條　司法大臣辯護士會ノ合併ヲ認可シタルトキハ合併後存續スル辯護士會ニ付テハ變更ノ告示ヲ爲シ、合併ニ因リテ解散シタル辯護士會ニ付テハ解散ノ告示ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル辯護士會ニ付テハ第三十二條第一項ニ規定スル告示ヲ爲スベシ
第四十九條　辯護士會合併ヲ爲サントスルトキハ其ノ債權者ニ對シ異議アラバ一月ヲ下ラザル期間內ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ催告スベシ
債權者ガ前項ノ期間內ニ異議ヲ述ベタルトキハ辯護士會ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非ザレバ合併ヲ爲スコトヲ得ズ
合併ニ因リテ解散シタル辯護士會ニ屬スル權利義務ハ合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立シタル辯護士會之ヲ承繼ス
第五十條　辯護士會ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
一　總會ノ決議
二　合併
前項第一號ノ總會ノ決議ハ司法大臣ノ認可ヲ受クベシ
民法第七十三條乃至第七十六條、第七十八條乃至第八十條、第八十二條及第八十三條並ニ民法施行法第二十六條及第二十七條ノ規定ハ辯護士會ノ清算ニ關シ之ヲ準用ス
第五十一條　司法大臣ハ辯護士會ノ解散ノ告示ヲ爲スベキ議ヲ認可シタルトキハ解散ノ告示ヲ爲スベシ
第五十二條　辯護士會ハ共同シテ特定ノ事項ヲ行フ爲規約ヲ定メ司法大臣ノ認可ヲ受ケ聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第五章　懲戒

第五十三條　辯護士本法又ハ辯護士會會則ニ違反シタルトキハ檢事長ハ司法大臣ノ命ニ依リ又ハ其ヲ認可ヲ受ケテ懲戒開始ノ申立ヲ爲スベシ
辯護士會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ懲戒ヲ求ムル爲司法大臣又ハ檢事長ニ申告ヲ爲スコトヲ得
第五十四條　辯護士ノ懲戒ハ其ノ所屬辯護士會ノ地域ヲ管轄スル控訴院ニ於ケル懲戒裁判所之ヲ行フ
第五十五條　懲戒ハ左ノ四種トス
一　譴責
二　千圓以下ノ過料
三　一年以下ノ停職
四　除名
前項ノ過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス
第五十六條　懲戒ノ訴追ヲ受ケタル辯護士ハ其ノ裁判確定スルニ至ル迄辯護士會ヲ退會シ又ハ辯護士名簿ノ登錄換ヲ請求スルコトヲ得ズ
辯護士會ハ懲戒ノ訴追ヲ受ケタル辯護士ヲ退會セシムルコトヲ得ズ
第五十七條　懲戒ノ事由アリタル時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ懲戒開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ズ
第五十八條　本法ニ規定スルモノノ外懲戒ニ付テハ判事懲戒法ヲ準用ス
附則
本法ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リテ辯護士タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ資格ヲ有ス
舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ禁錮ニ處セラレタル者ハ第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス
從前ノ規定ニ依ル辯護士名簿ノ登錄ハ之ヲ本法ニ依ル辯護士名簿ノ登錄ト看做ス
本法施行ノ際現ニ辯護士會ニ加入シ居ラザル辯護士ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ三月內ニ從前ノ例ニ依リテ辯護士會ニ加入スルニ非ザレ

ハ其ノ登錄ハ效力ヲ失フ
辯護士會ニ關シテハ本法ニ依ル辯護士會成立スルニ至ル迄ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ辯護士名簿登錄及登錄換ノ請求ノ進達ニ關シテハ本法ニ依ル
本法施行ノ際現ニ存スル辯護士會ハ本法施行ノ日ヨリ六月內ニ本法ニ依ル辯護士會ヲ設立スル爲會則ヲ定メ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ
司法大臣ハ認可ヲ爲シタルトキハ辯護士會ノ名稱、事務所ノ所在地及設立ノ年月日ヲ告示スヘシ
前項ノ規定ニ依リテ辨護士會成立シタルトキハ舊辯護士會ノ會員ハ當然新辯護士會ノ會員ト爲リ舊辯護士會ニ屬シタル權利義務ハ新辯護士會之ヲ承繼ス
本法施行ノ際現ニ二個以上ノ事務所ヲ有スル辯護士ハ本法施行ノ日ヨリ六月內ニ限リ之ヲ存續スルコトヲ得

辯護士名簿登錄規則

明治二十六年四月十日
司法省令第五號

改正、明治四五一司令七

辯護士名簿登錄規則左ノ通相定ム
第一條　辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ登錄請求書ニ「辯護士法第十條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼付シ」所屬地方裁判所檢事局ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ
登錄換ヲ爲ストキモ亦同シ
第二條　地方裁判所檢事局ニ於テ登錄請求書ヲ受理シタルトキハ檢事正ハ辯護士法第二條乃至第六條ノ要件ヲ調査シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ但シ其ノ規定ニ抵觸スルモノト認メタルトキハ意見ヲ付ス可シ
第三條　辯護士名簿ノ登錄ハ司法大臣ノ命令ニ因リ地方裁判所檢事局ニ於テ之ヲ爲ス
登錄ノ取消ハ辯護士ノ請求ニ因リ又辯護士死去シタルトキハ辯護士會長ノ申告ニ因リ又辯護士法第五條ニ該當シ又ハ除名セラレタル者アルトキハ受訴裁判所檢事ノ通知ニ因リ地方裁判所檢事局ニ於テ之ヲ爲ス
第四條　辯護士名簿ニハ左ノ諸件ヲ記入ス可シ
一　辯護士ノ族稱氏名年齡
一　登錄ノ年月日
一　辯護士會加入ノ年月日
一　事務所
懲戒
第五條　地方裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其登錄ノ番號及年月日ヲ司法大臣ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知ス可シ登錄ヲ取消シタルトキモ亦同シ
第六條　辯護士名簿ニ登錄ヲ爲シタルトキ又ハ登錄ヲ取消シタルトキハ司法大臣ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
第七條　辯護士會長ハ辯護士會ニ加入シタル者ノ氏名及加入ノ年月日ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ屆出ツ可シ

裁判所構成法中改正法律

（昭和十年四月四日法律第二十九號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所構成法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
裁判所構成法中左ノ通改正ス
第二條ニ左ノ一項ヲ加フ
地方裁判所ハ必要ニ應シ之ヲ民事ノミヲ管轄スルモノ（民事地方裁判所）又ハ刑事ノミヲ管轄スルモノ（刑事地方裁判所）ト爲スコトヲ得
第六條第一項中「各裁判所」ヲ「民事地方裁判所ヲ除ク外各裁判所」ニ改メ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ニ定メタル檢事ノ權限ハ民事地方裁判所ニ關シテハ其ノ管轄區域ヲ同シクスル刑事地方裁判所ノ檢事局ノ檢事之ヲ行フ
第八條第一項中「各裁判所」ヲ「各裁判所及各檢事局」ニ改メ同條第二項ヲ削ル
第十三條ノ三　第十一條第三項第十三條及前條ニ定メタル地方裁判所長ノ權限ハ民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ控訴院長又ハ其ノ指定シタル民事地方裁判所長若ハ刑事地方裁判所長之ヲ行フ
第十九條第二項中「各地方裁判所」ヲ「民事地方裁判所及刑事地方裁判所ヲ除ク外各地方裁判所」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
民事地方裁判所及刑事地方裁判所ニ若ハ二以上ノ部ヲ設ク
第二十五條ノ三　民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テ裁判事務上必要アリト認ムルトキハ控訴院長ハ民事地方裁判所又ハ刑事地方裁判所ノ判事ニ其ノ管轄區域ヲ同シクスル刑事地方裁判所又ハ民事地方裁判所ノ判事ノ代理ヲ命スルコトヲ得
第七十一條ノ二中「關東廳法院判官又ハ關東廳法院檢察官」ヲ「關東法院判官又ハ關東法院檢察官」ニ改ム
第七十二條第二號中「郡」ヲ削ル
第八十六條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第二項中「檢事局」ヲ「區裁判所檢事局」ニ、同條第三項中「監督書記及書記長」ヲ「書記長及監督書記」ニ改ム
大審院大審院檢事局及控訴院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク控訴院檢事局地方裁判所及地方裁判所檢事局ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク
第九十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ前項ノ委任ハ民事地方裁判所長ニ對シ之ヲ爲ス
第百一條　廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ其ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク
第百三十三條中「裁判所書記課」ヲ「裁判所及檢事局ノ書記課」ニ改ム
第百三十五條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項第四號ニ定メタル地方裁判所長ノ其ノ支部及其ノ管轄區域內ノ區裁判所ニ對スル監督ノ權限ハ民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ控訴院長又ハ其ノ指定シタル民事地方裁判所長若ハ刑事地方裁判所長之ヲ行フ
第百四十二條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ニ定メタル權限ハ民事地方裁判所ニ關シテハ其ノ管轄區域ヲ同シクスル刑事地方裁判所ノ檢事局之ヲ行フ
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十八號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス）

裁判所ノ廢止及設立ニ關スル法律

（昭和十年四月四日法律第三十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所ノ廢止及設立ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
東京地方裁判所ハ之ヲ廢止ス
東京市ニ民事地方裁判所及刑事地方裁判所ヲ

設立シ民事地方裁判所ヲ東京民事地方裁判所刑事地方裁判所ヲ東京刑事地方裁判所ト稱ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十八號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス）

東京地方裁判所ニ於テ爲シタル事件ノ受理其ノ他ノ手續ハ民事事件ニ付テハ東京民事地方裁判所ニ於テ、刑事事件ニ付テハ東京刑事地方裁判所ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

辯護士法中改正法律

（昭和十年四月四日　法律第三十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル辯護士法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

辯護士法中左ノ通改正ス

第八條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ管轄區域ヲ同シクスル民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ刑事地方裁判所ニ之ヲ備フ

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項但書ノ場合ニ於テハ刑事地方裁判所所屬ノ辯護士ハ當然民事地方裁判所ノ所屬トス

第十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

辯護士會ハ地方裁判所ノ管轄區域毎ニ之ヲ設立ス可シ但シ辯護士ノ數寡少ニシテ辯護士會ヲ組織スルニ適セサルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ他ノ地方裁判所所屬辯護士ト合同シテ辯護士會ヲ設立スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十八號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス）

公證人法中改正法律

（昭和十年四月四日　法律第三十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル公證人法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

公證人法中左ノ通改正ス

第十條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ管轄區域ヲ同シクスル民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ民事地方裁判所ノ所屬トス

第四十五條第二項、第六十四條第二項、第六十七條第二項及第七十四條第二項中「地方裁判所長」ヲ「所屬地方裁判所長」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十八號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス）

執達吏規則中改正法律

（昭和十年四月四日　法律第三十二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル執達吏規則中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

執達吏規則中左ノ通改正ス

第五條ノ三　第五條及前條第一項ニ定メタル地方裁判所長ノ權限ハ管轄區域ヲ同シクスル民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ控訴院長又ハ其指定シタル民事地方裁判所長若クハ刑事地方裁判所長之ヲ行フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十八號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス）

執達吏手數料規則中改正法律

（昭和十年四月四日　法律第三十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル執達吏手數料規則中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

執達吏手數料規則中左ノ通改正ス

第十八條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但管轄區域ヲ同シクスル民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ控訴院長之ヲ定メ又ハ其指定シタル民事地方裁判所長若クハ刑事地方裁判所長控訴院長ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十八號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス）

執達吏規則

（明治二十三年七月二十五日　法律第五十一號）

改正（明治四二－法律二　大正三－法律三〇　大正八－法律四〇　大正一〇－法律二六）

朕執達吏規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

執達吏規則

第一條　執達吏ハ區裁判所ニ屬シ法律ニ從ヒ訴訟ニ關スル書類ヲ送達シ及裁判ヲ執行スルモノトス

第二條　執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ左ノ事務ヲ取扱フコトヲ得

第一　告知及催告ヲ爲スコト

第二　動產不動產ノ任意賣賣ヲ爲スコト

第三　拒證書ヲ作ルコト

第三條　執達吏ハ法律規則ニ定メタル職務ノ外裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ニ關スル事務殊ニ左ノ事務ヲ取扱フノ義務アリ

第一　書類物品ノ送付ヲ爲スコト

第二　罰金科料過料ヲ徵收シ及沒收物品ヲ取上ケ若クハ賣却スルコト

第三　令狀ノ執行ヲ爲スコト

第四條　執達吏ハ所屬區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ノ監督ヲ受ク

他ノ判事又ハ檢事ニシテ職務上事務ヲ命シタルトキハ其事務ニ限リ執達吏ニ對シ監督權ヲ有ス

第五條　執達吏ハ所屬區裁判所ノ管轄區域內ニ於テ地方裁判所長ノ指定シタル地ニ役場ヲ設クヘシ

第五條ノ二　區裁判所又ハ其出張所ノ所在地ニ執達吏ナキ場合ニ於テハ地方裁判所長ハ其管轄內ノ執達吏ニ役場ノ出張所ノ設置ヲ命シ又ハ裁判所書記ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

裁判所書記カ執達吏ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ第十一條ニ揭クル者其他適當ト認ムル者ニ臨時其職務ハ執行ヲ委任スルコトヲ得

「ムヘシ」

第六條　執達吏ハ其役場ノ所在地ニ住居ヲ定ム

第七條　一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ裁判所及檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ委任スヘキ事務トヲ各執達吏ニ分配スヘシ此分配ハ成ルヘク土地ノ區域ニ從フヘシ

事務分配ハ每司法年度ノ終ニ於テ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事前以テ之ヲ定ム

執達吏ノ爲シタル事務ハ事務分配上其事務他ノ執達吏ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其效力ヲ失フコトナシ

第八條　執達吏ハ左ノ場合ニ於テハ其職務ノ施行ヨリ除斥セソルヘシ

第一　自己又ハ其婦カ當事者若クハ被害者タルトキ又ハ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者ト共同權利者共同義務罹者若クハ償還義務者タルノ關係ヲ有スルトキ

第二　自己又ハ其婦カ當事者ノ一方若ク

ハ雙方又ハ被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ

第三　自己カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ法律上代理人ト爲ルノ權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタル片

第九條　執達吏ハ民事訴訟ニ付テ其婦又ハ自己若クハ其婦ノ親族ノ爲ニノミ訴訟代理人及輔佐人トシテ法廷ニ出ルコトヲ得但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ

第十條　執達吏ハ其職務ヲ行フヘキ命令若クハ委任ヲ受クルトキハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　執達吏ハ特別ノ命令若クハ委任ヲ受ケタル場合ノ外自己ノ責任ヲ以テ左ニ掲クル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第一　執達吏ノ登用試驗ニ及第シタル者

第二　執達吏ノ職務修習者ニシテ三箇月以上其職務ヲ修習シタル者

第三　裁判所書記ノ登用試驗ニ及第シタル者

第四　區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行フニ適當ト認メタル者

第十二條　執達吏正當ノ理由アリテ其職務ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ之ヲ委任スルコトヲ得サルトキハ命令ヲ爲シタル裁判所及檢事局又ハ委任ヲ爲シタル本人ニ速ニ其旨ヲ通知スヘシ

委任ヲ爲シタル本人ニ通知スルコト能ハサルトキ又ハ急速ノ處分ヲ要スルトキハ其旨ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ申立ツヘシ

第十三條　前條ノ場合其他執達吏差支アルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ第十一條ニ掲クル者ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルヿヲ得

第十四條　執達吏又ハ臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者其職務ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ區裁判所ノ交付シタル證票ヲ携帶スヘシ

第十五條　執達吏ハ裁判所書記ヲ經タルト否トヲ問ハス委任ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ク定規ノ手數料ヲ增減シ又ハ手數料執達吏ハ定規ノ手數料ヲ受クルコトヲ得及立替金ノ外報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　執達吏第三條ニ掲クル職務ヲ行フニ付テハ立替金ノ外手數料ヲ受クルコトヲ得ス但罰金、科料、過料追徵金及公訴ニ關スル訴訟費用ノ裁判ノ執行ニ付テハ前條ノ例ニ依ル

第十七條　執達吏第十一條ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ爲シタルトキハ其委任ヲ受ケタル者ニ報酬トシテ手數料十分ノ三以上ヲ支給スヘシ

第十七條ノ二　第五條ノ二第二項ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者ニハ執達吏ノ受クヘキ手數料ノ十分ノ七以上ヲ支給ス

第十八條　第十三條ノ場合ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其職務ニ付定メタル手數料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ク

第十九條　執達吏一年間ニ收入セシ手數料六百圓ニ充タサルトキハ國庫ヨリ其不足額ヲ支給ス

第二十條　執達吏死亡シタルトキ又ハ停職免職若クハ勾留セラレタルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

第一　官印帳簿其他職務ニ關スル書類ヲ區裁判所ニ差出サシムルコト

第二　執達吏職務上保管シタル物品及書類ノ保全ニ必要ノ手續ヲ爲スコト

第二十一條　執達吏ハ官吏恩給法ニ照シ恩給ヲ受ク其恩給年額ハ第十九條ニ定メタル金額ヲ俸給額ト看做シテ算定ス

第二十二條　執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル

附則（大正十年法律第二十六號附則）

本法ハ大正十年分ヨリ之ヲ適用ス但シ執達吏

規則第二十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ大正九年八月一日以後恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタルモノニ付之ヲ適用ス

執達吏手數料規則

（明治二十三年七月二十五日法律第五十二號）

改正（明治四二—法律三　明治四四—法律五四　大正三—法律三一）

朕執達吏手數料規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

執達吏手數料規則

第一條　封達吏ハ此規則ニ從ヒ手數料ヲ受ク

第二條　書類送達ノ手數料ハ一通ニ付七錢トス

第三條　有體動產及未タ土地ヨリ離レサル果實竝爲替證劵其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證劵ノ差押、假差押ニ付テノ手數料ハ左ノ區別ニ從フ

執行スヘキ債權額　手數料

貳拾圓マテ　四十錢

五拾圓マテ　六拾錢

百圓マテ　九拾錢

貳百五拾圓マテ　壹圓貳拾錢

五百圓マテ　壹圓五拾錢

千圓マテ　壹圓八拾錢

千圓ヲ超ユルトキハ貳圓四拾錢トス

假差押ヲ爲シタル物ニ對スル差押ニ付テノ手數料ハ前項ノ手數ノ半額トス

若シ執務三時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ本條ニ定メタル手數料ノ十分ノ三ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第四條　執達吏差押、假差押ヲ爲スヘキ場所ニ臨ムト雖差押フヘキ物ナキトキ又ハ差押フヘキ物ヲ換價スルモ强制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ前條ニ定メタル手數の半額ヲ受ク

第五條　民事訴訟法第五百五十六條第二項、第五百八十六條第二項、第六百十五條ノ場合及既ニ差押、假差押ニ著手シタル執達吏ノ死亡若クハ其他ノ理由ニ依リ委任ノ消滅シタルトキ物ヲ換價スル爲其委任ヲ引受ケタル場合ニ於テハ執達吏ハ第三條ニ定メタル手數料ノ半額ヲ受ク

第六條　特定ノ動產又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ債務者ヨリ取上ケ之ヲ債權者ニ引渡ス場合ニ於テハ其手數料ヲ壹圓トス若シ執務二時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ貳拾錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖引渡スヘキ物ナキトキハ前項ニ定メタル手數料ノ半額ヲ受ク

第七條　民事訴訟法第七百三十一條第一項ノ場合又ハ民事訴訟法第七百三十三條第一項ノ決定ニ基キ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ執務三時間以內ハ手數料ヲ壹圓トス若シ其執務三時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ貳拾錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖船舶アラサルトキハ前項ニ定メタル手數料ノ半額ヲ受ク

第七條ノ二　前二條ノ規定ハ假處分ノ執行ノ手數料ニ之ヲ準用ス

第八條　民事訴訟法第六百四十三條第三項ニ依リ不動產ノ取調ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條ニ定メタル區別ニ從ヒ其手數料ヲ受ク

第九條　動產不動產及船舶ノ競賣ニ付テノ手數料ハ左ノ區別ニ從フ

競賣金額　手數料

貳拾圓マテ　七拾錢

五拾圓マテ　壹圓貳拾錢

百圓マテ　壹圓八拾錢

貳百五拾圓マテ　貳圓四拾錢

五百圓マテ　參圓

千圓マテ　四圓五拾錢

以上千圓毎ニ壹圓ヲ加フ但千圓ニ滿タサルモ千圓ト看做シテ算定ス

任意競賣ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十條　執達吏執行ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル以前ニ民事訴訟法第五百五十號ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ强制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ强制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手數料ノ十分ノ三ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手數料ヲ四拾錢トス

第十一條　執達吏執行ヲ爲スヘキ場所ニ臨ミタル後民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ强制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ强制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手數料ノ半額ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手數料ヲ六拾錢トス

第十二條　第三條乃至第十一條ノ手數料ヲ受クヘキ行爲ニハ强制封行ノ場合ニ於ケル左ノ行爲ヲ包含ス

第一　警察上ノ援助ヲ求メ又ハ證人鑑定人ノ立會ヲ爲サシムルコト

第二　執行行爲ニ關ル催告其他ノ通知ヲ爲シ又ハ書類ノ送達ヲ爲スコト

第三　記名證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ及必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スコト

第四　支拂其他ノ給付、差押金錢及賣却金ヲ受取リ、交付シ若クハ供託シ又ハ受取證書ヲ交付シ又ハ差押物ヲ還付スルコト

第五　競賣ノ公告ヲ爲スコト

執達吏ハ立替金トシテ左ノ費用ノ

第十三條　辨濟ヲ受ク

第一　書記料

第二　郵便料、電信料

第三　公告料

第四　證人、鑑定人ノ手當

第五　職工、役夫ノ手當

第六　有價證券ノ記名書換及流通ヲ止メタル證券ノ流通ヲ回復スル爲ノ費用

第七　人及物ノ送致ノ費用

第八　物ノ保存並監視ノ費用

第九　果實收穫ノ費用

第十　旅費宿泊料

前條ノ書記料ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ受ク

第一　法律ニ依リ又ハ利害關係人ノ求ニ依リ證書及記錄中ニ存スル書類ノ謄本ヲ作リタルトキ但法律ニ依リ交付スヘキ送達證書ノ謄本ハ此限ニ在ラス

第二　供託ヲ爲スニ際シ執行裁判所ニ差出スヘキ屆書ヲ作リタルトキ

第三　差押命令ノ送達後第三債務者ノ爲ス陳述ヲ筆記シタルトキ

書記料ハ半枚十二行廿字詰ニ付參錢トス但十二行ニ滿タサルモ半枚ト看做シテ算定ス

第十五條　强制執行ニ關セサル告知及催告ヲ爲ストキハ其手數料拾五錢ヲ受ク

第十六條　拒絕證書ヲ作成スル場合ニ於テハ其手數料ヲ五拾錢トス若シ執務一時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ貳拾錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第十六條ノ二　執行記錄其他ノ書類ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ既濟ノ書類ニ限リ一回ニ付拾錢トス

第十六條ノ三　手數料ノ定ナキ事項ニ付テハ最類似スル事項ト同一ノ手數料ヲ受ク

第十七條　證人ニ支給スヘキ日當ハ貳拾錢以下鑑定人ニ支給スヘキ日當ハ五拾錢以下トシ執達吏土地ノ情況ニ從ヒ之ヲ支給ス若シ一里以上ノ地ヨリ呼出シタルトキハ第十八條ノ規定ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

第十八條　執達吏自己ノ役場又ハ其出張所ヨリ一里以上ノ地ニ至リ職務ヲ行フトキハ一里毎ニ拾五錢以下ノ旅費ヲ受ク但一里ニ滿タサルモ一里ト看做シテ算定ス

執達吏其職務ヲ執行スル爲宿泊ヲ要シタルトキハ一泊ニ付壹圓貳拾錢以下ノ宿泊料ヲ受ク

右旅費及宿泊料ノ額ハ控訴院長ノ認可ヲ經テ地方裁判所長之ヲ定ム

第十九條　執達吏ハ總テノ事務ヲ擔任スルニ當リ手數料及立替金ノ概算額ヲ委任者ヨリ豫納セシム若シ豫納セサルトキハ委任者ニ應セサルコトヲ得但裁判所及檢事局ノ命令ニ依ルトキ又ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ爲ニ事務ヲ擔任スルトキハ此限ニ在ラス

第二十條　執達吏ハ委任ノ終了シタル後手數料及立替金ノ辨濟ヲ受クヘキモノトス但民事訴訟法第五百五十四條ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十條ノ二　執達吏現則第十六條但書ノ場合ニ於ケル執行ノ費用ハ被徵收者ノ負擔トス

第三條乃至第五條及第八條乃至第十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外執達吏職判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ヲ行フ爲ニ要シタル立替金ハ三箇月毎ニ確定シテ之ヲ支給ス

右立替金ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第二十二條　訴訟上ノ救助ヲ付與シタル場合ニ於テハ執達吏ノ立替金ハ國庫ヨリ支辨ス但債務者ヨリ辨濟シ能ハサル場合ニ限ル

第二十條ノ二ノ場合ニ於テ被徵收者立替金ヲ辨濟スルコト能ハサルトキハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第二十三條　執達吏ハ其職務執行ニ付作リタル書類ノ正本又ハ謄本ニ手數料及立替金ノ額ヲ附記スヘシ又執務時間ニ應シ其辨濟ヲ受クヘキトキハ謂書ニ其執務時間ヲ附記スヘシ若シ之ヲ附記セサルトキハ最短ノ時間ニ付テ定メタル金額ヲ以テ算定ス

附則（明治四十四年法律第五十四號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年勅令第百七號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス）

本法施行ノ際未タ完結セセル事項ニ付テノ手數料及立替金ハ仍從前ノ規定ニ依ル

執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル法律

（大正八年四月五日法律第四十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

執達吏手數料規則ニ依ル手數料及立替金ニ付テハ當分ノ內勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ百分ノ五十以內ヲ增額スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年勅令第百九十二號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ス）

大正八年法律第四十一號ニ依ル執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル件

（大正八年五月十二日勅令第百九十三號）

朕大正八年法律第四十一號ニ依ル執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　大正八年法律第四十一號ニ依ル執達吏ノ手數料及立替金ノ增加額ハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外百分ノ五十トス但シ特別ノ事情アル地域ニ付テハ司法大臣ハ百分ノ五十以內ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二條　執達吏手數料規則第二條ノ手數料ハ三錢、第十四條ノ書記料ハ一錢、第十五條及第十六條ノ二ノ手數料ハ五錢ヲ增加ス

第三條　執達吏手數料規則第六條乃至第七條ノ二及第十六條ノ手數料ハ百分ノ五十ヲ增加ス

第四條　執達吏手數料規則第十七條及第十八

條ノ日當旅費及宿泊料ハ百分ノ五十ヲ增加ス

附則

本令ハ大正八年六月一日ヨリ施行ス

司法代書人法（大正八年四月十日法律第四八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル司法代書人法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

司法代書人法

第一條　本法ニ於テ司法代書人ト稱スルハ他人ノ囑託ヲ受ケ裁判所及檢事局ニ提出スヘキ書類ノ作製ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條　司法代書人ハ地方裁判所ノ所屬トス

第三條　司法代書人ハ地方裁判所長ノ監督ヲ受ク

地方裁判所長ハ區裁判所判事ヲシテ司法代書人ニ對スル監督事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第四條　司法代書人タルニハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條　司法代書人ハ地方裁判所長ノ定ムル書記料ヲ受ク

第六條　司法代書人ハ事務所ヲ設ケ地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條　司法代書人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　司法代書人ハ當事者ノ一方ノ囑託ニ依リテ取扱ヒタル事件ニ付キ相手方ノ爲ニ書類ノ作製ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　司法代書人ハ其ノ業務ノ範圍ヲ超エテ他人間ノ訴訟其ノ他ノ事件ニ關與スルコトヲ得ス

第十條　司法代書人ハ其ノ取扱ヒタル事件ヲ漏泄スルコトヲ得ス但シ裁判所又ハ檢事局ニ於テ訊問ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第十一條　司法代書人其ノ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ地方裁判所長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ左ニ掲クル處分ヲ爲スコトヲ得

一　業務ノ禁止又ハ停止

二　五百圓以下ノ過料

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ノ處分ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年勅令第二百八十七號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行ス）

司法代書人法施行細則（大正八年六月十一日司法省令第九號）

改正、大正一〇—司令六

司法代書人法施行細則左ノ通相定ム

第一條　司法代書人タルノ認可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ住所、族稱、氏名、年齡及履歷竝事務所ノ位置ヲ具シ所屬地方裁判所長ニ願書ヲ差出スヘシ

第二條　司法代書人事務所ヲ移轉セムトスルトキハ新事務所ノ位置ヲ具シ所屬地方裁判長ニ願出ツヘシ

第三條　司法代書人事務所ヲ設ケ又ハ之ヲ移轉シタルトキハ遲滯ナク之ヲ所屬地方裁判所長ニ屆出ツヘシ

第四條　司法代書人ハ其ノ事務所ニ何地方裁判所長認可司法代書人某事務所ト記載シタル表札ヲ揭クヘシ

第五條　司法代書人ハ所屬地方裁判所長ノ定ムル樣式ニ從ヒ業務上使用スヘキ印章ヲ作リ其ノ印鑑ニ氏名ヲ自署シ之ヲ所屬地方裁判所長ニ差出スヘシ

第六條　司法代書人ハ事務所內賭易キ場所ニ書記料額ヲ揭示スヘシ

第七條　司法代書人ハ事件簿ヲ調製シ之ニ囑託ヲ受ケタル年月日、件名、囑託人ノ氏名住所、作製シタル書類ノ紙數及書記料ヲ記載スヘシ

第八條　司法代書人ハ其作製シタル書類ノ末尾ニ書記料ノ額ヲ附記シ署名、捺印スヘシ

第九條　司法代書人廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ家族又ハ同居者ヨリ遲滯ナク其ノ旨ヲ所屬地方裁判所長ニ屆出ツヘシ

第十條　地方裁判所長ハ司法代書人名簿ヲ備ヘ之ニ所屬司法代書人ノ住所、族稱、氏名、年齡及事務所ヲ記載スヘシ

第十一條　地方裁判所長司法代書人ノ書記料ヲ定メタルトキハ控訴院長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十二條　地方裁判所長司法代書人ノ監督ニ關スル規程ヲ設ケタルトキハ控訴院長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十三條　地方裁判所長ハ司法代書人ノ行狀及業務ノ取扱ニ關シ訓諭スルコトヲ得

第十四條　地方裁判所長ハ司法代書人ノ保存スル事件簿其ノ他ノ書類ヲ檢閱シ若ハ其ノ提出ヲ命シ又ハ其ノ指定シタル官吏ヲシテ之ヲ檢閱セシムルコトヲ得

第十五條　司法代書人業務ノ禁止又ハ停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ其表札ヲ撤去スヘシ

附則

本令ハ大正八年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

行政裁判法（明治二十三年六月三十日法律第四十八號）

改正、大正五—法律三七

朕行政裁判法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

行政裁判法

第一章　行政裁判所組織

第一條　行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條　行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　長官ハ親任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ卅歲以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ任命セラルヽモノトス

書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條　長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一　公然政事ニ關係スルコト

二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト

三　兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四　商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條　第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルヽコトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ內閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條　長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條　長官ハ自ラ裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條　行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ

除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半數ニ依ル

第十條　長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一　裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二　裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三　裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ

第十一條　前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條　忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條　行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章　行政裁判所權限

第十五條　行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條　行政裁判所ハ損害要償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ內閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ內閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條　行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條　行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條　行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條　行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章　行政訴訟手續

第二十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以內ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スヿヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遲延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁裁所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條　行政訴訟ハ書面ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條　訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一　原告ノ身分、職業、住所、年齡

二　被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三　要求ノ事件及其理由

四　立證

五　年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書竝ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條　訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條　行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條　行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十九條　行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條　行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所內ニ於テ之ヲ閲覽セシムルコトヲ得

第三十一條　行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其效力ヲ有ス

第三十二條　行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

「スヘシ」代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明

第三十三條　行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スヿヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スヿヲ得

第三十四條　審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡サヽル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若クハ新ニ證憑ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第三十五條　主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條　行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條　公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條　行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ竝ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡サヽル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ證證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條　行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條　審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條　召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ「訴訟用印紙」ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條　行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得

第四章　附則

第四十四條　此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條　第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條　從前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條　此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍從前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件

（明治二十三年十月十日法律第百六號）

朕行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

一　海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件

二　租稅滯納處分ニ關スル事件

三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四　水利及土木ニ關スル事件

五　土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

行政裁判所令

（大正二年六月十四日勅令第百三十三號）

朕行政裁判所令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　行政裁判所ニ三部ヲ置ク

行政裁判所長官ハ各部ニ屬スヘキ事務ノ分配ヲ定ム

第二條　部ニ部長ヲ置ク

長官ハ一ノ部ノ長ト爲ル

他ノ部長ハ勅任官タル行政裁判所評定官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第三條　部長ハ裁判長ト爲リ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四條　長官ハ部長及評定官ノ部屬ヲ定ム

第五條　部長故障アルトキハ其ノ部ノ評定官行政裁判法第七條第二項ノ順序ニ依リ之ヲ代理ス

評定官故障アル場合ニ於テ之ヲ代理スヘキ者ハ長官隨時之ヲ定ム

第六條　部長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲其ノ部ノ評定官ニ專理ヲ命スルコトヲ得

專理評定官ハ口頭審問ヲ爲ス前及合議ノ際部長及他ノ評定官ニ對シ訴訟ノ事實證憑及爭點ニ付說明ヲ爲スヘシ

第七條　判決ハ審問終結シタル期日又ハ其ノ期日ヨリ十四日內ニ之ヲ言渡スヘシ

第八條　裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟記錄ニ之ヲ記入セシム

第九條　行政裁判所ノ總會ハ評定官總員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

總會ノ決議ハ出席評定官ノ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　總會ハ長官之ヲ召集ス

長官ハ總會ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十一條　合議ノ際各評定官意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同シキトキハ年少ノ者ヲ始トシ專理ヲ命シタル事件ニ付テハ專理評定官ヲ始トス

第十二條　評定官ハ決議スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　法規ノ解釋ヲ一定シ又ハ判例ヲ變更スル必要アリト認ムルトキハ長官之ヲ總會ノ議ニ付ス

第十四條　書類ノ送達ハ使丁若ハ郵便ヲ以テシ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第十五條　行政裁判所ハ其ノ職權ニ屬スル事項ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十六條　本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日リリ之ヲ施行ス

行政裁判所處務規程及明治三十四年勅令第七十二號ハ之ヲ廢止ス

訴願法

（明治二十三年十月十日法律第百五號）

朕訴願法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

一　租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件

二　租稅滯納處分ニ關スル事件

三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四　水利及土木ニ關スル事件

五　土地ノ官民有區分ニ關スル事件

六　地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條　訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條　各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條　裁判所ノ裁判各省ノ裁判及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條　訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條　訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條　多數ノ人員共同シテ訴願セムトスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條　行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルヿヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條　法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ違法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條　訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條　第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ對決スル行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條　訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スル片亦同シ

第十五條　訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ

訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十六條　上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條　訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附　則

第十八條　明治十五年十二月第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セムトスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條　第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス

司法代書人法中改正法律

（昭和十年四月四日法律第三十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル司法代書人法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

司法代書人法中左ノ通改正ス

「司法代書人法」ヲ「司法書士法」ニ改ム

第一條、第四條及第七條乃至第十條中「司法代書人」ヲ「司法書士」ニ改ム

第二條中「司法代書人」ヲ「司法書士」ニ改メ同條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ管轄區域ヲ同シクスル民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ民事地方裁判所ノ所屬トス

第三條、第五條、第六條及第十一條中「司法代書人」ヲ「司法書士」ニ、「地方裁判所長」ヲ「所屬地方裁判所長」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十八號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス）

司法代書人法施行細則中改正

（昭和十年四月九日司法省令第二十號）

司法代書人法施行細則中左ノ通改正ス

「司法代書人法施行細則」ヲ「司法書士法施行細則」ニ改ム

第一條乃至第三條、第五條乃至第九條、第十一條、第十二條及第十五條中「司法代書人」ヲ「司法書士」ニ改ム

第四條中「司法代書人」ヲ「司法書士」ニ、「司法代書人某事務所」ヲ「司法書士某事務所」ニ改ム

第十條中「司法代書人名簿」ヲ「司法書士名簿」ニ、「所屬司法代書人」ヲ「所屬司法書士」ニ改ム

第十三條及第十四條中「司法代書人」ヲ「所屬司法書士」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和十年法律第三十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十年勅令第八十八號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス）

朝鮮總督府裁判所令

（明治四二年一〇月一八日勅令第二二三六號）

改正
明治四三・一・一制令五
明治四四・一・一制令九
明治四四・一・一制令四
明治四五・一・一制令四
大正二・一・一制令四
大正九・一・一制令三
大正十・一・一制令二六
大正十一・一・一制令一二
昭和四・一・一制令八
昭和五・一・一制令七

第一條　朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直屬シ朝鮮ニ於ケル民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　朝鮮總督府裁判所ヲ分チテ地方法院覆審法院及高等法院トス

朝鮮總督府裁判所ノ設置、廢止及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

朝鮮總督府裁判所ニ朝鮮總督府判事ヲ置ク

第三條　地方法院ハ民事及刑事ニ付第一審裁判ヲ行ヒ且非訟事件ニ關スル事務ヲ取扱フ

覆審法院ハ地方法院ノ裁判ニ對スル控訴及抗告、高等法院ハ地方法院及覆審法院ノ裁判ニ對スル上告竝覆審法院ノ裁判及地方法院ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ニ付裁判ヲ行フ

高等法院ハ前項ノ外裁判所構成法ニ定メタル大審院ノ特別權限ニ屬スル職務ヲ行フ

第四條　地方法院ハ判事單獨ニテ裁判ヲ爲スヲ原則トス

但シ左ニ掲クル事件ニ付テハ三人ノ判事ヲ以テ組織シタル部ニ於テ合議シテ裁判ヲ爲ス

一　訴訟物ノ價額千圓ヲ超過スル民事事件

二　人事ニ關スル訴訟事件

三　刑法第七十四條及第七十六條ノ犯罪事件

四　死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル犯罪事件但シ刑法第二百三十六條、第二百三十八條、第二百三十九條ノ罪及其ノ未遂罪竝ニ昭和五年法律第九號第二條及第三條ノ罪ニシテ豫審ヲ經サルモノヲ除ク

五　短期一年ニ滿タサル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル犯罪ニシテ豫審ヲ經タルモノ

六　前三號ノ共犯事件但シ前三號ノ事件トシテ同時ニ審判スル場合ニ限ル

七　判事ニ對スル除斥及忌避ノ事件

登記事務ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

覆審法院ハ三人ノ判事、高等法院ハ五人ノ判事ヲ以テ組織シタル部ニ於テ合議シテ裁判ヲ爲ス

高等法院ノ或部ニ於テ上告ヲ審問シタル後從來ノ判決例ニ異ナリタル意見ヲ有スルトキハ其ノ部ハ之ヲ高等法院長ニ報告シ高等法院長ハ各部ヲ聯合シテ更ニ之ヲ審問シ及其ノ裁判ヲ爲サシム此ノ場合ニ於テハ判事ノ三分ノ二以上列席スルコトヲ要ス

第五條　朝鮮總督ハ地方法院ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲地方法院ノ支廳ヲ設置スルコトヲ得

第六條　朝鮮總督ハ地方法院ノ判事ノ一人又ハ數人ニ刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第七條　第三條第三項ノ場合ニ於テハ高等法院長ハ各別ノ事件ニ付其ノ院ノ判事又ハ下級裁判所ノ判事ニ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第八條　朝鮮總督ハ特別ノ必要アリト認ムルトキハ一ノ地方法院ニ屬スル刑事訴訟事件ヲ他ノ地方法院ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第九條　朝鮮總督府裁判所ニ檢事局ヲ竝置ス

地方法院支廳ヲ設置シタルトキハ其ノ支廳ニ檢事分局ヲ竝置ス

檢事局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ朝鮮ニ於ケル檢察事務ヲ掌ル

檢事局ノ管轄區域ハ之ヲ竝置シタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

檢事局ニ朝鮮總督府檢事ヲ置ク檢事ハ勅任又ハ奏任トス

檢事ハ檢察事務ニ付上官ノ命令ニ從フヘシ

第十條　朝鮮總督府裁判所ニ書記ヲ置ク書記ハ判任トス

書記ハ裁判所及檢事局ニ附屬ス

第十一條　朝鮮總督府裁判所ニ通譯官又ハ通譯生ヲ置ク通譯官ハ奏任、通譯生ハ判任トス

通譯官及通譯生ハ裁判所及檢事局ニ附屬ス

第十二條　高等法院ニ高等法院長ヲ置ク

高等法院長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ院ノ行政事務ヲ掌理シ下級裁判所ノ行政事務ヲ指揮監督ス

第十三條　覆審法院ニ覆審法院長ヲ置ク

覆審法院長ハ其ノ院ノ行政事務ヲ掌理シ管轄區域內地方法院ノ行政事務ヲ指揮監督ス

第十四條　地方法院ニ地方法院長ヲ置ク

地方法院長ハ其ノ院ノ行政事務ヲ掌理ス

第十五條　地方法院支廳ノ判事ハ地方法院長ノ命ヲ承ケ其ノ支廳ノ行政事務ヲ掌ル

判事二人以上アルトキハ上席ノ判事前項ノ職務ヲ行フ

第十六條　高等法院、覆審法院及地方法院ノ各部ニ部長ヲ置ク

部長ハ各其ノ長官ノ命ヲ承ケ部ノ事務ヲ掌ル

第十七條　高等法院檢事局ニ高等法院檢事長ヲ置ク

高等法院檢事長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ局ノ事務ヲ掌理シ下級檢事局ヲ指揮監督ス

第十八條　覆審法院檢事局ニ覆審法院檢事長ヲ置ク

覆審法院檢事長ハ其ノ局ノ事務ヲ掌理シ管轄區域內地方法院檢事局ヲ指揮監督ス

第十九條　地方法院檢事局ニ地方法院檢事正ヲ置ク

地方法院檢事正ハ其ノ局ノ事務ヲ掌理ス

第二十條　地方法院支廳ノ檢事ハ地方法院檢事正ノ命ヲ承ケ其ノ支廳檢事分局ノ事務ヲ掌ル

檢事二人以上アルトキハ上席ノ檢事前項ノ職務ヲ行フ

第二十條ノ二　合議裁判所長、高等法院檢事長、覆審法院檢事長及地方法院檢事正ハ其ノ監督ニ屬スル判事又ハ檢事ヲシテ行政事務ノ一部分ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十條ノ三　朝鮮總督府司法官試補ヨリ新ニ朝鮮總督府判事又ハ朝鮮總督府檢事ニ任セラレタル者ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ朝鮮總督ハ闕位アル迄豫備判事又ハ豫備檢事トシテ地方法院、地方法院支廳又ハ其ノ檢事局ニ勤務セシム

第二十條ノ四　地方法院長又ハ檢事正ハ必要アル場合ニ於テハ豫備判事又ハ豫備檢事ヲシテ地方法院又ハ其ノ支廳ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第二十一條　高等法院及覆審法院ニ書記長ヲ置ク書記長ハ奏任トス

書記長ハ院長及檢事長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第二十一條ノ二　朝鮮總督府裁判所及檢事局ニ朝鮮總督府司法官試補ヲ置ク

司法官試補ハ地方法院又ハ其ノ支廳ノ判事又ハ檢事ノ監督ヲ受ケ實務ヲ修習ス

司法官試補ハ奏任官ノ待遇トス

第二十一條ノ三　司法官試補ハ其ノ修習ヲ監督スル判事ノ命令アルトキハ司法事務ヲ取扱フコトヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ裁判又ハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條ノ四　朝鮮總督ハ司法官試補ヲシテ地方法院又ハ其ノ支廳ノ檢事ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得但シ第四條第一項ノ各號ニ掲クル事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十三條　朝鮮總督府裁判所ニ判任官見習